〔財〕群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第85集

荒砥洗橋遺跡
荒砥宮西遺跡

昭和55年度県営圃場整備事業荒砥南部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

《遺物観察表編》

1989

群馬県教育委員会
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料
No. 98-5034
埋蔵文化財調査事業団保管
平成10年5月13日
01-353
408
2(7)

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第85集

荒砥洗橋遺跡
荒砥宮西遺跡

昭和55年度県営圃場整備事業荒砥南部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

《遺物観察表編》

1 9 8 9

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

荒砥荒橋遺跡

1号住居（8図、PL23）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 9.8 ㊱ 3.4 ㊳ほぼ完形	①粗砂②酸化③に ぶい橙5YR5/4	口縁部は底部から屈曲、直立ぎみに立ち上がる。先端は弱く尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。内面はていねいな撫で。	①床直。③内面に筆による刺書。
2	杯	⑪ 12.8 ㊱ 4.0 ㊳ 3/4	①粗砂②酸化③橙 5YR5/6	口縁部は弱く屈曲し緩やかに内彎する。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。内面はていねいな撫で。	①埋没土。②外面の一部に炭素吸着。
3	蓋 須恵	⑪ 13.0 ㊱ 3.3 ㊳ 完形	①細礫、細砂少量②還元③外面灰N 5/、内面灰白5Y 7/1	天井部は低く平坦である。口縁部は屈曲し外方に延びる。天井部中央には乳頭状のつまみが付されている。	右回転ロクロ成形。口縁部は横撫で。天井部には粗雑な荒削りが加えられている。	①床直。②外面と内面の一部に炭素吸着、横状を呈する。
4	脚付盤 須恵	㊱ 〈5.0〉 ㊳脚部1/4	①白色鉱物粒、黒色鉱物が発泡している②還元③灰5Y 5/1	脚部はラッパ状に外反、先端は屈曲してはねる。	右回転ロクロ成形と思われる。脚部の最上位に矩形の透孔が1箇所確認できる。	①埋没土。②盤内面と脚部の先端は磨滅して平滑になっている。
5	鎌 鉄製品	刀身の先端部分であろうか。残長は55mm、最大幅は28mmを測った。錆膨れが著しいが背の厚さは5～6mmが復元できようか。錆には軽石その他の砂粒が多く含まれている。				①埋没土。

2号住居（9図、PL23）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 10.8 ㊱ 3.7 ㊳ 完形	①粗砂②酸化③に ぶい橙7.5YR6/4	口縁部は底部から丸みをもって立ち上がり、直立する。底部は2に比してやや膨らみがある。	口縁部は横撫で。底部外面は中央を一定方向、周縁部を横方向に荒削り。内面はていねいな横撫で。	①床直。②内面磨滅。外面の一部に黒斑がある。
2	杯	⑪ 11.6 ㊱ 3.6 ㊳ 3/4	①粗砂②酸化③に ぶい橙7.5YR6/4	口縁部は底部から丸みをもって立ち上がり直立する。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。最上位に撫での部分を一部残す。	①床直。②内面磨滅。外面の一部に黒斑がある。
3	杯	⑪ 12.5 ㊱ 4.5 ㊳ 3/4	①粗砂②酸化③明赤褐5YR5/6	口縁部は弱く屈曲、直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。最上位に撫での部分を一部残す。内面は横撫で。	①＋11。
4	椀 ?	⑪ 19.0 ㊱ 7.0 ㊳ 3/4	①粗砂②酸化③に ぶい橙7.5YR6/4	口縁部は短く内彎ぎみに直立する。底部は深長で丸みを有する。	口縁部は横撫で。底部外面は上位は横方向、下位は一定方向からの荒削りである。内面はていねいな横撫で。	①埋没土。
5	蓋 須恵	⑪ 11.6 ㊱ 2.4 ㊳ 完形	①白色鉱物・黒色鉱物②還元③黄灰2.5Y 6/1	天井部は一段高く膨らみ、中央にはボタン状のつまみがつく。口縁部の内面には形骸化した弱いかえりがつく。	右回転ロクロ成形。天井部外面には一部回転を伴う荒削り調整が加えられている。	①埋没土。②外面に自然釉付着。
6	蓋 須恵	⑪ (13.8) ㊱ 2.1 ㊳ 3/4	①白色鉱物粒、黒色鉱物粒は少量②還元③黄灰2.5Y 5/1	器形は偏平であるが天井部は一段高く膨らむ。つまみは中央がへこみ、リングに近いボタン状を呈する。口縁部の内面にはかえりがつく。	右回転ロクロ成形。天井外面の一部には回転を伴う荒削り調整。口縁部とつまみの周辺は横撫で。	①埋没土。
7	蓋 須恵	⑪ (13.0) ㊱ 〈2.4〉 ㊳口縁部1/4	①黒色鉱物粒②還元③明赤褐2.5YR 5/6	天井部は丸く膨らむ。口縁部の内面にはかえりがつき、口縁部先端を結ぶ線と接する位に延びている。	左回転ロクロ成形か。天井部の一部には回転を伴う荒削りが施される。	①埋没土。②外面に自然釉が付着している。

4号住居（12図、ＰＬ23）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊐ 10.6 ㊓ 3.2 ㊙ 完形	①粗砂少量②酸化③にぶい橙５ＹＲ⅞	口縁部は底部から内弯ぎみに立ち上がる。底部内面は平面的である。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。最上位に撫での部分を残す。内面はていねいな横撫で。あるいは撫で。	①床直。③内面に刷毒。
2	杯	㊐ 12.4 ㊓ 4.3 ㊙ ⅞	①粗砂少量②酸化③にぶい橙５ＹＲ⅞	口縁部は内弯して立ち上がる。底部は深長でやや尖るか。	口縁部は横撫で。底部外面は全面を撫で調整後、中位から下位を弱い荒削り。内面はていねいな横撫で。あるいは撫で。	①＋３。③内面に刷毒。
3	杯	㊐ (11.0) ㊓ (3.1) ㊙ ⅞	①粗砂少量②酸化③橙7.5ＹＲ⅝	口縁部は底部から内弯ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。上位に撫で調整部分を残す。内面はていねいな横撫で。	①床直。②外面に黒斑。
4	杯	㊐ (11.0) ㊓ 3.2 ㊙ ⅞	①粗砂②酸化③橙2.5ＹＲ⅝	口縁部は底部から丸みをもって立ち上がり直立する。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後中位から下位を不定方向の荒削り。	①埋投土。②器面は磨滅剥離。
5	杯	㊐ (13.0) ㊓ (3.2) ㊙ ⅞	①粗砂、輝石、長石②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ⅞	口縁部は中位に稜をもって外傾する。底部との間の稜は非常に弱い。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。	①埋投土。②二次火熱を受けている。
6	鉢	㊐ 13.4 ㊓ 9.5 ㊙ ⅞	①粗砂②酸化③にぶい橙５ＹＲ⅝	深長な半球状を呈する。口縁部は短く立ち上がるが器形の歪みから直立する箇所と内弯する箇所がある。	口縁部を横撫で後、胴部を横方向に荒削り。内面はていねいな撫で。	①床直。②底部外面に黒斑。内外面とも部分的に剥離。
7	甕	㊐ 12.1 ㊓ 13.7 ㊙ 完形	①粗砂②酸化③橙５ＹＲ⅞	口縁部は短く、外反して立ち上がる。胴部は縦方向の球形を呈する。	口縁部は横撫で。胴部外面から底部は荒削り。胴部上半部を下方向から、下半部を上方向から２回に分けて施している。	①＋４。②底部外面に黒斑。器面の剥離磨滅顕著。
8	甕	㊐ 10.7 ㊓ 10.7 ㊙ほぼ完形	①粗砂、細雲母②酸化③にぶい橙2.5ＹＲ⅞	口縁部は短く弱く外反する。胴部は偏平な球形を呈する。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の荒削り。内面は幅広のていねいな撫で。	①床直。②底部外面に黒斑。③煤成後底部を穿孔かゝ。
9	杯	㊐ (10.3) ㊓ 3.5 ㊙ ⅞	①細砂少量②還元③灰白５Ｙ⅝	口縁部は斜め外方にむけて立ち上がり先端は更に外反する。底部は凸状を呈する。	右回転ロクロ成形か。底部は切り離し後、不定方向に手持ち荒削り。	①埋投土と１住埋投土が接合。
10	杯 須恵	㊐ (1.6) ㊙ 底部	①黒色鉱物粒②還元③灰白7.5Ｙ⅞	口縁部は平底の底部から斜め上方に立ち上がるか。	右回転ロクロ成形か。底部は箆切り離し後粗雑な撫で調整。	①埋投土。②自然釉付着。
11	脚付盤 須恵	㊐ (5.8) ㊙底部 ～脚部	①粗砂、長石、輝石②還元③灰白7.5Ｙ⅝	(脚)台部はラッパ状に外反する。先端は内縁が接地する。接地部分は磨滅している。	右回転ロクロ成形か。杯部は底部外面を回転を伴う荒調整。脚部と接合している。	①床直。
12	盤 須恵	㊐ (27.0) ㊓ (3.5) ㊙口縁部⅞	①長石、白色粒子②還元③灰白５Ｙ⅞	口縁部は外傾して立ち上がり、先端は内側がそげて尖る。底部は皿状を呈する。	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う荒調整後、周縁部を撫でている。	①床直。
13	紡錘車	口縁部上半の⅔ほどの破片である。口径16.0cm、残存高3.3cmである。口縁部の先端は内面が丸みをもって肥厚している。外面には非常に細い沈線が２本一単位で４本、間隔をおいて２本一単位で４本認められる。酸化膜におおわれ、全体に茶褐色をおびる。部分的に青銅が生じている。外面に細い縦方向のひび割れが生じているがこれは物理的に重量が加えられた際に生じたものであろうか。				①埋投土。

5号住居（11図、ＰＬ24）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 12.8 ㊽ 4.1 ㊾ ヲ/	①粗砂、輝石、軽石②還元ざみ③灰白10ＹＲ7/1	外傾著しく立ち上がる口縁部は先端が外側につまれる。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①埋設土と10住埋設土。②内外面の一部炭素吸着。
2	杯	⑪ (12.2) ㊽ 4.7 ㊾ ヲ/	①赤色粘土粒②酸化③橙５ＹＲ6/6	口縁部は弱く内彎して外方に立ち上がる。	左回転ロクロ成形か。底部は回転切り離し後周縁部分を撫削り調整。内面は横方向に棒状工具による磨き。	①＋３。②内面黒色処理。
3	高台付椀	⑪ (18.2) ㊽ (7.8) ㊾ 破片	①粗砂、長石、輝石②酸化③浅黄2.5Ｙ7/3	口縁部は外傾強く立ち上がるが。高台部は長く、先端は肥厚して丸みをおびる。	左回転ロクロ成形。底部は切り離し後高台取り付け。接合部分は撫で調整。	①埋設土。②器面炭素吸着。

6号住居（14図、ＰＬ24）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ (14.0) ㊽ (2.7) ㊾ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ7/4	口縁部の上半部の破片。	口縁部は撫で調整後、先端を横撫で。一部に箆削り。	①埋設土。③外面に墨書。判読不明。
2	高台付椀	⑪ (14.0) ㊽ (5.5) ㊾ ヲ/	①粗砂、長石②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ7/4	口縁部は口径に比して器高が低い。器肉は全体に厚い。	口縁部は撫で調整後下半部を中心に斜め方向の撫削り。先端は横撫で。高台取り付け後周辺を横撫で。	①竈焼成部。②内外面とも炭素吸着。
3	高台付椀	⑪ (14.5) ㊽ 5.7 ㊾ ヲ/	①粗砂②酸化③にぶい橙５ＹＲ7/4	口縁部は外傾著しく立ち上がる。高台部は小さく低い。	口縁部は撫で調整後、下半部を中心に斜め方向の箆削り。口縁部の先端と高台接合部は横撫で。	①床直。②一部に炭素吸着。内面はやや磨滅。
4	甕	⑪ (20.0) ㊽ (4.0) ㊾ 破片	①細砂②酸化③にぶい橙５ＹＲ7/3	口縁部は弱く屈曲、外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の荒削り。内面は横方向の荒撫で。	①床直。②一部に炭素吸着。

7号住居（15図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ (10.0) ㊽ (2.1) ㊾ ヲ/	①細砂、輝石②酸化③橙2.5ＹＲ7/6	口縁部は短く弱く外反する。底部は浅い。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に撫削り。	①埋設土。②底部外面に黒斑。
2	台付壺頸 恵	⑪ (3.0) ㊾ 残側下部～高台部ヲ/	①黒色鉱物粒多量②還元③灰白５Ｙ7/3	高台部は外面の中位に弱い稜をもち外傾する。	ロクロ回転調整による撫で。	①埋設土。

8号住居（16図、ＰＬ24）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ (12.8) ㊽ (4.1) ㊾ ヲ/	①粗砂少量②酸化③橙7.5ＹＲ7/6	口縁部は直立ざみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半部を不定方向に荒削り。	①床直。

2	壺	⑪ (19.9) ㊐ (5.6) ㊖口縁部¾	①細砂②酸化③にぶい褐5YR¾	口縁部は外傾弱く立ち上がる。先端は内側に弱く入る。	口縁部の横撫で後胴部を横方向に篦削り。	①床面。

9号住居（18図、ＰＬ24）

番号	器種	法量	①胎土 ②成成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②断面 ③その他
1	杯	⑪ 12.0 ㊐ 3.9 ㊖ほぼ完形	①粗砂、細礫②酸化③浅黄橙10YR¾	口縁部は内彎して斜め上方に立ち上がる。底部は不安定な平底である。	口縁部は撫で後先端を横撫で。下半は斜め上方向からの篦削り。底部外面は篦削り。	①＋８。②外面の一部に炭素吸着。③口縁部外面と底部内面に墨書「大上」。
2	杯	⑪ 13.7 ㊐ 4.3 ㊖ ¾	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR¾	口縁部は斜め上方に立ち上がる。	口縁部は撫で後先端を横撫で。その後下半を上方向から斜めに篦削り。底部外面も篦削り。	①床面。②炭素吸着。③ 外 面 に 墨 書「大上」。
3	杯	⑪ (2.2) ㊖口縁部下半～底部	①粗砂②酸化③灰白10YR¾	口縁部は斜め上方に立ち上がるか。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①＋11。②炭素吸着。③内外面に刷毒。判読不明。
4	杯	⑪ 12.9 ㊐ 4.4 ㊖ 完形	①粗砂②酸化③浅黄橙10YR¾	口縁部は外傾著しく立ち上がる。上位は指頭圧痕のためか器形が内側に入る。	口縁部外面は撫で後先端を横撫で。下位を横方向に篦削り。底部外面も篦削り。	①床面。②内外面とも炭素吸着。
5	高台付椀	⑪ 14.4 ㊐ 6.1 ㊖ ¾	①粗砂、細礫②酸化③浅黄橙10YR¾	口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。先端に弱い稜をもって外傾の度合を変える。高台部はハの字状に外反する。	口縁部外面の先端は横撫で。以下は横、斜め方向の篦削り。内面は口縁部を横方向、底部を一方向に棒状工具による磨きで充填している。	①床面。②内面黒色処理。
6	高台付椀	⑪ (2.4) ㊖口縁部下位～高台部	①粗砂少量②酸化③灰白7.5Y¾	高台部は低くハの字状に外傾する。接地面は内縁である。	右回転ロクロ成形か。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。	①＋３。
7	杯	⑪ (14.8) ㊐ 4.3 ㊖ ¾	①粗石多量②還元ぎみ③灰白2.5Y¾	口縁部は小歪な底部からやや丸みをもって立ち上がり、先端に至り外側につままれている。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①埋没土。②外面の一部に炭素吸着、二次火熱を受けているか。
8	高台付椀	⑪ 13.8 ㊐ (4.3) ㊖口縁部¾	①細砂②還元③灰白7.5Y¾	口縁部は小歪な底部から斜め上方に立ち上がり先端に至って外反する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。	①床面。②内面の一部に炭素吸着。③高台欠損後も使用か。剥離部分を再調整している。
9	高台付椀	⑪ (15.5) ㊐ 7.0 ㊖ ¾	①細礫多量②還元③灰N⁄	口縁部は下位がやや膨らみをもって斜め上方に立ち上がる。先端は外反する。高台は低い台形を呈する。	右回転ロクロ成形。底部は切り離し後高台取り付け。接合部分、底部外面を撫で調整。	①埋没土と12住埋設土。
10	高台付椀	⑪ (13.8) ㊐ (5.2) ㊖口縁部¾	①粗砂少量②還元③灰7.5Y¾	口縁部は外傾弱く立ち上がり、先端に至り外反する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部分、底部外面を撫で調整。	①床面。③高台部欠損後も使用か。割れ口の一部が磨滅。
11	高台付椀	⑪ 15.4 ㊐ (6.2) ㊖口縁部のみ完形	①精選、細砂②還元③灰10Y¾	口縁部は深い。外傾弱く立ち上がり、先端に至り外反する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。	①床面。③高台欠損後も使用か。底部外縁は一部磨滅。

12	高台付杯 灰　釉	㊀ 14.1 ㊁ 3.3 ㊂ほぼ完形	①黒色鉱物粒②還元③灰白5Y𝍠	口縁部は弯曲しながら斜め上方に立ち上がり、先端が外反する。高台部は低い三日月状を呈する。	右回転ロクロ成形。底部は切り離し後高台取り付け。	①＋3。②細釉は刷毛掛け。内面に重ね焼き痕。
13	高台付椀 灰　釉	㊀ (2.2) ㊂底部～高台部	①精選、白色鉱物粒②還元③灰白2.5Y𝍠	高台部の器肉は厚い。先端が尖り、三日月状を呈する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部分は横撫で。	①床直。②内面に重ね焼き痕と施釉の付着が認められる。
14	甕	㊀ 18.3 ㊁ (15.3) ㊂上半部𝍠	①粗砂②酸化③橙5YR𝍠	口縁部は直立ざみに立ち上がり中位で屈曲、外反する。	口縁部は横撫で。胴部外面は下半を下方向から箆削り後上半を横方向に箆削り。内面は刷毛目状の調整。	①床直。②口縁部に煤付着。
15	杯	㊀ 10.0 ㊁ 3.2 ㊂ 𝍠	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR𝍠	器形は歪んでいる。口縁部は内皆ぎみに弯曲して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①床直。
16	杯	㊀ 10.6 ㊁ (3.1) ㊂ 𝍠	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR𝍠	口縁部は短く、内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位を除いて不定方向に箆削り。	①床直。
17	台付甕	㊁ (4.0) ㊂胴部下位	①細砂②酸化③にぶい橙5YR𝍠	台付甕の胴部最下位である。台部は接合部分で剥離している。	外面は縦方向、下から上方向に箆削り。台部との接合部分は横撫で。内面は箆撫で。	①＋12。②台部欠損部分に煤付着。
18	塔　印 鉄製品	太字の格印と思われる。右下部分は欠損している。鎬の付着が著しいが印面は縦50mm。横は53mmを推定できる。柄は先端が欠損しているが残存長215mmである。茎への移行部分については把握できなかった。印面の２箇所に接着させるものは15×12mmの矩形を呈している。徐々に細くなり残存の先端では13×７mmの断面楕円形を呈する。				①＋３。

10号住居（19図、ＰＬ25）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ④色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	高台付椀	㊀ 17.7 ㊁ 6.7 ㊂ 𝍠	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR𝍠	口縁部は内彎ぎみに斜め上方に立ち上がり、先端が開く外反する。高台部はハの字状に外反する。	口縁部は撫で後先端を強く横撫で。下半は斜め上方向から箆削り。高台取り付け後、接合部分と周辺を横撫で。	①床直。③底部内面に墨書「大上」。
2	杯	㊀ 12.0 ㊁ 3.8 ㊂ 𝍠	①粗砂②酸化③赤褐10YR𝍠	口縁部は斜め上方に立ち上がる。底部は平底である。	外面は口縁部を撫で後、先端のみ横撫で。指頭圧痕がある。底部は型肌状で周縁部分を箆削り。内面は横撫で。	①床直。②炭素吸着。
3	台付甕	㊀ 13.2 ㊁ 18.3 ㊂ 8.5 ㊃ほぼ完形	①粗砂少量②酸化③橙5YR𝍠	口縁部は胴部から直立ざみに立ち上がり先端は開く外傾する。胴部は上位に最大径を有し、低く外反する台部に移行する。	口縁部は横撫で。胴部外面は下半を斜め縦方向、上半を横方向の箆削り。部分的に撫で状の調整が加えられる。内面はていねいな撫で。台部は内外面とも横撫で。	①電燃焼部。②胴部外面の一部、黒斑か。内面に黒色の付着物。
4	高台付椀	㊁ (4.2) ㊂口縁部下半～高台部	①粗砂、輝石②酸化③黄灰2.5Y𝍠	口縁部は斜め外方に立ち上がる。高台部は低くほとんど外反しない。断面三角形。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部を横撫でするが底部に糸切り痕を残す。	①電燃焼部。②内外面とも部分的に煤付着。
5	高台付椀	㊁ (2.9) ㊂口縁部下半～高台部𝍠	①粗砂②酸化③灰5Y𝍠	高台部は低く台形状を呈する。接地面は内縁である。	回転ロクロ成形。底部は切り離し後高台取り付け。	①＋５。②内外面とも部分的に煤付着。
6	高台付椀	㊀ (14.0) ㊁ 5.9 ㊂ 𝍠	①粗砂、比重軽い。②還元ざみ③灰白2.5Y𝍠	口縁部は斜め上方に立ち上がり、深い。高台部は低く、内縁が接地する。	右回転ロクロ成形。底部は切り離し後高台取り付け。	①電燃焼部。②横状を呈する。

7	高台付椀	㊗〈4.2〉 ㊙口縁部下半～高台部	①粗砂②酸化③灰白10YR7/2	底部は小圧。口縁部は外傾して立ち上がる。高台部は低く、断面三角形を呈する。	右回転ロクロ成形と思われる。底部切り離し後高台取り付け。接合部分には撫で調整を施す。	①電燃痕跡。②二次火熱をうけ煤が付着する。
8	高台付椀	㊗〈3.5〉 ㊙口縁部下半～高台部	①粗砂、輝石②酸化③灰白2.5Y7/2	高台部はハの字状に外反する。断面は三角形を呈する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部分を横でするが底部外面に糸切り痕を残す。	①埋没土。②内外面とも炭素吸着。

11号住居（20図、ＰＬ25）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	甕	㊐〈23.1〉 ㊗〈8.0〉 ㊙口縁部½	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR7/4	口縁部は弧状に外反する。先端はやや肥厚して丸みをもつ。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め下方向から箆削り。調整具の痕跡が明瞭に認められる。	①床直。②二次火熱を受けているか。
2	杯	㊐ 10.0 ㊗ 3.6 ㊙ ½	①粗砂②酸化③橙5YR7/6	口縁部は短く、弱く内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①+24。②外面の一部に黒斑。器面は剥離が顕著。

12号住居（21図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊐〈12.0〉 ㊗〈2.9〉 ㊙ 破片	①粗砂②酸化③橙5YR7/6	口縁部は斜め上方に立ち上がる。	口縁部は撫で後、先端を横撫で。下位には指頭圧痕が認められる。底部外面は箆削り。	①埋没土。
2	杯	㊐〈13.0〉 ㊗〈3.0〉 ㊙ 破片	①粗砂②酸化③橙5YR7/6	口縁部は中位に弱い稜をもち斜め上方に立ち上がる。底部は平底か。	口縁部は撫で後先端を横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①埋没土。②口縁部の一部に炭素吸着。
3	杯 須恵	㊐〈12.5〉 ㊗〈3.7〉 ㊙ 破片	①黒色鉱物粒②還元③灰10Y5/1	口縁部は外傾弱く立ち上がる。	右回転ロクロ成形。	①埋没土。
4	杯 須恵	㊗〈1.7〉 ㊙口縁部下半～底部½	①白色鉱物粒②還元③灰N5/	口縁部は下位に変換点を有し、斜め上方に立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は手持ち箆削り。	①埋没土。②一部に自然釉。
5	甕	㊐〈11.0〉 ㊗〈4.4〉 ㊙口縁部¼	①粗砂②酸化③橙5YR7/6	口縁部は直立、中位で屈曲して外反する。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の撫で。	①埋没土。
6	甕	㊐〈12.0〉 ㊗〈3.5〉 ㊙ 破片	①粗砂②酸化③明赤褐5YR5/6	口縁部は弧状に外反する。	外面は胴部を箆削り後口縁部を横撫で。	①埋没土。②一部に炭素吸着。

13号住居（23図、ＰＬ25）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊐ 12.3 ㊗ 3.3 ㊙ ½	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は低く、斜め上方に立ち上がる。先端は弱く屈曲後外傾する。	口縁部は撫で後先端を横撫で。指頭圧痕が顕著。底部は型肌状を呈する。	①床直。③口縁部外面に墨書「大上」。底部内面の墨書も「大上」か。

2	杯	㊥ (9.7) ㊦底部破片	①粗砂②酸化③粗 5YR⅚	1と同様の形状と思われる。		底部外面は不定方向の箆削り。整肌状を呈する。	①埋没土。③内外面に墨書「蓮寄」。
3	壺 須恵	㊥ (9.1) ㊦胴部下半	①黒色・灰色鉱物粒②還元③黄灰 2.5Y⅝	胴部の下半部が残存していた。上位に向けて直線的に開いている。いわゆる平城京土器分類の壺Gである。		右回転ロクロ成形。内面にロクロ目が明瞭に残る。外部は撫で調整か。底部は回転糸切り離し後無調整。	①床直。
4	杯 須恵	㊤ 12.8 ㊥ 4.0 ㊦ほぼ完形	①長石多量②還元 ③灰5Y⅝	口縁部は内弯ざみに斜め上方に立ち上がる。先端は弱く外反する。		右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①床直。②底部の周縁部分は磨滅。
5	甕	㊤ 19.6 ㊥ (24.6) ㊦口縁部～胴部下位⅝	①粗砂、細砂②酸化③にぶい赤褐 2.5YR⅝	口縁部は弧状に弱く外反して立ち上がる。胴部は上位に最大径をもつ。		口縁部は横撫で。胴部外面は横あるいは斜め下方向から箆削り。中から下位は上方向からの箆削り。部分的に撫で。	①＋4。②二次火熱を受けている。 ※

14号住居（24図、ＰＬ25）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	高台付椀	㊤ (15.6) ㊥ (4.1) ㊦口縁部⅝	①粗砂②酸化③黄灰2.5Y⅝	口縁部は斜め外方に立ち上がり、先端で外反する。高台部は欠損している。	右回転ロクロ成形。	①床直。②二次火熱を受けているか。
2	杯	㊤ (13.0) ㊥ (3.9) ㊦ ⅝	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10YR⅝	口縁部は外傾して立ち上がり、先端に至りつままれたように外反する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①＋6。②炭素吸着。③口縁部の内外面に墨書「元水」か。
3	高台付杯 灰釉	㊤ 14.8 ㊥ 2.8 ㊦ ⅝	①精選、細砂少量②還元③灰白2.5Y⅝	口縁部は外傾著しく立ち上がり、先端が外側につままれる。高台部は外面が三日月状に窪をなす。	右回転ロクロ成形か。底部は切り離し後高台取り付け。底部外面は撫で調整が施されている。	①＋5。②施釉は漬け掛け。内面に重ね焼き痕がある。
4	台付甕	㊤ (10.5) ㊦ 破片	①粗砂、細砂②酸化③明赤褐5YR⅝	胴部下位から台部が残存していた。台部は大きく外反する。	胴部外面は上から縦方向の箆削り。内面は撫で。脚台部は内外面とも横方向の撫で。	①床直。②部分的に煤付着。③2点から図上復元。
5	甕	㊤ (20.0) ㊥ (5.0) ㊦ 破片	①粗砂、細砂②酸化③明赤褐5YR⅝	口縁部は直立ざみに立ち上がり、中位で大きく外反、いわゆるコの字状を呈する。	口縁部は横撫で。中位に撫での部分を残す。胴部外面は横方向の箆削り。	①床直。②内面に炭素吸着。

15号住居（25図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊤ (13.9) ㊥ (3.8) ㊦ ⅝	①粗砂②酸化③褐7.5YR⅝	口縁部は底部との間に稜をもち外傾弱く立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①床直。②黒色処理か。
2	甕	㊤ (17.8) ㊥ (13.0) ㊦上半部⅝	①粗砂②酸化③にぶい赤褐5YR⅝	口縁部は短く、屈曲して立ち上がる。胴部は弱く張り出す。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向に撫で状の箆削り後、斜め方向に幅の狭い磨き。	①床直。②内面炭素吸着。器面には粘土付着。

16号住居（26図、ＰＬ25）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	⑬ (10.9) ⑱ 3.6 ⑲ ½	①粗砂②酸化③橙7.5YR⅝	口縁部は底部との間に弱い稜をもって立ち上がる。中位に沈線状の段をもつ。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①埋設土。②粘土が付着している。
2	杯	⑬ (10.9) ⑱ 3.3 ⑲ ½	①粗砂②酸化③橙7.5YR⅝	口縁部は短く、底部との間に稜をもって外反する。底部は口縁部に比して深い。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に箆削り。	①＋７。②外面はやや磨滅している。
3	杯	⑬ (11.8) ⑱ 〈3.0〉 ⑲ 破片	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は短く、内彎して立ち上がる。先端は内側を向く。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半部を箆削り。	①電燃焼部。
4	杯	⑬ (13.8) ⑱ 〈4.0〉 ⑲ 破片	①粗砂、白色鉱物粒②酸化③灰白2.5Y⅞	口縁部は斜め上方に向けて立ち上がり、中位に強い稜を残す。	右回転ロクロ成形か。底部は回転糸切り離し後無調整。	①電燃焼部。②二次火熱を受けている。
5	蓋 須恵	⑬ (17.0) ⑱ 〈1.8〉 ⑲ 破片	①黒色鉱物粒②還元③灰7.5Y⅝	つまみは欠損している。偏平な形状の口縁部の内面には小さなかえりがつく。	右回転ロクロ成形と思われる。	①電燃焼部。
6	高台付杯 須恵	⑱ 〈2.6〉 ⑲口縁部下半～高台部⅓	①精選、白色鉱物粒②酸化③灰白2.5Y⅞	高台部は低く、断面形は台形状を呈する。接地面は内縁である。	右回転ロクロ成形か。底部外面は回転箆調整。口縁部下位は回転を伴う箆削り。	①電燃焼部。②底部外面に煤痕。
7	甕	⑬ (20.7) ⑱ 〈7.7〉 ⑲口縁部⅓	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	口縁部は弧状に外反して立ち上がる。先端は弱い稜をもって内側に起きる。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向に箆削り。内面は横方向の箆撫で。	①電燃焼部。
8	甕	⑬ (21.0) ⑱ 〈6.5〉 ⑲口縁部⅓	①粗砂②酸化③にぶい褐7.5YR⅝	口縁部は弱く屈曲して外反する。胴部は丸く張り出すか。	口縁部を横撫で後胴部外面を斜め方向に箆削り。内面は撫で調整。	①＋９。

17号住居（27図、ＰＬ25）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	甕	⑬ 24.7 ⑱ 〈14.6〉 ⑲上半部⅓	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅞	口縁部は丸みをもって屈曲。外反する。胴部は丸みをもつ。	口縁部は横撫で。胴部外面は横あるいは斜め方向の箆削り。部分的に撫で状を呈する部分がある。内面は箆撫で。	①貯蔵穴。
2	杯	⑬ 11.2 ⑱ 〈3.5〉 ⑲ ⅔	①粗砂②酸化③にぶい褐7.5YR⅝	口縁部は弱く内彎して立ち上がる。底部は浅いが丸みをおびている。底部中央部分は欠損している。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後、下半を不定方向に箆削り。	①貯蔵穴。②破損後二次火熱を受けるか。
3	杯	⑬ (17.1) ⑱ 3.8 ⑲ ½	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は底部から弱く起き上がり外反する。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。内面は底部中位までを横撫で、以下を撫で。	①埋設土。②器面はやや磨滅している。
4	杯	⑬ 14.3 ⑱ 4.6 ⑲ほぼ完形	①粗砂②酸化③橙2.5YR⅝	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に箆削り。	①貯蔵穴。②内面の一部に煤付着。

18号住居（28図、ＰＬ25）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑬ 10.8 ㊥ 3.9 ⑱はぼ完形	①細砂、赤色粘土粒②酸化③橙５ＹＲ⅚	器形はやや浅ひ。口縁部は底部との間に幾をなして、外傾弱く立ち上がる。先端は外側につままれている。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削りと思われる。	①＋５。②内外面とも磨滅顕著。
2	甕	㊥ (7.6) ⑱胴下位～底部⅓	①粗砂多量②酸化③橙５ＹＲ⅚	胴部は長胴を呈すると思われる。底部は狭小であろう。	胴部外面は上下方向の箆削り。底部外面も箆削り。	①＋３。②二次火熱を受けている。
3	甕	⑬ 21.0 ㊥ (13.5) ⑱上半部	①粗砂、軽石②酸化③にぶい赤褐５ＹＲ⅚	口縁部は弧状に大きく外反する。胴部は長胴を呈すると思われるがあまり張らない。	口縁部は横撫で。胴部は下から斜め方向の箆削り。内面は粗い撫で。	①第二次竈右袖。②二次火熱を受けて一部に炭素吸着。
4	甕	㊥ (16.1) ⑱下半部	①粗砂多量②酸化③にぶい黄橙10ＹＲ⅚	長胴の胴部を呈する。下位にやや丸みをおびる。底部は狭小な平底である。	胴部外面は上下方向の箆削り。最下位は横方向の箆削り。内面は箆撫で。あるいは撫で。	①埋没土。②二次火熱を受け赤変、脆弱になっている。炭素吸着。
5	甕	⑬ 20.8 ㊥ (28.0) ⑱口縁部～胴下部	①粗砂、雲母多量②酸化③橙５ＹＲ⅚	口縁部は外反して立ち上がる。胴部は長胴で最大径を上位にもつが底部近くに至るまで大きな変化はない。	口縁部は横撫で。胴部外面は３回ほどに分けて斜め上方向からの箆削り。内面は横方向の箆撫で。工具を止めた痕跡が明瞭に残る。	①第二次竈の左袖。破片が竈前に散在。②二次火熱を受けている。

19号住居（29図、ＰＬ26）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯 須恵	⑬ 13.3 ㊥ 3.4 ⑱ ⅓	①白色・黒色鉱物粒多量②還元③灰７.５Ｙ⅝	口径、底径に比して器高が低く偏平である。口縁部は外傾弱く立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は、荒切り離し後回転を伴う箆削り。同時に口縁部の下位も箆削り。	①＋７。
2	杯 須恵	⑬ (12.5) ㊥ (3.3) ⑱ ⅓	①白色・黒色鉱物多量②還元③灰７.５Ｙ⅝	１と同様の形状。口縁部は外傾弱く立ち上がる。下位には箆削りによる変換点がある。	右回転ロクロ成形。底部は回転荒切り離し後回転を伴う箆削り。口縁部の下位は箆削り。	①＋８。
3	杯	㊥ (0.7) ⑱底部破片	①粗砂②酸化③橙７.５Ｙ⅝	底部の破片である。	外面は箆削り。	①埋没土。③外面に墨書。判読不明。
4	椀 須恵	右回転ロクロ成形の高台付杯あるいは椀の高台部を利用した転用硯である。口縁部を打ち欠き、底部外面を磨り面としている。面の大きさは10.5×9.6cmである。磨り面は中央を中心に使用による磨耗痕が顕著である。また、墨の痕跡が明瞭に残っている。				①＋７。
5	甕	⑬ (22.4) ㊥ (7.0) ⑱口縁部⅓	①細砂多量②酸化③にぶい橙５ＹＲ⅚	口縁部は屈曲、弧状に弱く外反する。胴部は丸く張るか。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向に箆削り。いわゆる頸部に指頭圧痕が残る。	①床直。②内面には炭素吸着。

20号住居（30図、ＰＬ26）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑬ 11.0 ㊥ 3.5 ⑱ ⅓	①粗砂②酸化③橙５ＹＲ⅚	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部は撫で後下半を箆削りしていると思われる。	①埋没土。②外面の磨滅顕著。

2	杯	口 〈12.7〉 器 〈3.7〉 残 ¼	①粗砂②微化③にぶい橙5YR6/4	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。内面は撫で。	①埋没土。②内外面とも磨滅顕著。
3	杯	口 〈12.8〉 器 3.9 残 ½	①粗砂②微化③にぶい橙5YR6/4	口縁部は外傾著しく立ち上がる。下位は指押えのためへこむ。底部は平底で中央が若干凹状を呈する。	口縁部は指押え、撫で後先端を横撫で。底部外面は周縁部分を篦削り。中央は型肌状を呈する。	①埋没土。

21号住居（32図、ＰＬ26）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	口 11.4 器 3.5 残 ½	①粗砂②微化③にぶい橙5YR6/4	口縁部は内彎して立ち上がる。丸みをおびた先端は内側をむく。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位を除いて不定方向の篦削り。	①＋４。②外面に炭素吸着。
2	杯	口 13.0 器 3.8 残 ¾	①粗砂、赤色粘土粒②微化③にぶい橙5YR7/4	口縁部の内彎の度合は１・３と比較して弱い。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に篦削り。	①床直。②二次火熱を受け、器面は磨滅する。
3	杯	口 12.5 器 4.1 残ほぼ完形	①粗砂②微化③橙5YR6/6	口縁部は内彎して立ち上がる。丸みをおびた先端は内側をむく。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下位を不定方向に篦削りと思われる。	①床直。②外面に炭素吸着。磨滅顕著。
4	蓋 須恵	口 18.9 器 3.0 残 完形	①黒色鉱物粒②還元③灰白7.5Y7/1	天井部は偏平でふくらみが弱い。中央に径6.5cmのつまみがつく。口縁内面の端部に弱いかえりがつく。	右回転ロクロ成形と思われる。天井部の中央寄りは篦削り調整。つまみの周辺と口縁部は撫で調整。	①床直。②外面には自然釉が付着している。
5	甕	口 16.0 器 16.1 残 ¾	①粗砂②微化③橙7.5YR6/6	口縁部は弱く外反して立ち上がる。胴部の最大径は中位にあり、以下、底部にむけて急速に細くなる。	口縁部は横撫で。胴部外面は上半が横あるいは斜め下方向から篦削り。下半は上から下方向に篦削り。内面は撫で。	①床直。②外面に黒斑、器面は磨滅。③底部に焼成後3.0cm程の穿孔。
6	甕	口 16.0 器 〈15.2〉 残 ¾	①粗砂②微化③にぶい橙5YR6/4	口縁部は弱く外反して立ち上がる。胴部の最大径は口径とほぼ同様である。	口縁部は横撫で。胴部は横方向、中位から下位を斜め上方向からの篦削り。篦削りは粗雑で力強さがない。	①床直。②外面に黒斑。内面は炭素吸着。
7	甕	口 22.9 器 38.5 残 ¾	①粗砂、赤色粘土粒、軽石②微化③橙7.5YR7/4	口縁部は弱く屈曲して外反する。胴部は口縁部直下に最大径をもち、底部に向って細くなる。	口縁部は横撫で。胴部外面は上から下方向に３～４回に分けて篦削り。部分的に撫で。内面は撫で。	①床直。②胴部から底部に数箇所黒斑。二次火熱を受け炭素吸着。
8	甕	口 23.8 器 37.0 残ほぼ完形	①粗砂多量、軽石②微化③にぶい橙5YR6/4	口縁部は最大径は口縁部にある。口縁部はラッパ状に外反、やや肥厚する。底部は狭少で不安定な平底である。	口縁部を横撫で後、胴部外面を３～４回に分けて縦方向の篦削り、内面は全面にていねいな撫で。下半は縦あるいは横、上半は斜めあるいは横方向である。	①床直。②外面の一部に炭素吸着。二次火熱を受けている。
9	甕	口 17.7 器 〈9.0〉 残口縁部～胴部上位	①粗砂、輝石②微化③にぶい橙7.5YR7/3	口縁部は屈曲して外反する。胴部は丸く張ると思われる。	胴部外面は最上位を横あるいは斜め方向の篦削り。以下は縦方向の篦削り。内面は横方向の撫撫で。	①＋14。②器面は二次火熱を受けたかや磨滅。
10	甕	器 〈7.2〉 残胴部下位～底部	①粗砂②微化③褐灰10YR5/1	丸胴の甕の底部と考えられる。やや尖底ぎみの丸底を呈する。	外面に斜め上方向から篦削り。内面はていねいな撫撫で。あるいは撫で。	①床直。②内外面とも炭素吸着。黒色みをおびる。

11	甕	⑪ 23.9 ㊐ 〈8.3〉 ⑯口縁部～胴部上位	①粗砂、雲母砂②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は屈曲して大きく外反する。胴部は長胴を呈しあまり張らないと思われる。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め下方向からの箆削り。	①＋14。②内外面の一部に炭素吸着。
12	甕	⑪ 〈23.0〉 ㊐ 〈12.2〉 ⑯胴部上位1/4	①粗砂、雲母②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は屈曲して大きく外反する。胴部は長胴を呈すると思われる。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め下方向からの箆削り。いわゆる頸部に調整具痕が認められる。	①＋4。③二次火熱のため器面は剥離、磨滅。

22号住居（33図、ＰＬ26）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 〈11.8〉 ㊐ 〈2.6〉 ⑯ 破片	①粗砂②酸化③橙7.5YR7/4	口縁部は短く、内折ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に箆削り。	①埋没土。②外面に黒斑がある。
2	杯 須恵	⑪ 〈1.4〉 ⑯底部1/4	①粗砂②還元③灰白2.5Y8/1	平底の底部である。	回転ロクロ成形。底部は切り離し後回転を伴う箆削り調整を施している。	①埋没土。
3	甕	⑪ 22.7 ㊐ 30.4 ⑯ほぼ完形	①粗砂、雲母②酸化③橙5YR7/6	口縁部は屈曲弱く外反して立ち上がる。胴部は上位に最大径を有し、狭小な底部に向けて徐々に細くなる。	口縁部は横撫で。胴部外面は下半を2回に分けて上から下に箆削り。上半は斜め下あるいは横方向の箆削り。	①電燃焼部。②内外面とも全体にやや磨滅。外面に粘土付着。
4	甕	⑪ 〈19.2〉 ㊐ 〈5.0〉 ⑯口縁部1/4	①粗砂、細砂②酸化③橙7.5YR7/6	口縁部は屈曲して強く外反する。先端は平坦な面が外側をむく。長胴を呈していたと思われる。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向の箆削り。内面は横方向の箆撫で。	①埋没土。②内外面の一部に炭素吸着。
5	甕	⑪ 〈22.4〉 ㊐ 〈7.5〉 ⑯口縁部～胴部上位1/4	①粗砂、雲母②酸化③橙7.5YR7/6	口縁部は弧状に大きく外反する。	外面は口縁部を横撫で後、胴部を縦方向に下から上方向に箆削り。	①電燃焼部。②二次火熱を受け炭素が吸着している。
6	甕	⑪ 〈17.3〉 ㊐ 〈14.8〉 ⑯上半部1/4	①粗砂多量②酸化③にぶい赤褐5YR5/4	口縁部は弧状に強く外反する。胴部は丸みをもって張る。	口縁部は横撫で。胴部外面は下から上方向に箆削り。部分的にその上を撫でている。	①埋没土。②内外面炭素吸着、煤か。

24号住居（36図、ＰＬ27）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 12.2 ㊐ 4.3 ⑯ほぼ完形	①粗砂②酸化③橙7.5YR7/6	口縁部は小張の底部から斜め上方に向けて立ち上がる。	口縁部は先端を横撫で。以下は撫で後斜め方向の箆削り。内面はていねいな横撫で。底部は砂底である。	①＋4。③口縁部の欠損は旧時のものか。
2	高台付椀	⑪ 〈14.0〉 ㊐ 〈4.9〉 ⑯口縁部1/4	①粗砂②酸化③にぶい橙2.5YR6/4	口縁部は斜め上方に立ち上がる。	口縁部は撫で後下半を斜め上方向から箆削り。先端と最下位は横撫で。底部外面は砂底。	①電燃焼部。②内面に炭化物が付着する。③高台欠損後も使用。
3	高台付椀	⑪ 〈13.8〉 ㊐ 5.8 ⑯ 3/4	①粗砂②酸化③橙2.5YR6/4	口縁部は斜め上方に立ち上がる。高台部はハの字状に開き先端は丸い。	口縁部は撫で後下半を斜め上方向から箆削り。先端は横撫で。高台接合後周辺を横撫で。底部外面は砂底か。	①＋20。②炭素吸着。
4	高台付椀	⑪ 〈2.8〉 ⑯高台部1/2	①粗砂②酸化③浅黄2.5Y7/3	高台部は強く外反、先端の内縁部分が接地する。	高台取り付け後周辺を横撫で。	①埋没土。②炭素吸着。

5	高台付椀	⑭〈2.1〉 ⑮高台部残	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	底部は低く、断面台形を呈する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け、周辺を撫でするが底部外面に糸切り痕が残る。	①埋没土。②内外面とも炭素吸着。
6	高台付椀 須恵	⑭〈1.9〉 ⑮高台部残	①白色・黒色鉱物粒②還元③灰10Y7/1	高台部は低く、断面三角形を呈する。	右回転ロクロ成形。	①埋没土。
7	杯	⑬〈11.8〉 ⑭ 3.2 ⑮ 残	①黒色鉱物粒②酸化③灰黄2.5Y7/2	口縁部は器高が低く、外傾著しく立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し後撫調整。	①床直。②炭素吸着、煤状。底部の周縁をはじめ磨耗が著しい。
8	椀	⑬〈13.0〉 ⑭〈4.8〉 ⑮ 破片	①粗砂②酸化③灰7.5Y7/1	口縁部は斜め上方に立ち上がる。外面にはロクロ目を強く残す。	右回転ロクロ成形。	①床直。②内外面ともに炭素吸着。
9	高台付椀	⑭〈2.7〉 ⑮口縁部下半の破片	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は斜め上方に立ち上がると思われる。高台部は剥離している。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台部を取り付け。	①床直。②内面には炭素吸着。
10	高台付椀	⑬〈13.2〉 ⑭ 5.4 ⑮ 残	①粗砂、細礫②還元 ぎみ③灰黄2.5Y7/2	口縁部は直線的に斜め上方に向けて立ち上がり先端が窄く外反する。高台は低く外縁が接地する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。底部中央には糸切り痕を残す。	①電燃焼部。②内外面とも炭素吸着が顕著。③底部内面に墨書「大」か。
11	高台付椀	⑭〈2.5〉 ⑮口縁部下半残	①粗砂②酸化③灰白7.5YR8/2	口縁部は斜め上方に立ち上がると思われる。高台部は剥落しているがその後も利用か。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し後高台取り付け。	①埋没土。②内外面の一部に炭素吸着。③口縁部の外面に墨書「大上」か。
12	高台付椀 灰 釉	⑬ 15.7 ⑭ 5.1 ⑮ほぼ完形	①精選、白色鉱物粒②還元③灰白2.5Y7/2	口縁部は偏平ながら丸みをもって斜め上方に立ち上がる。先端は外側につままれる。高台部は断面形が長方形。先端の外面がやや丸い。	右回転ロクロ成形。底部を切り離し後高台を取り付け。周辺を撫で調整するが底部外面に荒削り調整痕が認められる。	①床直。②施釉は漬け掛け。内面に重ね焼き痕。
13	高台付椀 灰 釉	⑬〈15.6〉 ⑭ 4.5 ⑮ 残	①粗砂少量②還元③灰白7.5Y7/2	口縁部は浅く斜め上方に向けて立ち上がる。高台部はハの字状に外反する。	右回転ロクロ成形か。底部は回転糸切り離し後高台を取り付け。	①床直。②内面に重ね焼き痕。施釉方法は不明瞭である。
14	高台付椀 灰 釉	⑬〈1.6〉 ⑮口縁部下位～高台部残	①精選②還元③灰白5Y7/2	高台部は直立ぎみに延び、先端で外側がそげる。	右回転ロクロ成形。高台取り付け後周縁部分を撫で調整。	①埋没土。
15	壺	⑬〈8.4〉 ⑭ 7.6 ⑮ 残	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR6/4	小型品。口縁部は弱く外反する。胴部は上位に最大径を有して張る。	口縁部は横撫で。胴部外面は横あるいは斜め方向の荒削り。内面は横方向の撫で。	①床直。②内外面とも炭素吸着。煤か。
16	耳 皿	⑬5.8～7.8 ⑭1.7～2.9 ⑮ 完形	①粗砂②酸化③橙2.5YR6/6	径7.8cmの杯状の口縁部の2箇所を内側に折り返している。	口縁部は横撫で。底部は砂底と思われる。	①＋3。②内面の一部に黑煤か。
17	支 脚	残存高は8.6cm。径は不整円形であるが6cmを上回ると思われる。		脚土は粗砂、雲石を多く含んでいる。外面は粗雑な撫で調整である。		①埋没土。②二次火熱を受けている。
18	鉢 ?	⑬〈18.2〉 ⑭〈6.7〉 ⑮ 残	①細砂②酸化③橙2.5YR6/6	口縁部は短く、内折ぎみに立ち上がる。底部は深長な丸底である。	口縁部は横撫で。底部外面は横方向の荒削り。	①＋8。

19	甕	⑥ (16.0) ⑧ (7.5) ⑩口縁部～胴部上位½	①粗砂、細砂②酸化③にぶい橙5YR⅝	口縁部はいわゆるコの字状口縁で上半が外傾して立ち上がる。	口縁部は横撫で。胴部外面は横あるいは縦方向の箆削り。内面は横方向の撫で。	①環状焼部。②外面の一部に炭素吸着。
20	甕	⑧ (7.8) ⑩胴部下位½	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR⅝	胴部下位の破片である。端部は底抜けである。	胴部外面は縦方向の箆削り。内面は斜め方向の撫で。端部は箆削り。	①環状焼部。②二次火熱を受けている。
21	砥石	側面、小口面ともに一端が欠損している。残存長は42mm、残存幅45mm、厚さ10mmを測る。表、裏、側面および小口面も使用されている。小口面寄りに径5mmの穿孔が施されている。重量は23g。石質は流紋岩である。				①埋没土。

25号住居（37図、ＰＬ27）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	高台付杯	⑥ (13.5) ⑧ 2.6 ⑩ 〃	①黒色・白色鉱物粒②還元ざみ③灰白2.5Y⅞	口縁部は著しく外反して立ち上がる。高台部は低く、断面は台形状を呈する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。	①環状焼部。②器面は磨滅が顕著。一部に炭素吸着。
2	高台付椀	⑥ (1.7) ⑧口縁部下位～高台⅓	①粗砂、輝石②酸化③灰白7.5Y⅞	高台部は低く、断面形は台形状を呈する。接地面は内傾する。	右回転ロクロ成形と思われる。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。周辺を撫で調整するが底部外面に糸切り痕。	①埋没土。②底部外面に炭素吸着。器面の剥離顕著。
3	杯	⑥ (14.0) ⑧ 4.0 ⑩ 〃	①白色鉱物粒、輝石②還元ざみ③にぶい黄橙10YR⅞	口縁部はやや丸みをもって斜め上方に立ち上がる。先端は外側につまされる。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①埋没土。②内面磨滅。外面の一部に炭素吸着。
4	杯	⑥ (13.0) ⑧ (4.0) ⑩ 破片	①輝石、軽石②還元ざみ③灰白10Y⅞	口縁部はロクロ目を残し斜め上方に立ち上がる。先端は強く外反する。	右回転ロクロ成形。	①埋没土。②外面炭素吸着。
5	高台付杯 灰釉	⑥ (15.5) ⑧ (1.8) ⑩ 破片	①精選、白色鉱物粒②還元③灰白5Y⅞	口縁部は外傾強く立ち上がる。先端は平坦な面を外側に向ける。	右回転ロクロ成形か。下位は回転を伴う箆削り。	①埋没土。②底部外面に炭素吸着。器面の剥離顕著。施釉は刷毛掛けか。
6	高台付椀 灰釉	⑥ (2.0) ⑧口縁部下半～高台部	①精選、黒色鉱物粒②還元③灰白2.5Y⅞	高台部は幅広く蛇の目台状を呈するが断面形は内側にそげ、外縁のみ接地する。	右回転ロクロ成形か。	①埋没土。②内面は自然釉状に釉が付着。内面に重ね焼き痕。
7	甕	⑥ (10.2) ⑧ (5.7) ⑩上半部⅓	①粗砂②酸化③橙2.5YR⅝	口縁部は屈曲、外反する。胴部は丸みをもって張ると思われる。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向に箆削り。内面は横方向に箆撫で。	①床直。②内外面とも炭素吸着。

26号住居（38図、ＰＬ27）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑥ 16.4 ⑧ 5.1 ⑩ほぼ完形	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10YR⅞	器形の歪みが著しい。口縁部は斜め上方に立ち上がる。底部は不安定な平底である。	右回転ロクロ成形。底部は切り離し後不定方向に箆削り調整。	①床直。②内外面とも炭素吸着。③口縁部は片口状に欠損。
2	高台付杯	⑥ (14.6) ⑧ (5.2) ⑩ 〃	①粗砂、軽石②酸化③橙5YR⅝	口縁部は斜め上方に向けて直線的に立ち上がる。高台部はハの字状に外反する。	口縁部は撫で後先端を横撫で。中位以下には部分的な箆削り。高台接合後周辺を横撫で。	①埋没土。②内外面とも炭素吸着。

3	杯	⑥〈10.1〉 ㊥ 3.1 ㊦ ½	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR⅝	口縁部はやや内彎ぎみに斜め上方に向けて立ち上がる。	左回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①底直。②口縁部の一部に炭素吸着。
4	羽 釜	⑥〈20.2〉 ㊥〈12.3〉 ㊦口縁部～胴部上半½	①粗砂、細礫②酸化③灰黄2.5Y⅞	口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。先端は平坦面をなし、外側に小きくかえる。鍔は断面、三角形を呈する。	口縁部、胴部ともロクロ回転を伴う撫で調整と思われる。	①電燃焼部とその周辺。②二次火熱を受け炭素吸着。
5	甕	㊥〈8.9〉 ㊦胴部下位～底部¼	①粗砂②酸化③橙2.5YR⅝	胴部は斜め上方に立ち上がり張る。底部は平底である。	胴部外面は斜め上方向からの箆削り。内面は斜め方向の箆撫で。底部外面は砂底である。	①電燃焼部周辺。②小破片になった後に炭素吸着。
6	甕	㊥〈19.4〉 ㊦胴部上位～底部½	①粗砂多量②酸化③にぶい橙5YR⅝	胴部は中位よりやや上に最大径を有して張る。	胴部外面は上位を斜め上方向に、中位から下位を斜め下方向に箆削り。内面は横方向の箆撫で。底部は少量の砂が付着。粘土板状のものの上で製作か。	①埋没土。②煤付着。

27号住居（39図、ＰＬ27）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑥〈13.0〉 ㊥ 3.9 ㊦ ½	①白色鉱物粒②還元③灰白2.5Y⅞	口縁部は彎曲ぎみに斜め上方に向けて立ち上がる。先端は外側が肥厚してやや膨らむ。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①埋没土。②内外面ともやや磨滅。
2	杯 須恵	⑥〈12.6〉 ㊥ 3.7 ㊦ ½	①粗砂、白色鉱物粒②還元③灰5Y⅝	口縁部は斜め上方に向けて立ち上がり先端で弱く外反する。口径、器高に比して底径が大きく安定している。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①埋没土。②炭素吸着、煤状。
3	甕	㊥〈14.8〉 ㊦胴部中位½	①細砂②酸化③にぶい橙5YR⅝	胴上位に最大径を有する。	外面は箆削り。胴部上位が下方向から、下位は縦方向に上から撫している。内面は箆撫で。	①底直。②外面、炭素吸着。煤か。

28号住居（40図、ＰＬ27）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑥ 10.7 ㊥ 3.4 ㊦ 完形	①粗砂、輝石②酸化③橙7.5YR⅝	器形はやや歪んでいる。口縁部は強く内彎して立ち上がる。先端は内面を向く。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位を除き不定方向の箆削り。内面は横撫であるいは撫で。	①電焼辺か。②一部に煤付着。器面は磨滅。
2	杯	⑥〈9.4〉 ㊥〈2.7〉 ㊦ 破片	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は短く、弱く内折して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を不定方向に箆削り。	①埋没土。②底部外面に黒斑。
3	杯	⑥〈10.4〉 ㊥〈2.9〉 ㊦ 破片	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は短く、外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削りと思われる。	①埋没土。②外面の一部に煤付着。
4	杯	⑥〈13.8〉 ㊥〈2.9〉 ㊦ 破片	①細砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は短く、内折ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削りと思われる。	①埋没土。
5	杯	㊥〈1.7〉 ㊦口縁部下半～底部¼	①粗砂②酸化③橙2.5YR⅝	口縁部は斜め上方に立ち上がるか。	口縁部は撫で後最下位を箆削り。底部外面も箆削り。	①埋没土。③内面に墨書「大上」か。

6	杯	㊁ 〈2.5〉 ㊂ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は斜め上方に立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し後無調整。内面は口縁部を横方向、底部を一定方向に棒状工具による磨き。	①埋没土。②内面黒色処理。
7	甕	㊀ (18.8) ㊁ 〈6.3〉 ㊂口縁部1/4	①粗砂、輝石②酸化③橙5YR6/6	口縁部は中位で屈曲、先端は弱く外反する。下半は弱く張り胴部に続く。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の荒削り。内面は刷毛に近い荒撫で。	①端周辺か。②外面に煤付着。

29号住居（41図、ＰＬ27）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	高台付椀	㊀ (14.2) ㊁ 4.9 ㊂ 5/7	①粗砂②還元③灰白2.5Y7/2	口縁部は斜め上方に直線的に立ち上がり先端が弱く外反する。高台部は低く外反する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部分を横撫でするが底部外面に糸切り痕を残す。	①竈燃焼部。②一部に炭素吸着。器面は磨滅。
2	高台付椀	㊀ 19.0 ㊁ 〈5.2〉 ㊂口縁部	①粗砂、雲母②還元③灰7.5Y5/1	口縁部は弯曲して立ち上がり、先端が外反する。	右回転ロクロ成形。内外面ともロクロ目を残す。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。	①竈燃焼部。③高台欠損後も使用している。

30号住居（42図、ＰＬ28）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊀ 15.4 ㊁ 5.0 ㊂ほぼ完形	①粗砂②酸化③灰黄2.5Y7/2	口縁部は弱く弯曲しながら斜め上方に立ち上がる。	左回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①＋３。１号溝所属か。②器面に炭素吸着。③口縁部の一部を欠損後も使用か。
2	高台付椀 灰　釉	㊀ (14.4) ㊁ 5.5 ㊂ 7/8	①精選②還元③灰白7.5Y7/1	口縁部は内弯ぎみに斜め上方に立ち上がる。先端は外側が丸く肥厚する。白磁の玉縁口縁の模倣とされている。高台部の先端は外側が丸みをもつ。	右回転ロクロ成形。高台取り付け後接合部分を撫で調整。	①＋11。②施釉については不明瞭。内面は自然釉が付着。
3	高台付椀	㊀ (12.7) ㊁ 5.0 ㊂ 7/8	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部は斜め上方に向けて立ち上がる。高台部はハの字状に外反する。	右回転ロクロ成形と思われる。底部は回転糸切り離し後高台を取り付け。接合部分は撫でている。	①竈燃焼部。②内外面に炭素吸着。底部外面には植物体が付着。
4	高台付椀	㊀ 12.6 ㊁ 5.1 ㊂ 完形	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部は斜め上方に向けて立ち上がる。口径に比して底径、高台径が大きく安定している。	右回転ロクロ成形と思われる。底部は回転糸切り離し後高台を取り付け。接合部分は撫でている。	①竈燃焼部。②外面に鉄分付着。

31号住居（43図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊀ (10.8) ㊁ 〈3.4〉 ㊂ 破片	①粗砂②酸化③橙5YR6/6	口縁部は底部から引き続き斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を箆削りと思われる。	①埋没土。②外面および内面の口縁部に炭素吸着。

32号住居（44図、ＰＬ28）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②覆面③その他
1	杯	口 (11.8) 底 <2.8> 残 破片	①細砂②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	器形は歪んでいる。口縁部は斜め上方にかけて立ち上がる。	口縁部は撫で、押さえ後先端を横撫で。	①埋設土。②外面に炭素吸着。
2	杯	口 (14.0) 底 <3.7> 残 破片	①細粒②酸化③にぶい橙5YR7/4	口縁部は斜め上方に立ち上がるか。	口縁部は撫で後先端を横撫で。下半は箆削りと思われる。	①埋設土。③内面に墨書「大上」か。
3	甕	口 19.0 底 26.1 残 3/4	①細砂主体、雲母少量②酸化③橙5YR7/4	口縁部は直立ざみに立ち上がったものが先端で弱い棱をなした後に強く外反する。胴部の最大径は上位にある。	口縁部は横撫で。胴部外面は中から下位は上から下方向、上位は斜め上あるいは横方向の箆削り。内面は撫で。	①竈焼焼部及び炭化。②外面はやや磨滅している。

34号住居（46図、ＰＬ28）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②覆面③その他
1	杯	口 (14.0) 底 <4.0> 残 破片	①細砂少量②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は斜め上方に立ち上がり、先端でその方向が弱く変化する。	口縁部は撫で後先端を横撫で。	①埋設土。②内面の一部に炭素吸着。③口縁部の外面に墨書。判読不明。

35号住居（48図、ＰＬ28）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②覆面③その他
1	杯	口 14.3 底 4.8 残ほぼ完形	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	器形は大きく歪んでいる。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部は撫で後先端を横撫で。底部は砂底を呈するか。	①貯蔵穴。②外面の一部に煤付着。③口縁部の内外面とも墨書「大上」。
2	杯	口 12.6 底 4.2 残ほぼ完形	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は外傾して立ち上がる。先端は弱く起きる。	口縁部は撫で後先端を横撫で。底部は照肌状。口縁部にも同様の擦合痕、ひびが残っている。	①貯蔵穴。②外面の一部に炭素吸着。③口縁部外面に墨書「大上」。
3	高台付椀	口 15.8 底 5.6 残ほぼ完形	①粗砂、赤色粘土粒②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は歪みがなく外反ざみに立ち上がる。高台部はハの字状を呈する。	口縁部は撫で後先端を横撫で。高台取り付け後接合部分を横撫で。1・2の杯に比較してていねいなつくり。	①貯蔵穴。②口縁部内面と底部外面に炭素吸着。③口縁部の内外面に墨書「大上」。
4	杯	口 (15.0) 底 <4.6> 残 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部は撫で後先端を横撫で。	①埋設土。③口縁部の外面に墨書「大上」。
5	杯	口 (11.8) 底 4.1 残 3/4	①粗砂②酸化③橙7.5YR7/6	口縁部は斜め外方に立ち上がり、先端が弱く返る。	口縁部は指頭による撫で。押え後、先端を横撫で。底部は砂底である。	①埋設土と思われる。
6	杯	口 (12.8) 底 <3.6> 残口縁部1/4	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR7/3	器形はやや歪んでいる。口縁部は外傾著しく立ち上がる。	口縁部は指頭による撫で。押え後、先端を横撫で。	①埋設土。②内外面とも炭素吸着。

7	杯	⑥ (12.2) ㊙ 3.5 ㊙ ½	①粗砂②湿元ざみ③灰白2.5Y⅞	口径に比して底径が大きく、器高が低く偏平である。口縁部の先端は大きく外反する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①繊燃焼部。②内外面とも炭素が吸着し黒色みをおびる。	
8	杯	⑥ (11.8) ㊙ 4.6 ㊙ ½	①粗砂、軽石②酸化③灰白2.5Y⅞	口縁部は彎曲しながら斜め外方に立ち上がる。	右回転ロクロ成形。外面にロクロ痕を強く残す。底部は回転糸切り離し後無調整。	①埋投土。②内外面炭素吸着。	
9	杯	⑥ (12.2) ㊙ 4.2 ㊙ ½	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅞	口縁部は斜め外方に立ち上がり先端が外反する。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し後無調整。	①埋投土。②外面に炭素吸着、煤か。底部外面は摩耗。	
10	高台付椀	⑥ (14.7) ㊙ 4.7 ㊙ ½	①粗砂少量②酸化③灰黄2.5Y⅞	口縁部は斜め外方に立ち上がり、先端で弱く外反する。高台部は低く、内縁が接地する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部を撫でるが底部外面に糸切り痕が残る。	①埋投土。②炭素吸着。高台部先端は摩滅。	
11	高台付椀 灰 釉	⑥ 18.0 ㊙ 6.1 ㊙ ½	①精選、長石少量②還元③灰白2.5Y⅞	口縁部は内彎ざみに斜め上方に立ち上がる。先端は外側につままれる。高台部は外側が丸みをもつ。	左回転ロクロ成形か。口縁部の下位は回転を伴う篦削り。高台取り付け後接合部を篦削り。内面は平滑になっている。	①床面。②施釉は浸漬付掛け。内外面に重ね焼き痕が認められる。	
12	甕	⑥ (17.7) ㊙ (6.7) ㊙口縁部½	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅞	口縁部の下位は胴部の丸みを受けて立ち上がり、中位で屈曲、弱く外傾する。	口縁部は2回に分けて横撫で。胴部外面は横方向の篦削り。内面は篦撫で。	①埋投土。	

36号住居（49図、ＰＬ28）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	⑥ 13.0 ㊙ 4.0 ㊙ ½	①粗砂、細礫②酸化③灰白10Y⅞	口縁部は外傾著しく立ち上がり、先端が外反する。	右回転ロクロ成形か。底部の切り離しは篦削が粗れており不明確である。	①埋投土。②炭素吸着。底部外面に筋の痕跡。器面は摩滅。
2	杯	⑥ 13.0 ㊙ 4.1 ㊙ほぼ完形	①粗砂②酸化③明赤褐5YR⅝	口縁部は外面にロクロ目を残し、弱く内彎しながら斜め外方に立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①埋投土。②内面に黒色の付着物。
3	杯 須 恵	㊙ (2.6) ㊙口縁部下半～底部	①粗砂、細礫②還元③5YN5/	口縁部は斜め上方に向けて立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①埋投土。
4	高台付椀	⑥ (15.2) ㊙ (5.5) ㊙ ½	①粗砂②湿元ざみ③灰白7.5Y⅞	口縁部は内彎ざみに斜め外方に立ち上がる。先端は弱く外反する。	右回転ロクロ成形。底部切り離し後高台取り付け。	①埋投土。②器面摩滅、炭素吸着。③高台欠損後も使用か。
5	高台付椀	㊙ (2.5) ㊙口縁部下半～高台部	①粗砂②酸化③灰白7.5Y⅞	高台部は断面、三角形。外側がそげて尖る。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。底部外面の中央に糸切り痕を残す。	①埋投土。③高台欠損後も使用か。
6	高台付椀	㊙ (3.0) ㊙高台部	①粗砂、輝石②酸化③橙2.5YR⅝	高台部は弱く外反する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部分を横撫でするが底部中央に糸切り痕が残る。	①床直。②一部に炭素吸着。
7	杯	⑥ (12.6) ㊙ 4.5 ㊙ ½	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅞	口縁部は斜め上方に立ち上がり、先端が横撫でのためかやや起き上がる。	口縁部は撫で後先端を横撫で。底部外面は型肌か。	①埋投土。②外面に炭素吸着。内面に黒色の付着物。
8	高台付椀	⑥ (14.4) ㊙ (4.2) ㊙口縁部½	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は斜め上方に立ち上がる。	外面は撫で後口縁部を横撫で。下半は斜め上方向からの篦削り。その後高台接合のための横撫で。	①埋投土。②内外面とも炭素吸着。

9	高台付椀	口〈15.7〉 器〈5.2〉 機口縁部¼	①粗砂②酸化③橙2.5YR¾	口縁部は内弯ざみに斜め上方に立ち上がる。先端は弱く変化する。	外面の先端は横撫で。以下は横あるいは斜め方向の荒削り。最下位は高台接合後の横撫で。内面は口縁部が横方向、底部は一定方向に棒状工具による磨き。	①埋没土。②内外面とも二次火熱を受け炭素吸着。
10	高台付杯 灰釉	口〈14.7〉 器〈3.1〉 機¼	①精選②還元③灰白10Y¾	口縁部の外傾は著しく、先端は水平につまされる。高台部は角高台である。	右回転ロクロ成形と思われる。底部は切り離し後高台取り付け。	①埋没土。②内面にトチンの痕跡、施釉は内面に刷毛掛け。
11	甕	口〈19.4〉 器〈6.0〉 機口縁部¼	①細砂、輝石②酸化③橙7.5YR¾	口縁部は屈曲、外傾して立ち上がる。先端は外側がそげる。胴部はやや張るか。	口縁部は横撫で。胴部外面は撫で後横方向に荒削り。内面は横方向の撫で。	①埋没土。②外面は炭素吸着。
12	甕	口〈18.4〉 器〈5.7〉 機口縁部¼	①細砂②酸化③橙5YR¾	口縁部は胴部の傾きに続き内傾ざみに立ち上がり、中位で屈曲、外反する。外面の先端に沈線がめぐる。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の荒削り。内面は横方向の撫で。	①埋没土。②内外面の一部に炭素吸着。
13	甕	口〈22.6〉 器〈4.7〉 機破片	①細砂、粗砂②酸化③橙5YR¾	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め上方向から荒削り。	①埋没土。
14	甕	口〈12.4〉 器〈8.2〉 機上半部¼	①粗砂②酸化③橙5YR¾	口縁部は直立、中位で変換し外反して立ち上がる。胴部は球形を呈する。	口縁部は横撫で。胴部外面は横あるいは斜め下方向からの荒削り。内面は横方向の撫で。	①埋没土。②内外面とも炭素吸着。外面には黒色の付着物。

37号住居（51図、ＰＬ28）

番号	器種	法量	①胎土②焼成③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態②器面③その他
1	高台付椀	口〈13.3〉 器5.7 機¼	①粗砂②酸化③浅黄橙7.5YR¾	口縁部は斜め上方に立ち上がる。高台部はハの字状に外反する。	口縁部は撫で後先端を横撫で。底部は砂底。高台取り付け後接合部分を横撫で。	①＋３。③口縁部外面に墨書「上」か。
2	杯	口〈2.5〉 機口縁部下半～底部¾	①粗砂②酸化③橙7.5YR¾	口縁部は斜め上方に立ち上がるか。	口縁部は撫で後、最下位を斜め上方向から荒削り。	①埋没土。②外面の一部炭素吸着。③口縁部の外面に墨書「上」か。
3	杯	口〈2.5〉 機口縁部下半～底部¾	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙2.5YR¾	口縁部は斜め外方に向けて立ち上がる。	口縁部の外面は荒削り。内面は横撫で。底部外面は荒削りか。	①埋没土。
4	杯	口〈13.3〉 器〈3.7〉 機¼	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR¾	口縁部は外傾著しく立ち上がる。	口縁部は撫で後先端を横撫で。下半は斜め上方向から荒削り。	①＋５。②内外面炭素吸着。
5	高台付椀	口〈13.3〉 器5.1 機¼	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10YR¾	口縁部は内弯ざみに斜め外方に立ち上がる。高台部はハの字状に外反する。	口縁部は撫で後、先端を横撫で。下半は斜め上方向からの荒削り。高台取り付け後接合部分を撫で調整。	①＋６。②炭素吸着。
6	高台付椀	口14.0 器〈5.2〉 機ほぼ完形	①粗砂、雲母②還元③灰5Y¾	口縁部は斜め上方に向けて立ち上がり、先端が弱く外反する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部分を撫で調整。	①床直。
7	高台付椀	口〈14.4〉 器6.1 機¼	①粗砂②還元③灰白10YR¾	口縁部は内弯ざみに斜め外方に立ち上がる。中位でやや上に沈線状の段がつく。高台部の接地は内縁である。	左回転ロクロ成形か。	①＋３。②煤付着。器面剥離。高台部の先端は磨耗している。

8	甕	㊀ (19.5) ㊁ <5.0 ㊂口縁部¾	①粗砂、細砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	口縁部は弧状に外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の箆削り。		①埋没土。

38号住居（52図、ＰＬ29）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考	①出土状態 ②器面③その他
1	高台付甕	㊀ (18.0) ㊁ 4.7 ㊂ ¼	①粗砂少量②還元③灰白7.5YR⅝	口縁部は外傾弱く立ち上がる。高台部は低く、接地面はひろがる。	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う箆削り調整後高台を取り付け。		①電燃焼部と焚口部。
2	脚付盤	㊀ (27.8) ㊁ (4.9) ㊂ ½	①細砂②還元③灰白7.5YR⅝	盤杯部の口縁は外傾弱く立ち上がる。底部は凹状を呈する。脚部は外反著しく延びるか。	左回転ロクロ成形か。		①＋12。
3	甕	㊀ (3.3) ㊂底部¾	①黒色粘土粒②還元③暗7.5Y⅝	大型品の底部か。器肉は1.5～2.0cmと厚い。	紐づくり成形。胴部外面はロクロ回転を伴う撫で。底部外面は回転を伴う箆削りか。		①＋12。②内面に煤付着。
4	甕	㊀ (20.4) ㊁ (3.1) ㊂口縁部¾	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙５YR⅝	口縁部は屈曲後強く外傾するものと思われる。	内外面とも横撫で。		①曝右袖。②炭素吸着。一部には煤が付着している。
5	甕	㊀ (18.4) ㊁ (14.9) ㊂上半部¾	①粗砂多量②酸化③にぶい褐7.5YR⅝	口縁部は弧状に外反して立ち上がる。胴部は球形に張り出すと思われる。	口縁部の横撫で後胴部外面に斜め下方向から箆削り。部分的に撫で。内面は横方向にていねいな撫で。		①電燃焼部。②二次火熱を受け変色。
6	甕	㊀ 21.1 ㊁ (27.1) ㊂口縁部～胴部下位	①粗砂、輝石②酸化③にぶい黄橙10YR⅝	口縁部は胴部から屈曲して外反する。胴部は上位に最大径を有し、徐々に径が細くなる。	口縁部は横撫で。胴部外面は下位が上から下、中位を下から上に、上位を横方向に箆削り。内面はていねいな横撫で。胴部下位には接合痕を残す。		①曝右袖。②外面には煤状の炭素が吸着する。やや磨滅する。
7	甕	㊁ (28.0) ㊂口縁部～胴部下位¾	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10YR⅝	口縁部は屈曲、外反して立ち上がる。胴部は長胴である。最大径は上位にあるがあまり張らない。	口縁部は横撫で。胴部外面は箆削り。最上位は横方向。以下は数回に分けて縦方向に撫でている。		①電燃焼部。電磁製材と思われる。②二次火熱を受け、一部炭素吸着。
8	甕	㊀ 24.2 ㊁ 36.4 ㊂ ¾	①粗砂、軽石多量②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	口縁部は弧状に外反し最大径を有する。胴部は狭小な平底の底部に向って徐々に細くなる。	口縁部は横撫で。胴部は４回に分けて上から下に縦方向に箆削り。最上位は部分的に下から上方向。内面はやや横撫で。		①電焚口部。②外面、火熱を受けて変色、変質。内面下半黒色の付着物。

39号住居（53・54図、ＰＬ29）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考	①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊀ 12.6 ㊁ (4.6) ㊂ ½	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙５YR⅝	口縁部は強く内彎して立ち上がる。先端は内側を向く。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に箆削り。		①＋５。
2	杯	㊀ 13.1 ㊁ 4.3 ㊂ 完形	①粗砂②酸化③にぶい橙５YR⅝	口縁部は短く、内彎して立ち上がる。	口縁部は横方向の撫で。底部外面は不定方向の箆削り。		①床直。
3	杯	㊀ 11.0 ㊁ 2.9 ㊂ ¾	①粗砂少量②酸化③橙５YR⅝	器形は偏平である。口縁部は弱く内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部は撫で後不定方向に箆削り。		①床直。

4	杯	㊥ 9.7 ㊦ (3.0) ㊨ ／	①粗砂②微化③にぶい橙5ＹＲ⅚	口縁部は弱く内傾して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①－６。②外面の一部に炭素吸着。
5	杯	㊥ (13.8) ㊦ 3.9 ㊨ ／	①粗砂②微化③にぶい橙５ＹＲ⅚	器形は偏平である。口縁部は弱く内折する。	口縁部は横撫で。底部外面は上半を横方向、下半を不定方向に箆削り。内面はていねいな撫で。	①埋没土。②外面に炭素吸着。
6	杯	㊥ 11.2 ㊦ 3.1 ㊨ ／	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙５ＹＲ⅚	口縁部は弱く内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を不定方向に箆削り。内面はていねいな撫で。	①埋没土。②外面に煤付着。
7	杯	㊥ 11.1 ㊦ 3.6 ㊨ほぼ完形	①粗砂②酸化③橙５ＹＲ⅚	器形は歪んでいる。口縁部は短く、先端が弱く内彎する。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後不定方向に箆削り。	①埋没土。②器面磨滅、一部に炭素吸着。
8	杯 須恵	㊥ (11.3) ㊦ 3.4 ㊨ ／	①白色鉱物粒②還元③灰５Ｙ⅚	口縁部は底部から丸みをもって斜め上方に立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は回転箆切り離し。	①埋没土。②外面の一部に自然釉付着。
9	杯 須恵	㊥ (15.0) ㊦ (3.6) ㊨ 破片	①白色鉱物粒②還元③灰N5/	口縁部は底部から丸みをもって立ち上がり弱く外傾する。	左回転ロクロ成形か。外面は口縁部から底部への移行部分には箆削り調整が施される。	①埋没土。②内面に厚く自然釉付着。
10	高台付杯 須恵	㊥ (17.0) ㊦ 5.1 ㊨ ／	①粗砂、細礫、長石、黒色鉱物粒多量②還元③褐灰10ＹＲ⅚	器形は歪んでいる。口縁部は丸みをもって外傾弱く立ち上がる。先端は弱く外反する。高台部は強く外反して平坦な接地面をつくる。	左回転ロクロ成形。高台取り付け後接合部分、底部外面を撫で。	①埋没土。②内面に自然釉付着。口縁部の先端内面に重ね焼き痕。
11	脚付盤 須恵	㊥ (3.6) ㊨脚台部⅓	①白色鉱物粒②還元③灰白10Ｙ８⅓	脚台部は低く、ラッパ状に外反する。	左回転ロクロ成形か。盤杯部との接合部分および端部は横撫で。	①埋没土。
12	脚付盤 須恵	㊥ (6.5) ㊨盤底部～脚台部上半	①長石多量②還元③灰白N⅞	脚台部はラッパ状に外反して延びる。	右回転ロクロ成形と思われる。脚部内面は強い撫で調整。	①埋没土。③脚部は欠損後も端部を調整して使用か。
13	脚付盤 須恵	㊥ (23.9) ㊦ (4.2) ㊨ 破片	①長石、黒色鉱物粒②還元③灰N⅝	杯部は緩やかに立ち上がる。先端の面は凹状を呈する。	右回転ロクロ成形か。外面の下位は箆削り調整が施される。	①埋没土。②内外面に自然釉付着。
14	蓋 須恵	㊥ (19.0) ㊦ (2.7) ㊨ ／	①粗砂少量②還元やや軟質③灰白2.5Ｙ⅞	天井部は低く丸みがある。口縁部の内面にかえりがつく。つまみは欠落している。	右回転ロクロ成形。天井部の上半は回転を伴う箆削り。つまみの接合後周辺に横撫でを施している。	①埋没土。
15	甕	㊥ 23.0 ㊦ (25.0) ㊨口縁部～胴部下位	①粗砂、細砂②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ⅞	口縁部は屈曲後、外反著しく立ち上がる。胴部は弱く張り、最大径は中位よりやや上にあるかか。	口縁部は横撫で。胴部外面は上半を下から斜め方向に箆削り。下半を上から斜め方向に箆削り。内面は横方向の箆撫で。下半には幅狭い磨状の撫で。	①電右袖前、床直。②二次火熱を受け煤付着。
16	甕	㊥ 18.2 ㊦ (22.8) ㊨上半部	①粗砂②酸化③浅黄橙10ＹＲ⅝	口縁部は弧状に弱く外反する。胴部は長胴であるが残存部分での径の変化は少ない。	口縁部を横撫で後、胴部外面を縦方向に箆削り。上位は下から上方向、中位は上から下方向である。	①電左前のピット内。②二次火熱を受け赤変。炭素吸着。

40号住居（55図、ＰＬ29）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	甕	⑪（20.0） ⑬ 〈5.0〉 ⑮口縁部％	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ％	口縁部は弧状に外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向に箆削り。	①＋７。②炭素吸着。
2	甕	⑪（20.0） ⑬〈15.3〉 ⑮口縁部～胴部中位％	①粗砂②酸化③にぶい橙５ＹＲ％	口縁部は外傾斜く立ち上がる。胴部は上位に最大径をもつがあまり張らない。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め下方向からの箆削り。部分的にその上を撫でている。内面は横方向の箆撫で。	①環燃焼部。②二次火熱を受けている。

41号住居（56図、ＰＬ30）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 10.3 ⑬ 3.0 ⑮ ％	①粗砂、輝石②酸化③橙５ＹＲ％	口縁部は弱く内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後不定方向の箆削り。	①床直。
2	杯	⑪ 12.3 ⑬ 3.9 ⑮ ％	①粗砂少量②酸化③橙５ＹＲ％	口縁部は半球形を呈し、斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①周溝内。
3	杯	⑪ 11.1 ⑬ 3.2 ⑮ ％	①粗砂②酸化③橙５ＹＲ％	器形は歪んでいる。口縁部は底部に続き斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後不定方向に箆削り。一部に型肌状のひび割れが残る。	①＋６。
4	杯	⑪ 12.7 ⑬ 4.1 ⑮ 完形	①粗砂少量②酸化③にぶい橙５ＹＲ％	器形は歪んでおり短径は12.1cmである。口縁部は内彎し、先端は内側が弱くそげる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。内面は平滑な撫で。	①＋５。②炭素吸着。
5	杯	⑪ 10.4 ⑬ 2.8 ⑮ ％	①粗砂少量②酸化③にぶい橙５ＹＲ％	口縁部は底部から内彎、直立ぎみに立ち上がる。	内外面とも剥離磨滅が著しく、調整方法は不明確。	①埋設土。
6	杯	⑪ 11.7 ⑬ 4.2 ⑮ 完形	①粗砂、輝石②酸化③橙2.5ＹＲ％	口縁部は弱く屈曲、直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。胴部外面は撫で後下半を不定方向に横撫で。	①埋設土。②二次火熱を受け炭素吸着。内面の剥離顕著。
7	杯	⑪（11.6） ⑬〈3.1〉 ⑮ ％	①粗砂少量②酸化③にぶい橙５ＹＲ％	口縁部は底部から内彎、斜め上方に立ち上がる。先端は尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に箆削り。	①埋設土。②外部に黒斑。
8	甕	⑪（10.4） ⑬〈6.2〉 ⑮上半部％	①粗砂、細礫②酸化③にぶい橙５ＹＲ％	小型の口縁部は短い、屈曲して外傾する。胴部は横長に丸く張る。	口縁部及び胴部最上位は横撫で。胴部外面は横方向の箆削り。内面は箆撫で。	①＋７。②器面はやや磨滅している。
9	瓶 須恵	⑪〈19.5〉 ⑮胴部％	①白色鉱物粒②還元③灰５Ｙ％	口縁部は欠損している。胴部はフラスコ形瓶に似て、ほぼ球形に近いものである。	胴部は紐づくり成形か。左回転のロクロを使用し調整が施される。側面は回転を伴う箆削りである。	①床直。②一部に自然釉が付着している。③欠損後、鉢として再利用か。
10	高台付杯 須恵	⑪ 19.8 ⑬ 5.6 ⑮ ％	①粗砂②還元、軟質③灰白7.5Ｙ％	口縁部は内彎して、斜め上方に立ち上がる。高台部は低く、ハの字状に延びる。	右回転ロクロ成形。口縁部の下半は回転を伴う箆削り調整。底部切り離し後高台取り付け。	①＋４。

11	甕	⑪ 22.4 ㊐ 〈8.5〉 ㊖口縁部～胴部上位	①雲母多量②酸化③にぶい黄橙10YR 5/4	口縁部は外反して立ち上がる。胴部は長胴を呈すると思われる。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め下方向からの箆削り。	①床直。上に9が重なっていた。②一部に炭素吸着。
12	甕	⑪ (23.0) ㊐ 35.5 ㊖ 〈 〉	①雲母②酸化③橙5YR 6/6	口縁部は弧状に外反して立ち上がる。胴部は長胴で上位に最大径を有し、徐々に細くなる。	口縁部は横撫で。胴部外面は上位から下位にかけて2～3回に分けて箆削り。下位は横方向の箆削り。	①床直。②外面は二次火熱を受けている。炭素吸着。

42号住居（59図、ＰＬ30）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	⑪ (10.9) ㊐ 〈3.4〉 ㊖ 〈 〉	①雲母少量②酸化③にぶい橙5YR 7/4	口縁部は底部からまっすぐ延びる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①＋11。
2	杯	⑪ (11.6) ㊐ 〈3.1〉 ㊖ 破片	①雲母、赤色粘土粒②酸化③橙5YR 7/6	口縁部は丸底の底部から斜め上方に向けて立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後平平を箆削り。	①床直。
3	杯	⑪ (12.0) ㊐ 〈2.6〉 ㊖ 破片	①雲母②酸化③橙5YR 6/6	口縁部は短く、直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は箆削り。	①埋没土。②二次火熱を受けている。
4	杯	㊐ 〈1.3〉 ㊖底部破片	①雲母②酸化③橙5YR 7/6	底部の破片である。	外面は不定方向の箆削り。	①埋没土。③外面に墨書。判読不明。
5	高台付杯 須恵	⑪ (16.7) ㊐ 3.9 ㊖ 〈 〉	①雲母、黒色・白色鉱物粒②還元③灰白7.5Y 7/1	口縁部は外傾弱く立ち上がる。高台部は断面台形、内縁が接地する。	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う箆削り調整後高台を取り付け。接合部分に横撫でを施す。	①＋15。②自然釉が付着している。
6	高台付杯 須恵	㊐ 〈3.1〉 ㊖口縁部下半～高台	①細線状の黒色土粒②還元③灰白7.5Y 7/1	口縁部は丸みをおびて斜め上方に立ち上がる。高台部は低く、断面三角形を呈する。	右回転ロクロ成形と思われる。口縁部最下位の外面は回転を伴う箆削り。底部も回転を伴う箆削り調整が施される。	①埋没土。
7	高台付椀 灰釉	㊐ 〈3.6〉 ㊖口縁部下半～高台部	①精選、白色鉱物粒②還元③灰白2.5Y 7/1	高台部の外傾は弱い。先端はやや細くなる。	右回転ロクロ成形。底部切り離し後高台取り付け。	①埋没土か。②内面に重ね焼き痕。内外面に施釉。
8	甕	⑪ (20.4) ㊐ 〈7.3〉 ㊖口縁部	①雲母多量②酸化③橙7.5YR 7/6	口縁部は屈曲、強く外反する。先端は丸く、内側に立ち上がる。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め方向に箆削り。	①埋没土。

43号住居（60図、ＰＬ30）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	⑪ 12.5 ㊐ 4.1 ㊖ 〈 〉	①雲母、石英②酸化③にぶい橙5YR 6/4	口縁部は弱く屈曲、内弯ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。胴部外面は不定方向に箆削り。	①床直。
2	杯	⑪ (11.0) ㊐ 3.4 ㊖ 〈 〉	①雲母、礫②酸化③にぶい橙5YR 6/4	口縁部は底部から内弯して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後不定方向の箆削り。	①埋没土。

3	杯	⑪ (10.0) ⑭ 3.1 ⑯ 〃	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙５ＹＲ⅝	口縁部は弱く屈曲、内弯ぎみに立ち上がる。先端はやや尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後不定方向に荒削り。	①埋設土。
4	杯	⑪ (13.5) ⑭ 〈3.0〉 ⑯口縁部⅓	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ⅝	口縁部は内弯して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を荒削り。	①埋設土。
5	杯	⑪ (14.8) ⑭ 〈2.9〉 ⑯ 破片	①粗砂、輝石②酸化②にぶい橙５ＹＲ⅝	偏平で皿状を呈する。	口縁部は横撫で。底部外面は荒削り。	①埋設土。
6	蓋 須恵	⑪ 9.9 ⑭ 2.0 ⑯ 完形	①黒色鉱物粒②還元③灰白N7/	小型品。天井部は平坦な面をなす。内面の端部に小さなかえりがつく。つまみはボタン状を呈する。	右回転ロクロ成形。つまみの周辺と口縁部は横撫で。天井部外面には回転を伴う荒削りが施されている。	①床直。②外面に自然釉付着。
7	甕	⑪ (24.0) ⑭ 〈6.5〉 ⑯ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙５ＹＲ⅝	小破片のため全体の形状は不明確。口縁部は弱く外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。胴部外面は荒削り。内面は刷毛状の荒撫で。	①埋設土。②炭素吸着。
8	甕	⑪ (16.7) ⑭ 〈3.8〉 ⑯ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙５ＹＲ⅝	口縁部はコの字状口縁を呈するか。	横撫で。	①埋設土。
9	土錘	長さ、49mm。最大径11.5～13.0mm。内径は４～５mm。形状は紡錘状を呈する。器面はていねいな撫で。一部が磨滅している。両端の孔には細かな欠損が認められる。重さは6.9g である。				

44号住居（62図、ＰＬ30）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 14.3 ⑭ 5.0 ⑯ 〃	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5Ｙ Ｒ⅝	口縁部はやや内弯ぎみに斜め上方に立ち上がる。底部は平底である。	口縁部は撫で後先端を横撫で。下半は横方向に荒削り。底部は砂底で部分的に荒削りを施す。内面は荒撫で。	①＋９。②外面に黒斑。
2	高台付椀	⑪ (14.0) ⑭ 〈4.1〉 ⑯口縁部⅓	①粗砂②酸化③にぶい橙５Ｙ Ｒ⅝	口縁部は外傾して立ち上がる。先端は弱く外反する。	口縁部は撫で後先端を横撫で。下半は斜め上方向から荒削り。高台接合部分は横撫で。	①電熱口部。②二次火熱を受けている。
3	高台付椀	⑪ (14.0) ⑭ 〈4.9〉 ⑯口縁部⅓ 高台部欠損	①粗砂②酸化③明赤褐５Ｙ Ｒ⅝	口縁部は外傾、直線的に立ち上がる。	口縁部の外面は撫で後先端を横撫で。下半は横方向の荒削り。高台接合部分は横撫で。	①床直。②炭素吸着。
4	杯	⑪ (12.4) ⑭ 4.8 ⑯ 〃	①粗砂、雲母②還元③灰５Ｙ⅝	口縁部は外傾弱く内弯ぎみに立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①電熱焼部。②二次火熱を受け赤変している。底部は磨滅。
5	甕	⑪ (18.6) ⑭ 〈6.4〉 ⑯口縁部⅓	①粗砂、輝石②酸化③橙５Ｙ Ｒ⅝	口縁部は屈曲、弱く外傾する。胴部は丸く張るか。	口縁部は横撫で。胴部外面は荒削り。	①電熱焼部。②外面に煤付着。

46号住居（63図、ＰＬ31）

番号	器種	法量	①胎土 ②成成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 12.2 ㊙ 3.3 ㊙ほぼ完形	①粗砂②酸化③に ぶい橙7.5YR⅝	口縁部はやや外傾して立ち上がる。底部は偏平で平底ぎみになる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で。指頭圧痕が明瞭に残る。その後下位を篦削り。	①＋３。②炭素吸着。黒色みをおびる。
2	杯	⑪ 14.6 ㊙ 4.2 ㊙ほぼ完形	①粗砂②酸化③に ぶい橙５YR⅝	口縁部は直立ぎみに弱く外傾する。底部は平底を意識して作成されている。	口縁部は横撫で。底部外面は口縁部直下に撫でを残すが大半は不定方向の篦削り。	①電焼口部。②二次火熱を受け、炭素吸着。内面磨滅。
3	杯 須恵	⑪ (11.4) ㊙ 3.5 ㊙ ⅔	①白色鉱物粒②還元③灰N6/	口縁部は内彎ぎみに斜め上方に立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し後無調整。	①床直。
4	杯 須恵	⑪ (14.4) ㊙ 〈3.7〉 ㊙ ⅓	①白色鉱物粒②還元、やや軟質③灰白7.5Y⅔	口縁部は短く、斜め上方に内彎ぎみに立ち上がる。	右回転ロクロ成形か。底部切り離し後、手持ち篦削り調整。口縁部の下半も篦削り。	①埋没土。
5	甕	⑪ (22.0) ㊙ 〈13.2〉 ㊙口縁部～胴部上位⅓	①粗砂、細砂②酸化③にぶい橙５YR⅝	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。胴部は上位に最大径をもつと思われる。	口縁部は横撫で。胴部外面は上位を横方向に、中位を斜め上方から篦削り。内面は撫で。	①電焼後部。
6	甕	㊙ 〈9.9〉 ㊙下半部	①粗砂、細砂②酸化③にぶい橙５YR⅝	胴部は上位に最大径をもつと思われる。平底。	胴部外面は斜め上方向から篦削り。底部も篦削り。	①電焼後部。②煤付着。

47号住居（64図、ＰＬ31）

番号	器種	法量	①胎土 ②成成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 12.3 ㊙ 3.2 ㊙ ⅓	①粗砂②酸化③橙５YR⅝	口縁部は平底の底部から起き、外傾弱く立ち上がる。	口縁部は撫で後先端を横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①＋３。③底部外面の中央に墨書。判読不明。
2	杯	㊙ 〈0.8〉 ㊙底部破片	①粗砂②酸化③にぶい橙５YR⅝	底部の破片である。	外面は不定方向の篦削り。	①埋没土。③外面に墨書。判読不明。
3	甕	⑪ (18.8) ㊙ 〈4.6〉 ㊙口縁部⅓	①粗砂、細礫②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	口縁部は弱く外傾して立ち上がり、先端は強く外反する。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の篦削り。内面は撫で。	①埋没土。②内外面とも炭素吸着。
4	杯 須恵	⑪ (13.8) ㊙ 3.4 ㊙ ⅓	①細砂②還元、軟質③灰褐7.5YR⅝	偏平。口縁部は外傾著しく立ち上がるが下位に変換点をもち、その度合を弱めて起き上がる。	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う篦削り。	①埋没土。②炭素吸着。
5	高台付椀 須恵	㊙ 〈1.3〉 ㊙高台部	①粗砂、長石②還元③灰7.5Y⅔	口縁部は高台部の接合部分で剝落している。高台部は断面、三角形。外傾弱く延びる。	右回転ロクロ成形。底部を撫で調整後高台を取り付け。	①＋15。②炭素吸着。③口縁部の欠落は汽事か。

48号住居（65図、ＰＬ31）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	高台付椀	口 (3.0) 底 (4.8) 器 破片	①粗砂、軽石②酸化③にぶい橙10YR6/4	口縁部は内彎ぎみに斜め上方に立ち上がる。高台部は低く小径である。	右回転ロクロ成形。底部を回転糸切り離し後高台を取り付け。高台接合部分を撫で調整。	①床直。②外面の一部に煤付着。
2	甕	口 (26.0) 底 (4.8) 器 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR6/4	口縁部は弧状に外反する。先端の内面は受け口状にそげる。法量は変更の可能性がある。	口縁部は横撫で。胴部外面は荒削り。	①埋設土。

49号住居（66図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	甕	口 (22.0) 器 (14.8) 器 口縁部、胴部破片	①粗砂②酸化③にぶい褐7.5YR5/3	口縁部は弧状に立ち上がる。胴部は上位に最大径をもつと思われる。	口縁部は横撫で。胴部外面の上半は横あるいは斜め下方向から荒削り。下半は斜め上方向から荒削り。	①埋設土。②炭素吸着。③砥上復元。
2	杯	口 (13.0) 器 (3.2) 器 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR6/4	小破片のため法量に変更の可能性がある。口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は荒削り。	①埋設土。
3	杯	口 (18.2) 器 (2.9) 器 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR6/4	器形の歪みが著しく、口径については把握しがたい。口縁部は短く、内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は荒削り。	①埋設土。
4	杯 須恵	口 (14.0) 器 (2.5) 器 破片	①粗砂状の白色鉱物粒②還元③灰10Y5/1	口縁部は斜め上方に立ち上がる。	右回転ロクロ成形。	①埋設土。

50号住居（67図、ＰＬ31）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	口 11.0 器 3.5 器 ほぼ完形	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR6/4	口縁部は内彎して立ち上がり、先端が内側を向く。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後不定方向の荒削り。	①＋5、②炭素吸着。
2	杯	口 (12.0) 器 (3.1) 器 破片	①粗砂②酸化③にぶい褐7.5YR5/3	口縁部は底部から内彎、直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に荒削り。	①埋設土。②炭素吸着。
3	杯	口 (13.0) 器 (2.7) 器 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR6/4	口縁部は底部から内彎、斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後不定方向の荒削り。	①埋設土。
4	台付甕	器 (3.3) 器 脚台部欠	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10YR6/3	台部は低く、外反著しく延びる。	外面は撫で後縦方向に下から荒削り。内面は撫で。	①床直。
5	杯？ 須恵	口 (12.0) 器 (3.1) 器 破片	①白色鉱物粒②還元③灰7.5Y5/1	口縁部は内彎する底部に続き、外反著しく立ち上がる。高杯の杯部の可能性も考えられる。	右回転ロクロ成形。外面の一部に荒削り。	①埋設土。

6	壺 須　恵	㊥ 〈5.8〉 ㊧胴部破片	①細砂少量②還元 ③黄灰2.5Y5/1	胴部は横に丸く張る。	右回転ロクロ成形か。	①埋没土。②自然釉が付着する。

51号住居（68図、ＰＬ31）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊤ 11.2 ㊥ 3.9 ㊧ 5/6	①細砂②酸化③にぶい橙5YR6/4	口縁部は短く、内彎する。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を箆削り。	①+21。
2	杯	㊤ 15.8 ㊥ 5.5 ㊧ 5/6	①細砂②酸化③橙5YR6/6	口縁部は短く、内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①+3。
3	杯	㊤ 〈13.3〉 ㊥ 〈2.7〉 ㊧ 1/4	①細砂②酸化③橙5YR6/6	底部が浅く偏平である。口縁部は直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を箆削り。	①埋没土。②一部に煤が付着。
4	杯 須　恵	㊥ 〈2.1〉 ㊧口縁部下位～底部5/6	①細砂②還元、軟質③灰白5Y7/1	口縁部は外傾著しく立ち上がったものが中位に変換点をもち、起き上がる。	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う箆削り調整。	①埋没土。②外面に炭素吸着。③47住―4に類似。
5	杯 須　恵	㊤ 〈7.9〉 ㊥ 〈3.2〉 ㊧ 1/4	①白色鉱物粒②還元③灰白N7/	立ち上がりは直立、弱く内傾する。受け部は小さく丸い。	右回転ロクロ成形。底部外面の下半は手持ち箆削り。	①埋没土。

52号住居（69図、ＰＬ31）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊤ 〈12.8〉 ㊥ 〈2.4〉 ㊧ 破片	①細砂②酸化③橙7.5YR6/6	口縁部は底部から内彎して立ち上がり斜め上方に弱く外傾する。先端は内側を向く。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を横撫で。	①埋没土。
2	杯	㊤ 〈13.8〉 ㊥ 〈3.3〉 ㊧ 破片	①細砂②酸化③にぶい褐7.5YR5/4	口縁部は屈曲、直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①埋没土。
3	椀 ?	㊤ 〈13.6〉 ㊥ 〈3.4〉 ㊧ 破片	①細砂②酸化③にぶい赤褐5YR5/4	口縁部は底部から弱く屈曲した後外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は横方向の箆削り。	①埋没土。②炭素吸着。
4	蓋 須　恵	㊤ 16.6 ㊥ 2.4 ㊧ 3/4	①黒色鉱物粒②還元③灰白7.5YR7/1	天井部は低い。口縁部の端部内面に弱いかえりがつく。つまみはリング状を呈する。	右回転ロクロ成形と思われる。天井部は回転を伴う箆削り。端部は横撫で。	①床直。②内外面の端部に自然釉付着。重ね焼き痕がある。

53号住居（71図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊤ 〈16.0〉 ㊥ 〈2.7〉 ㊧ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後箆削りと思われる。	①埋没土。②器面磨滅。

2	杯	㊀ (14.8) ㊁ 〈2.1〉 ㊂ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR⅞	口縁部は立ち上がりの中位に弱い稜をもっている。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り。	①埋没土。②二次火熱を受けている。

55号住居（72図、ＰＬ31）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊀ (10.8) ㊁ 〈2.8〉 ㊂ 破片	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅞	口縁部は底部との間に弱い稜をもって外反する。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削りと思われる。	①床直。
2	高台付椀	㊀ (14.2) ㊁ 4.8 ㊂ ⅞	①細礫少量②還元、軟質③灰黄2.5Y⅞	口縁部は斜め上方に向け立ち上がり、先端が弱く外反する。高台部は断面、台形。内縁が境地する。	右回転ロクロ成形と思われる。底部は回転糸切り離し後高台を取り付け。	①床直。③切り離しが粗雑で粘土塊で補修をしている。
3	甕	㊀ 22.6 ㊁ 〈16.6〉 ㊂上半部	①粗砂多量、軽石②酸化③にぶい橙5YR⅞	口縁部は外反して立ち上がる。胴部は長胴を呈すると思われ、あまり張らない。	口縁部は横撫で。胴部外面は篦削り。内面は横方向にていねいな横撫で。	①床直。②二次火熱を受け赤変している。炭素吸着。
4	甕	㊀ (21.8) ㊁ 〈12.6〉 ㊂口縁部～胴部上位⅞	①粗砂多量②酸化③にぶい黄橙10YR⅞	口縁部は外反して立ち上がる。胴部は長胴であまり張らない。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め方向からの篦削り。	①床直。②二次火熱を受け炭素吸着。

56号住居（73図、ＰＬ31）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊀ (12.5) ㊁ 4.0 ㊂ ⅞	①粗砂、輝石②酸化③橙7.5YR⅞	口縁部は内弯して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を不定方向に篦削り。上半には指頭圧痕が顕著。	①床直と別住埋没土と接合。②内面の一部に炭素吸着。
2	杯	㊀ 10.7 ㊁ 3.2 ㊂ ⅞	①粗砂②酸化③橙7.5YR⅞	口縁部は内弯、緩やかに起き上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を不定方向に篦削り。	①埋没土。②器面はやや磨滅。
3	杯	㊀ (14.7) ㊁ 〈4.4〉 ㊂ 破片	①粗砂、細砂②酸化③橙5YR⅞	破片のため形状は不明瞭であるが、口縁部は屈曲、内浩する。底部は深長か。	口縁部は横撫で。底部外面は横方向の篦削り。内面はていねいな撫で。	①埋没土。②外面に黒色の付着物。
4	杯 須恵	㊀ (11.7) ㊁ 3.6 ㊂ ⅞	①黒色鉱物粒②還元③灰N⁷	口縁部は外傾弱く立ち上がり先端が尖る。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後、周縁部分を篦削り調整。	①竈焚口部。③底部外面に筐による刻書。
5	杯 須恵	㊀ 13.1 ㊁ 3.2 ㊂ほぼ完形	①粗砂状の鉱物粒②還元③灰N⁷	器高は低い。口縁部は弱く外傾して立ち上がる。底部の器肉は厚い。	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う篦切り離し。	①＋③。③底部外面に筐による。
6	打製石斧 縄文	長さ121mm、最大幅58mm、厚さ15mmを測る。短冊形を呈する。		表面には自然面を多く残している。また先端は使用により著しく磨耗している。重量は108.8g。石質は黒色頁岩である。		①埋没土。

58号住居（74図、ＰＬ32）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	口 14.3 底 4.6 残 完形	①粗砂、軽石②酸化③灰褐7.5YR 5/2	器形はやや歪む。口縁部は底部との間に稜をもって外傾する。中位にも弱い稜をもつ。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に箆削り。内面は撫で。	①＋6。②炭素吸着し黒色みをおびる。二次火熱を受けている。

59号住居（75図、ＰＬ32）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	口〈11.2〉 底〈2.7〉 残 破片	①粗砂②酸化③橙7.5YR 7/4	口縁部は内彎して立ち上がる。先端は尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下平を箆削り。	①埋没土。
2	杯	口〈12.0〉 底〈3.0〉 残 破片	①粗砂少量②酸化③明赤褐5YR 5/6	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①埋没土。②外面に炭素吸着。
3	杯	口〈13.0〉 底〈3.0〉 残 ¼	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR 6/4	口縁部は偏平な底部から起き、斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下平を箆削り。外面には型肌状のひび割れを残す。	①電燃焼部。
4	杯	口〈15.7〉 底〈2.9〉 残 破片	①粗砂②酸化③橙5YR 6/6	口縁部は外傾著しく立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は箆削り。	①埋没土。
5	蓋 須恵	口〈14.3〉 底 2.9 残 ¼	①黒色鉱物粒②還元③灰白7.5Y 7/1	口縁部の先端は内側に弱く折れる。天井部が中央がへこみリング状を呈する。	右回転ロクロ成形。天井部外面は回転を伴う箆削り。つまみ接合部分と口縁部の先端は撫で。	①床直。②外面に自然釉付着。

61号住居（76図、ＰＬ32）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	口〈13.2〉 底〈2.9〉 残 ¼	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR 6/4	偏平。口縁部は直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後、不定方向の箆削り。	①埋没土。②一部に炭素吸着。
2	杯	口〈11.6〉 底〈3.0〉 残 破片	①粗砂②酸化③橙7.5YR 6/6	口縁部は直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後不定方向の箆削り。	①床直。
3	杯	底〈9.8〉 残底部破片	①粗砂②酸化③にぶい褐7.5YR 5/4	底部の破片である。	外面は不定方向の箆削り。	①埋没土。③外面に墨書「文部」。
4	杯 須恵	口〈13.4〉 底〈2.9〉 残 ¼	①白色鉱物粒②還元③黄灰2.5Y 5/1	口縁部は斜め上方に向けて立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部外面は回転を伴う箆削り調整と思われる。	①床直。
5	甕	口〈18.8〉 底〈5.6〉 残 破片	①粗砂、雲母②酸化③明褐7.5YR 5/6	口縁部は外反して立ち上がり、先端は丸く外側を向く。胴部との間には稜がつく。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向の箆削り。	①埋没土。②二次火熱を受けているか。

62号住居（77図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	㋑ (13.3) ㋺ 〈3.3〉 ㋩ 破片	①粗砂②酸化③橙7.5YR⅝	口縁部は外反して斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は荒削り。	①埋設土。
2	高台付鉢須恵	㋺ 〈4.8〉 ㋩口縁部下半～高台部⅓	①白色鉱物粒②還元③灰N⅞	高台部は低く、断面三角形である。	口縁部は右回転のロクロ調整。	①埋設土。

63号住居（78図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	㋑ (12.0) ㋺ 〈3.1〉 ㋩ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR⅝	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に荒削り。	①埋設土。
2	杯	㋑ (15.2) ㋺ 〈2.4〉 ㋩ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR⅝	口縁部は内彎して立ち上がり、先端は尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後不定方向に荒削り。	①埋設土。
3	杯須恵	㋑ (11.3) ㋺ 〈3.0〉 ㋩ 破片	①黒色鉱物粒②還元③灰10Y⅝	口縁部は外傾して立ち上がる。	右回転ロクロ成形。	①埋設土。
4	杯須恵	㋺ 〈1.0〉 ㋩ 破片	①粗砂少量②還元③灰7.5Y⅝	底部の破片である。	右回転ロクロ成形。底部外面は荒削り調整。	①埋設土。②外面は炭素吸着。
5	壺	㋑ (18.0) ㋺ 〈5.6〉 ㋩ 破片	①粗砂、雲母②酸化③にぶい橙5YR⅝	口縁部は屈曲、外傾して立ち上がる。肩部は弱く張るか。	口縁部は横撫で。底部外面は荒削り。内面は荒撫で。	①埋設土。

64号住居（79図、ＰＬ32）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	㋑ (11.7) ㋺ 〈4.5〉 ㋩ 破片	①細砂、輝石②酸化	口縁部は外反して斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。	①床直。②炭素が吸着し黒色みをおびる。
2	杯	㋑ (11.7) ㋺ 〈2.8〉 ㋩ 破片	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は斜め上方に立ち上がり、先端は内側を向く。	口縁部は撫で後先端を横撫で。底部外面は荒削り。	①埋設土。
3	杯	㋑ (11.7) ㋺ 〈2.1〉 ㋩ 破片	①粗砂②酸化③橙7.5YR⅝	底部は浅く、口縁部は斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を荒削り。	①＋6。
4	杯須恵	㋑ (13.4) ㋺ 3.5 ㋩ ⅔	①精選、白色鉱物粒②還元③灰N⅞	口縁部は斜め上方に立ち上がる。先端は尖る。	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う荒切り離し。	①＋21。

5	杯 須恵	⑪ (12.1) ㊥ 4.1 ㊦ ½	①黒色鉱物粒②還元③灰白5Y7/1	口縁部は斜め上方に立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①＋6。②口縁部先端の外面に炭素吸着。
6	杯 須恵	⑪ (12.6) ㊥ 4.6 ㊦ ½	①黒色鉱物粒②還元③灰白7.5Y7/1	口縁部は斜め上方に立ち上がるが、やや短長である。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①＋6。②底部外面の周縁部分はやや磨滅する。

65号住居（81図、ＰＬ32）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②部位 ③その他
1	杯	⑪ 11.2 ㊥ 4.5 ㊦ 完形	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR7/4	器形は著しく歪んでいる。口縁部は底部との間に弱い稜をもち、緩やかに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①貯蔵穴。②器面は磨滅が著しい。
2	杯	⑪ (13.0) ㊥ 〈3.9〉 ㊦ ¼	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR7/4	器形は歪んでいる。口縁部は底部との間に稜をもち斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削りと思われる。	①床直。竈右袖付近。②二次火熱を受けている。器面は磨滅。
3	杯	⑪ (13.0) ㊥ 〈4.0〉 ㊦ 破片	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR7/4	口縁部は弱く弯曲して斜め上方に立ち上がる。底部との間の稜はごく弱いものである。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り。	①床直。竈右袖付近。
4	杯	⑪ (11.8) ㊥ 〈3.4〉 ㊦ ¼	①赤色粘土粒②酸化③にぶい橙5YR7/4	口縁部は底部との間に稜をもち斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り。	①床直。②黒色の付着物。磨滅が著しい。
5	杯	⑪ (13.5) ㊥ 〈4.5〉 ㊦ ½	①粗砂少量②酸化③にぶい橙5YR7/4	口縁部は底部との間に弱い稜をもって斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①埋設土。
6	杯	㊥ 〈0.6〉 ㊦底部破片	①粗砂②酸化③橙7.5YR7/6	底部の破片である。	底部外面は篦削り。	①埋設土。③内面に刻書。
7	杯	⑪ (10.4) ㊥ 〈3.3〉 ㊦ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR7/4	口縁部は内弯して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に篦削り。	①埋設土。②器面は剥離、磨滅。
8	杯	⑪ (16.0) ㊥ 〈4.4〉 ㊦ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は短く内折して立ち上がる。先端は尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り。	①埋設土。②器面の一部に炭素吸着。
9	杯 須恵	㊥ 〈3.7〉 ㊦下半部¼	①長石②還元③灰7.5Y7/1	口縁部は弱く弯曲して斜め外方に立ち上がる。底部は凸状である。	右回転ロクロ成形と思われる。底部外面は手持ち篦削り。	①埋設土。
10	杯 須恵	㊥ 〈1.9〉 ㊦ 破片	①白色鉱物粒②還元③灰白2.5Y7/1	底部は弱い凸状を呈する。	右回転ロクロ成形と思われる。底部は切り離し後周縁部分に回転を伴う篦削り。	①埋設土。
11	鉢	⑪ (21.0) ㊥ 〈8.3〉 ㊦口縁部½	①粗砂、赤色粘土粒、輝石②酸化③にぶい橙5YR7/4	口縁部は底部との間に稜をもち、弱く外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。胴部外面は上半を下から縦方向に篦削り。中位に横方向、下半に上から下方向に篦削り。内面はていねいな撫で。	①埋設土。②二次火熱を受けていたか。
12	鉢	⑪ (24.0) ㊥ 〈7.6〉 ㊦ 破片	①赤色粘土粒少量②酸化③橙5YR7/4	口縁部は中位に弱い稜をもって外傾弱く立ち上がる。底部は深長である。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に篦削り。内面は撫で。	①埋設土。

13	壺	径(13.5) 器胴部下位～底部	①粗砂、雲母多量②酸化③にぶい橙5YR5/6	胴部は球状に大きく張り出す。	胴部外面は上から下方向に箆削り。	①＋5。②二次火熱を受けているか。内面は全て剥離。黒斑。
14	甕	径(6.4) 器胴部外	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙7.5YR5/6	胴部は球形で横に張る。底部は弱い上げ底を呈する。口縁部は屈曲して立ち上がったか。	胴部は箆削り。その前に刷毛目が施されたか、部分的に残存する。内面は指頭による強い撫で。	①床面。②内外面とも炭素吸着。
15	壺	径 18.5 器(29.0) 器口縁部～胴部下位	①粗砂多量②酸化③にぶい橙7.5YR5/6	口縁部は弧状に弱く外反する。胴部との境と中位に明瞭な稜をもつ。胴部は長胴であまり張らない。	口縁部は数回に分けて強い横撫で。胴部外面は縦方向、上から下に数回に分けて箆削り。内面は横方向に箆削で。	①竈右袖。破片は左袖付近からも出土。②二次火熱を受けている。煤付着。
16	壺	径 20.2 器(35.9) 器口縁部～胴部下位5/6	①粗砂多量②酸化③にぶい橙7.5YR5/6	口縁部は弧状に外反して立ち上がる。胴部は長胴で中位に最大径をもち、以下底部に向けて徐々に細くなる。	口縁部は横撫で。中位に弱い稜が認められる。胴部外面は縦方向の箆削り。上から中位は下方向から、下位は上方向からである。	①竈左袖。右袖の破片とも接合。②二次火熱を受けている。器面の一部に黒斑。

66号住居（82図、ＰＬ32）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	径(12.0) 器 3.3 脚 ⅓	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR6/8	口縁部は短く、直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位の一部を残し不定方向の箆削りを施す。	①床直。③内面に箆による刻書。
2	杯	径(11.1) 器(3.3) 脚 ⅓	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR6/4	口縁部は短く、直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削りを施す。	①埋投土。
3	杯	径 12.4 器 3.6 脚 ⅔	①粗砂②酸化③橙5YR6/8	口縁部は短く、直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に箆削りを施す。	①＋5。②底部外面に黒斑。
4	杯	径(12.0) 器(3.8) 脚 ⅓	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR6/4	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削りを施す。	①床直。
5	杯	径(11.4) 器 3.2 脚 ⅓	①粗砂②酸化③にぶい褐7.5YR5/4	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は箆削り。内面はていねいな撫でで平滑になっている。	①埋投土。②底部外面に黒斑。
6	杯	径(11.4) 器 3.8 脚 ⅓	①粗砂②酸化③橙5YR6/8	やや歪んでいるか。口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位を除き箆削りを施す。	①埋投土。
7	蓋 鈕	径 (1.1) 器 破片	①黒色鉱物粒②還元③灰白7.5YR7/1	天井部の破片である。小径で天井部の膨らみが弱い。つまみは欠落している。	右回転ロクロ成形。天井部外面は回転を伴う箆削り。	①埋投土。
8	壺	径(20.4) 器(15.8) 器上半部5/6	①細砂②酸化③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は弱く外反して立ち上がる。先端の内面は沈線状にへこむ。胴部は張り出し球胴を呈するか。	口縁部は横撫で。胴部外面は横あるいは斜め方向の弱い箆削り。部分的にその上を撫でている。内面は撫で。	①埋投土。②外面に黒色の付着物。
9	甕	径 22.8 器(8.3) 器口縁部～胴部上位	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部は屈曲、弱く外傾して立ち上がる。胴部は大きく張り出すと思われる。	口縁部は横撫で。接合痕を明瞭に残す。胴部外面は横方向に箆削り。内面は横方向の箆撫で。	①＋3。②内面の一部に黒斑。③胴部欠損後も器台様に二次利用か。

10	甕	⑪ 24.3 ㊙ 〈34.4〉 ㊐口縁部～胴部下位5Y	①粗砂、雲母②酸化③にぶい橙7.5YR5/4	口縁部は外反して立ち上がる。胴部は長胴で上位に最大径をもって弱く張る。	口縁部は横撫で。胴部外面は上位を斜め下方向から箆削り。中位は上から縦方向に箆削り。内面はていねいな箆撫で。		①床直。②外面の一部に煤が付着している。

67号住居（83図、ＰＬ33）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 11.8 ㊙ 3.1 ㊐ 完形	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR5/4	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。底部も緩やかな凸状を呈する。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後、周縁部分を除いて箆削りを施す。内面は平滑となっている。	①＋14。②内外面に炭素吸着。
2	杯	⑪ 12.2 ㊙ 3.8 ㊐ほぼ完形	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10YR7/4	器形はやや歪んでいる。口縁部は底部から内彎し斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削りを施す。	①床直。②口縁部の先端に炭素吸着。
3	杯	⑪ 13.2 ㊙ 3.7 ㊐ほぼ完形	①粗砂少量②酸化③橙2.5YR6/8	器形は歪んでいる。口縁部は底部から内彎、斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位を除いて箆削りを施す。上位には指頭圧痕を残す。	①＋３。③底部外面に煙による銅書。
4	高杯	⑪ 〈8.3〉 ㊐杯部下半～脚部上半	①粗砂、雲母②酸化③にぶい橙5YR5/4	杯部は外傾の度合が著しい。脚部は端部に向け徐々に開いてゆく。	杯部外面は箆削り。内面は撫で。脚部外面は縦方向に撫で。内面には接合痕としぼり目、撫での痕跡がある。	①床直。
5	杯 須恵	⑪ 〈12.7〉 ㊙ 3.4 ㊐ 皆無	①白色・黒色鉱物粒多量②還元③灰白7.5Y7/1	口縁部は外傾弱く立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は切り離し後回転を伴う箆削りを施している。	①埋没土。
6	蓋 須恵	⑪ 〈9.6〉 ㊙ 〈1.1〉 ㊐ 破片	①白色鉱物粒②還元③灰5Y5/1	小径である。口縁部の先端は小さく折れる。	回転ロクロ成形である。	①埋没土。
7	蓋 須恵	⑪ 〈19.2〉 ㊙ 〈1.7〉 ㊐ 破片	①黒色鉱物粒②還元③灰白N7/1	口縁部の先端の内面には小きなかえりがつく。	右回転ロクロ成形と思われる。	①埋没土。

68号住居（85図、ＰＬ33）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 13.9 ㊙ 3.8 ㊐ほぼ完形	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR6/8	口縁部は底部との間に弱い稜をなし弱く外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は箆削り。	①＋５。②器面は磨滅。内面の一部に黒斑。
2	杯	⑪ 13.8 ㊙ 4.2 ㊐ほぼ完形	①赤色粘土粒②酸化③橙7.5YR6/8	口縁部は底部との間に弱い稜をなし弱く外反する。底部は①に比して薄手で膨らむ。	口縁部は横撫で。底部外面は箆削り。	①＋４。②器面の磨滅は顕著。
3	杯	⑪ 11.8 ㊙ 4.3 ㊐ほぼ完形	①赤色粘土粒少量②酸化③橙7.5YR6/8	口縁部は外反弱く立ち上がる。中位に弱い稜をもって、外反の度合を強める。	口縁部は横撫で。底部外面はていねいな箆削り。	①床直。②外面の一部に炭素吸着。
4	杯	⑪ 11.6 ㊙ 4.3 ㊐ほぼ完形	①赤色粘土粒少量②酸化③橙5YR6/8	口縁部は底部との間に稜をもつ。立ち上がる形状は３に類似し中位に弱い稜をもっている。	口縁部は横撫で。底部外面はていねいな箆削り。	①＋５。②底部外面に黒斑。

5	杯	㊀ 10.6 ㊁ 4.3 ㊂ 与	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅝	口縁部は底部との間に弱い稜をもって外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削りと思われる。	①＋6。②器面は磨滅している。
6	杯	㊀ 12.6 ㊁ 3.8 ㊂ほぼ完形	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅝	口縁部は底部との間に稜をもって外傾する。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削りと思われる。	①床直。②底部外面は磨滅している。
7	杯	㊀ (11.8) ㊁ (3.1) ㊂ 与	①赤色粘土粒②酸化③橙7.5YR⅝	口縁部は外傾して立ち上がる。中位に極く弱い稜をもつ。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①＋4。②内面には炭素吸着。黒色処理か。
8	杯	㊀ 11.4 ㊁ 4.6 ㊂ 与	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	口縁部は底部との間に稜をもち直立して立ち上がる。先端は内側がそげ尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に篦削り。	①埋投土。②内外面とも黒色処理か。
9	杯	㊀ (11.8) ㊁ 4.3 ㊂ 与	①粗砂、赤色粘土粒②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	口縁部は底部との間に稜をもち外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①埋投土。②内面に炭素吸着。
10	杯	㊀ 10.8 ㊁ 4.2 ㊂ 完形	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR⅝	口縁部は底部との間に稜をもち、弱く内傾して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①＋3。②外面の一部に煤付着。内面は黒斑。
11	蓋 須恵	㊀ (13.4) ㊁ (4.8) ㊂ 与	①粗砂、白色鉱物粒②還元③黄灰2.5Y⅝	器形は著しく歪んでいる。口縁部は弱く外弯する。天井部との間の稜はにぶい。天井部は丸みをもつ。	右回転ロクロ成形。天井部外面は一部を除いて手持ち篦削り。	①埋投土。
12	坩？ 須恵	㊀ (10.2) ㊁ (3.2) ㊂ 破片	①白色鉱物少量②還元③灰7.5Y⅝	口縁部上半の破片である。直線に外傾、先端でやや角度を変えて起き上がる。	回転ロクロ成形である。内外面には間に無文帯をはさんで2段の波状文が施されている。	①埋投土。
13	深鉢 縄文	㊂ 破片	①粗砂多量、金雲母②酸化	少破片である。	垂下する沈線をはさみ無文帯と縄文施文帯が認められる。	①埋投土。
14	甕	㊀ 16.2 ㊁ 16.7 ㊂ 与	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	小型である。口縁部は弱く屈曲、外反して立ち上がる。胴部はやや張り、最大径は口径とほぼ同規模である。	口縁部は横撫で。胴部外面は上位が横方向、中位から下位が斜め上方向からの篦削り。内面は撫で。	①北壁電焚口部。②二次火熱を受け、炭素吸着。器面は剥離する。
15	甕	㊀ 12.8 ㊁ 20.3 ㊂ 与	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅝	口縁部は弱く外反して立ち上がる。中位に稜をもつ。胴部は丸みをもち丸底の底部に続く。	口縁部は横撫で。胴部と底部外面は上位を横方向、中位から下位を斜め方向の篦削りと思われる。	①＋3。②器面は磨滅が著しい。底部外面に黒斑。
16	甕	㊀ 18.0 ㊁ (21.4) ㊂口縁部～胴部下位	①粗砂多量②酸化③浅黄2.5Y⅝	口縁部は弧状に外反して立ち上がる。口径が最大径で以下底部に向け徐々に細くなる。	口縁部を横撫で後胴部外面を篦削り。上から中位は上方向から、下位は斜め方向である。内面は横方向の篦撫で。	①北壁電左袖。②二次火熱を受け、上位に煤付着。
17	甕	㊀ 21.6 ㊁ (26.7) ㊂口縁部～胴部下位	①粗砂多量②酸化③にぶい黄橙10YR⅝	口縁部は大きく外反して立ち上がる。胴部は長胴で中位に最大径をもつ。	口縁部は横撫で。胴部外面は篦削り。上半は下から上方向に、下半は上から下方向に施している。	①北壁電焚口部、竈構築材。②二次火熱を受けている。
18	甕	㊀ 17.8 ㊁ 22.9 ㊂ほぼ完形	①粗砂、細礫多量、軽石②酸化③橙5YR⅝	口縁部は短く、強く外反して立ち上がる。胴部は長胴、中位に最大径を持ち、弱く膨らむ。底部は狭小。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦あるいは斜め方向の篦削り。内面は横方向の撫で。中位やや下に接合痕を残す。	①北壁電右袖。②器面全体に磨滅。部分的に炭素吸着。
19	甕	㊀ (26.8) ㊂胴部中位～底部	①粗砂、軽石②酸化③橙7.5YR⅝	長胴を呈する。底部は狭小な平底である。	胴部外面は2～3回に分けて上から下に縦方向の篦削り。内面は撫でている。	①北壁電右袖。②二次火熱を受け変質、変色。炭素吸着。

69号住居（86図、ＰＬ33）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	口 11.9 底 4.5 器ほぼ完形	①粗砂②酸化③にぶい橙５ＹＲ7/4	口縁部は斜め上方に立ち上がる。部分的に先端は内側に折れまがる。底部は不安定な平底である。	口縁部は撫で後上半を撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①＋６。②内外面とも部分的に炭素吸着。煤か。
2	杯	口 (10.8) 器 〈2.7〉 残 破片	①粗砂②酸化③橙５ＹＲ7/6	口縁部は短く、直立ぎみに立ち上がる。先端は尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①埋没土。
3	杯	口 (9.7) 器 〈2.4〉 残 破片	①粗砂②酸化③橙５ＹＲ7/6	口縁部は彎曲して上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は箆削り。	①埋没土。
4	高台付杯	器 〈2.7〉 残 破片	①粗砂②酸化③橙2.5ＹＲ7/6	高台部はハの字状に外傾する。	底部外面は型肌状を呈する。	①埋没土。
5	深鉢縄文	残 破片	①粗砂②酸化	胴上位の小破片である。	ＬＲの縄文施文後沈線による区画文を描き出している。	①埋没土。
6	深鉢縄文	残 破片	①粗砂②酸化	胴上位の小破片である。	ＬＲの縄文施文後沈線による区画文を描き出している。	①埋没土。

70号住居（89図、ＰＬ33）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯須恵	口 13.1 器 4.0 残 ½	①粗砂②還元③灰白2.5Ｙ7/1	口縁部は斜め上方に立ち上がり、先端が外反する。外面にはロクロ目を残す。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①＋３。②底部外面はやや磨滅している。
2	高台付椀須恵	口 (13.6) 器 〈5.2〉 残 口縁部¼	①粗砂②還元③灰N6/	口縁部は斜め上方に立ち上がる。	右回転ロクロ成形か。	①埋没土。
3	甕	口 (18.7) 器 〈6.1〉 残 口縁部½	①粗砂②酸化③浅黄橙10ＹＲ8/4	口縁部はいわゆるコの字状口縁である。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の箆削り。	①＋３。②一部に炭素吸着。
4	壺須恵	器 〈14.6〉 残 胴部¼	①白色鉱物粒②還元③灰白10Ｙ7/1	胴部は上位がやや張る。器肉は全体に厚い。	紐づくり成形。回転撫で調整。上位は回転を伴う箆削りを施す。	①床直。

71号住居（89図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	甕	器 〈12.6〉 残 口縁部～胴部中位½	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ7/4	口縁部は上半が欠損しているがいわゆるコの字状を呈すると思われる。	口縁部は横撫で。胴部外面は上位が横方向、下位が下から上方向の箆削り。内面はていねいな撫で。	①竈燃焼部。

72号住居（90図、ＰＬ34）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊐ 11.5 ㊏ 3.9 ㊒ 完形	①粗砂②酸化③にぶい橙５ＹＲ⅝	器形は歪み、口縁部は楕形を呈する。口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位の一部を除いて不定方向の箆削り。	①床直。
2	杯	㊐ 11.7 ㊏ 3.6 ㊒ほぼ完形	①粗砂、軽石少量②酸化③にぶい橙５ＹＲ⅝	口縁部は内彎して立ち上がる。底部は浅く、偏平である。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位の一部を除いて不定方向の箆削り。	①床直。
3	杯	㊐ (13.2) ㊏ 4.1 ㊒ ⅓	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10ＹＲ⅗	口縁部は短く、内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後、上方の一部を除いて箆削りが施されたと思われる。	①床直。②二次火熱を受け、器面は剥離磨滅している。
4	杯	㊐ 12.6 ㊏ 3.8 ㊒ ⅓	①粗砂②酸化③橙7.5ＹＲ⅝	口縁部は内彎して立ち上がる。底部は浅く、安定感がある。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下位を不定方向に箆削り。	①＋３。②二次火熱を受けているか。
5	杯	㊐ 13.2 ㊏ 3.0 ㊒ほぼ完形	①粗砂、輝石②酸化③橙５ＹＲ⅝	口縁部は底部から彎曲して起き上がり、上方を向く。底部は浅い。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を不定方向に箆削り。	①床直。②一部に煤付着。
6	甕	㊐ 24.7 ㊏ (10.2) ㊒口縁部～胴部上位	①細砂、粗砂②酸化③にぶい褐7.5ＹＲ⅝	口縁部は屈曲して外反する。先端は内側に弱く肥厚する。胴部は丸く張り出すと思われる。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の箆削り。内面はていねいな撫でである。	①床直。②内面は炭素が吸着して黒色みをおびる。

73号住居（91・92図、ＰＬ34）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊐ 12.2 ㊏ 3.1 ㊒ ⅓	①粗砂②酸化③橙５ＹＲ⅝	口縁部は強く内彎して立ち上がる。先端は内側を向く。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①床直。②口縁部の一部に煤付着。
2	杯	㊐ 10.6 ㊏ 3.3 ㊒ ⅓	①粗砂②酸化③橙５ＹＲ⅝	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①床直。②外面の一部に炭素吸着。煤か。
3	杯	㊐ (10.7) ㊏ 3.7 ㊒ ⅓	①粗砂②酸化③橙５ＹＲ⅝	口縁部は直立ぎみに立ち上がる。先端は尖る。	口縁部は横撫で。底部内面は不定方向の箆削り。内面は箆撫で。調整具痕を明瞭に残す。	①床直。②外面の一部に炭素吸着。黒斑か。
4	杯	㊐ 10.7 ㊏ 2.9 ㊒ 完形	①粗砂②酸化③橙５ＹＲ⅝	小怪。やや歪んでいる。口縁部は底部との間に強い稜をもち外傾弱く立上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に箆削り。	①床直。②外面の一部に炭素吸着。黒斑か。
5	杯	㊐ (11.1) ㊏ (2.7) ㊒ 破片	①粗砂②酸化③橙５ＹＲ⅝	口縁部は短く、直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①埋没土。
6	杯	㊐ (13.8) ㊏ 4.1 ㊒ ⅓	①粗砂、輝石②酸化③橙５ＹＲ⅝	口縁部は彎曲しながら斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に箆削り。	①埋没土。②破砕後二次火熱を受けているか。

7	杯 須恵	㊀ (13.8) ㊁ 6.0 ㊂ 〃	①明砂、輝石②酸化③にぶい橙7.5YR 7/4	口縁部は内彎して立ち上がる。先端は内側を向く。内面の先端直下には横撫で時に幅広の沈線がめぐる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位を除いて不定方向の篦削り。内面は横方向の篦撫で。	①埋没土。②二次火熱を受けているか。器面剥離、炭素吸着。
8	蓋 須恵	㊀ (11.0) ㊁ (10.5) ㊂ 破片	①白色鉱物粒少量②還元③灰白7.5Y 7/1	小径である。天井部は低い。内側の内側に小さなかえりがつく。	右回転ロクロ成形と思われる。天井部の外面は中位を回転を伴う篦削り調整。	①埋没土。②外面に自然釉が付着。
9	杯 須恵	㊀ (9.8) ㊁ 2.8 ㊂ 破片	①明砂、白色鉱物粒②還元③灰白7.5Y 7/1	口縁部は外傾弱く立ち上がる。	右回転ロクロ成形と思われる。底部は切り離し後手持ち篦削り調整。	①埋没土。
10	杯 須恵	㊀ (10.3) ㊁ (3.7) ㊂ 破片	①黒色鉱物粒②還元③灰N6/	口縁部は斜め上方に向けて立ち上がる。	回転ロクロ成形。底部は手持ち篦削り調整を施している。	①埋没土。
11	甕	㊀ 15.6 ㊁ (11.9) ㊂口縁部～胴部上位	①明砂②酸化③にぶい橙7.5YR 7/4	小型である。口縁部は弧状に弱く外反する。胴部は長胴であまり張らない。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の篦削り後縦方向に篦削りを施す。	①竈焚口部と東壁煙突直。②内外面に炭素吸着。
12	甕	㊀ 21.0 ㊁ 34.0 ㊂ほぼ完形	①明砂②酸化③にぶい橙7.5YR 7/4	口縁部は外反して立ち上がる。胴部は長胴で上位に最大径をもつ。	口縁部は横撫で。胴部外面は篦削り。上位は斜め下方向から、中位は上方向から、最下位は斜め上方向から施す。	①竈左袖。②外面に煤が付着している。
13	甕	㊀ 17.4 ㊁ (17.0) ㊂上半部	①明砂多量、輝石②酸化③にぶい黄10YR 7/3	小型である。口縁部は弧状に外反する。胴部は上位に最大径をもち徐々に細くなる。	口縁部は横撫で。その後胴部外面を下から縦方向に篦削り。内面は横方向の篦撫で。	①竈左袖に近接。②二次火熱を受けている。
14	甕	㊀ (14.7) ㊂下半部	①明砂多量②酸化③橙7.5YR 7/6	長胴を呈する。底部は狭小な平底である。	胴部外面は縦方向に下から上に篦削り。内面は横方向に粗い撫で。	①＋15。②二次火熱を受け、器面に黒色の付着物。
15	甕 須恵	㊀ (22.0) ㊁ (15.4) ㊂口縁部～胴部上位3/4	①白色鉱物粒②還元③灰N5/	口縁部は外反して立ち上がる。胴部は丸く張り出す。	組づくり成形。口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向の平行叩き目、内面には同心円状の当て目が残る。	①埋没土。
16	砥石	長さ77mm、幅52mm、厚さ42mmを測る。使用面は小口面一面を加え、5面である。小口面には刷板が認められる。Aの面には3本、沈線状の使用痕と径2mm、深さ7mmの穿孔が施されている。重量は270g。石質は流紋岩である。				①床直。

74号住居（93・94図、ＰＬ35）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	砥石	長さ295mmの粗粒安山岩の自然円礫を原材料としている。置き砥であり、荒砥である。4面の使用面がある。側面には、ほつり板に似た痕跡が認められる。煤状の黒色付着物の他に赤色の付着物がある。重量は4910gである。				①床直。
2	壺 須恵	㊀ (23.3) ㊂胴部上位～高台欠	①明砂②酸化③にぶい黄橙10YR 6/4	胴部は球形を呈し、中位やや上に最大径を有する。胴部上位に把手が1つ付く。高台部は低く台形を呈する。	組づくり成形。回転ロクロ調整と思われる。	①床直。②二次火熱を受け、炭素吸着。器面の剥離も顕著。
3	壺 須恵	㊀ (16.8) ㊂ 胴部	①粗砂多量②還元③灰10Y 5/1	胴部は上位、いわゆる肩が張る形状である。胴部径に比較して大きく、安定した底部がつく。	組づくり成形と思われる。内外面ともロクロ回転を伴う撫でが施されている。	①床直。②一部、煤付着。

4	壺 ? 蓋	底 〈30.0〉 残存4部¾	①粗砂、細礫少量 ②還元ざみ③によい橙10YR⅝	大型品である。割土位、いわゆる胴がやや張る。胴部から屈曲して口縁部は立ち上がると思われる。	紐づくり成形と思われる。外面はていねいな撫で調整。内面の上位には当て目が残る。下位は撫で。	①床直。②二次火熱を受けている。器面剥離顕著。
5	高台付椀	口 〈14.9〉 底 5.4 残 ⅓	①粗砂②酸化③によい黄橙10YR⅞	口縁部は斜め上方に立ち上がり、中位で小さく変化、起き上がる。高台部は断面三角形で、粗雑な取り付けである。	右回転ロクロ成形か。底部は切り離し後高台取り付け。	①床直。②二次火熱を受けている。器面は酸滅。
6	高台付椀	口 〈13.2〉 底 5.8 残 ⅓	①粗砂、細砂②酸化③によい黄橙10YR⅝	口縁部は弯曲ざみに斜め上方に立ち上がる。先端は弱く外反する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台を取り付け。接合部分を撫でるか。底部外面に糸切り痕を残す。	①十＋4。②内外面の一部に炭素吸着。煤か。
7	高台付椀	口 〈13.6〉 底 4.7 残 ⅓	①粗砂少量②酸化③淡黄2.5Y⅝	口縁部は弯曲して斜め上方に向けて立ち上がる。高台部は断面三角形。	右回転ロクロ成形。底部は切り離し後高台取り付け。接合部分を横撫で。	①床直。②外面の一部に炭素吸着。二次火熱を受けているか。
8	杯	口 〈10.8〉 底 〈3.1〉 残 破片	①粗砂②酸化③橙7.5YR⅝	口縁部の破片である。	外面の先端は横撫で。以下は強い撫で。内面はていねいな撫で。	①床直。②内面の一部に炭素吸着。
9	高台付椀	口 〈1.7〉 残底部～高台部	①粗砂②酸化③橙2.5YR⅝	高台部は先端が細くなる。	高台取り付け後接合部分を横撫で。底部外面の中央に砂底が残る。	①埋没土。
10	高台付椀 灰 釉	口 〈1.7〉 残口縁部下半～高台部⅓	①粗砂②還元③灰白2.5Y⅞	高台部はハの字状に延び、先端の外側がそげる。内縁が接地する。	右回転ロクロ成形か。高台取り付け後接合部分を撫で調整。	①埋没土。②内面に施釉。
11	鍵 ? 鉄製品	全長130mm。刀身の長さ194mm、幅26mmを測る。関右端上位にかえりが認められる。				①床直。
12	紡錘車 鉄製品	円板とそれに嵌入される軸棒の一部が残存していた。円板は57×50mmの大きさ。錆膨れで現状で2mmの厚さを有する。軸棒は径5mm前後、現状では中空状を呈している。残存長は98mmである。				①床直。
13	刀 子 鉄製品	茎端はわずかに欠損する。残存長は122mm、錆の付着が著しく原形の把握が困難であるが茎から斜めに切り込まれた両側の関を経て刀身に至るものと思われる。刀身の長さは71mm、茎寄りの幅は14mm、背の厚さは3.5mmを測った。				①床直。

75号住居（97図、ＰＬ34）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	口 9.3 底 3.2 残 ほぼ完形	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	器形は歪んでいる。口縁部は屈曲、弱く内傾して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は中央を一方向から。その後周縁部分を撫削りしている。	①床直。
2	杯	口 10.9 底 3.7 残 ⅓	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は強く内弯する。先端は内側を向く。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位の一部を除いて撫削り。上位から下位へと進んでいる。	①十＋5。
3	杯	口 10.7 底 3.2 残 ⅓	①粗砂②酸化③によい橙7.5YR⅜	口縁部は弯曲して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を撫削り。	①床直。②外面の一部に炭素吸着。
4	杯	口 11.6 底 〈3.2〉 残 ⅓	①粗砂②酸化③によい橙5YR⅜	口縁部は弱く内弯して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位を除いて撫削り。	①床直。

5	杯	⑪ (11.4) ㊙ (3.0) ㊙ 〃	①粗砂②微化③灰黄2.5Y%/	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位を除いて篦削り。	①＋7。②内面の一部に炭素吸着。
6	杯	⑪ 13.8 ㊙ 3.2 ㊙ほぼ完形	①粗砂②微化③橙5YR%/	口縁部は弱く内彎して立ち上がる。底部は浅く器形は偏平である。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削りと思われる。	①床直。②二次火熱を受け炭素吸着。器面は磨滅。
7	杯	⑪ (15.5) ㊙ (4.0) ㊙ 〃	①粗砂②微化③橙5YR%/	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削りと思われる。	①床直。②二次火熱を受け磨滅顕著。
8	杯	⑪ 14.4 ㊙ 5.5 ㊙ほぼ完形	①粗砂、輝石②微化③橙7.5YR%/	器形はやや歪んでいる。口縁部は緩やかに内彎する。底部は深長である。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位の一部を除いて篦削り。	①床直。
9	椀 ?	⑪ (11.6) ㊙ (3.4) ㊙ 破片	①粗砂②微化③浅黄2.5Y%/	半球形を呈し、深みのある底部である。	口縁部は横撫で。以下は篦削り。内面は横方向の撫で。	①床直。②外面は炭素吸着。
10	杯 須恵	⑪ 11.2 ㊙ 3.6 ㊙ほぼ完形	①粗砂多量、石英、輝石②還元③灰黄2.5Y%/	口縁部は外傾弱く立ち上がる。底部は不安定な平底を呈する。	右回転ロクロ成形。底部は切り離し後不定方向の手持ち篦削り。口縁部の最下位も篦削り。	①床直。②底部外面の一部に炭素吸着。
11	蓋 須恵	⑪ 18.0 ㊙ 2.7 ㊙%/、つまみ欠損	①白色鉱物粒②還元③灰7.5Y%/	天井部は張りが少なく、中位に弱い稜がつく。口縁部の内面に弱いかえりがつく。	右回転ロクロ成形。つまみの接合部分周辺は強い撫で。内面の中位はロクロ成形後に不定方向の撫でを加えている。	①＋5。②外面に自然釉が付着する。
12	甕 須恵	⑪ (22.8) ㊙ (7.1) ㊙ 破片	①粗砂、細雲②還元③灰黄2.5Y%/	口縁部は屈曲、強く外反して立ち上がる。先端は外側がそげる断面三角形を呈する。	回転ロクロ成形。	①床直。②内外面とも自然釉付着。
13	甕	⑪ 20.2 ㊙ (28.0) ㊙口縁部～胴部下位	①粗砂、輝石②微化③橙2.5YR%/	口縁部は屈曲後、外傾して立ち上がる。胴部は上位に最大径を有するが張りはあまり強くない。	口縁部は横撫で。胴部外面は、中位から下位は上から下方向に、上位は横方向に篦削りを施す。内面は撫で。	①電左釉か。②内外面に炭素吸着。
14	甕	㊙ (31.4) ㊙口縁部下半～底部%/	①粗砂、細雲②微化③にぶい赤褐5YR%/	口縁部は弧状に外反する。胴部は長胴であまり張らない。	口縁部は横撫で。胴部外面は篦削り。上位は斜め下方向のあとは上方向の篦削りを重ねている。下位は斜め上方向から施している。	①床直。②二次火熱を受けている。
15	甕	⑪ (22.6) ㊙ (27.1) ㊙口縁部～胴部下位%/	①粗砂、細雲②微化③橙5YR%/	口縁部は弱く外反して立ち上がる。胴部に球形を呈し張る。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り。上位は斜め下方向から、中から下位は斜め上方からである。	①床直。②二次火熱を受け炭素吸着。

76号住居（98図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②破面 ③その他
1	杯	⑪ (10.0) ㊙ (2.6) ㊙ 破片	①粗砂②微化③にぶい橙5YR%/	口縁部は底部から屈曲、直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①床直。

77号住居（100図、ＰＬ35）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	高台付椀	㊟〈3.9〉 ㊥〈1.0〉口縁部下半～高台部5Y	①粗砂、輝石、軽石②酸化③によい黄橙10YR5	口縁部は弱曲して斜め上方に向けて立ち上がる。高台部は低く断面台形を呈する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台を取り付け。接合部分を撫でている。	①埋没土。③一部分に炭素吸着。
2	壺 灰釉	㊟〈14.5〉 ㊥胴部中位5Y	①精選、粗砂少量②還元③灰白2.5Y5	胴部は上位に張りがあり、いわゆる肩が張る形状である。	紐づくり成形か。外面は回転を伴う篦削り調整を施す。	①瓦燃焼部。②上位に施釉。胴部の2箇所に焼成時他の器が接した痕跡がある。
3	甕 須恵	㊟〈40.0〉 ㊥〈8.1〉 ㊦ 破片	①粗砂②還元と思われる。③によい橙7.5YR5	大型品の口縁部の破片である。先端は強い段をもっている。	紐づくり成形。ロクロ回転を伴う撫で調整が施されている。	①瓦燃焼部。②二次火熱のためか酸化状を呈する。
4	甕 ？	㊟〈2.9〉 ㊦底部5Y	①粗砂②赤化ざみ③によい橙5YR5	大型品の底部である。胴部は大きく張るか。	外面は撫で。内面は刷毛状の削り。底部内面は撫で。	①＋３。②外面は炭素吸着。
5	甕 須恵	㊟〈10.5〉 ㊥口縁部中位～胴部上位	①白色鉱物粒②還元③灰5Y5	口縁部は屈曲して弱く外反する。	紐づくり成形。口縁部と胴部の最上位は横撫で。胴部外面は斜め方向に平行叩き目が残る。	①瓦燃焼部。②外面は煤付着。口縁部の割れ口、胴部内面は非常に平滑。

78号住居（102図、ＰＬ36）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	㊟〈13.8〉 ㊥〈3.6〉 ㊦ 5YR5	①粗砂、細礫②酸化③によい橙7.5YR5	口縁部は底部との間に稜をもって外傾する。中位に明瞭な稜をもつ。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①＋５。②器面は炭素吸着。底部外面は二次火熱を受けている。
2	甕	㊟〈9.1〉 ㊥下半部5Y	①粗砂、細礫②酸化③赤褐10R5	胴部は長胴と思われる。	胴部外面は縦方向に下から篦削り。内面はていねいな撫で。	①杯底。②内外面に炭素吸着。
3	甕	㊟〈24.2〉 ㊥〈13.0〉 ㊦ 破片	①粗砂、細礫②酸化③によい橙7.5YR5	口縁部は弱く外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向に上から篦削り。内面は撫で後縦方向に棒状工具による磨き。	①＋５。②内外面とも一部に炭素吸着。
4	甕	㊟〈18.0〉 ㊥〈9.6〉 ㊦上半部5Y	①粗砂、細礫、赤色粘土粒②酸化③赤褐10R5	口縁部は短く外反して立ち上がる。器内は全体に厚い。	口縁部は横撫で後、底部外面を縦方向下から上に向けて篦削り。	①＋３。②外面の一部に黒斑。

81号住居（105図、ＰＬ36）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	㊟〈2.8〉 ㊥口縁部下半～底部5Y	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR5	口縁部は底部との間に稜をもって外反する。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り。	①埋没土。

2	杯	⑪ (13.0) ㊙ <2.8> ㊗ 破片	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅝	口縁部と底部の間の稜は弱い。口縁部は外反する。上半部はその度合が強い。	口縁部は横撫で。底部外面は粗い篦削り。	①埋没土。②器面はやや磨滅。
3	杯	⑪ (10.0) ㊙ <2.8> ㊗ 破片	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅞	口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削りである。	①埋没土。②磨滅。
4	杯	⑪ (11.0) ㊙ <2.5> ㊗ 破片	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は短く、底部から彎曲して直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削りと思われる。	①埋没土。②磨滅。
5	蓋 須恵	⑪ 11.2 ㊙ 2.6 ㊗ 完形	①黒色鉱物粒②還元③灰10Y⅝	器形は著しく歪んでいる。天井部は低く、退化した宝珠状のつまみが付く。口縁部の端はわずかにかえる。	右回転ロクロ成形。天井部は回転を伴う篦削り。つまみの接合部分と口縁部端は横撫で。	①床直か。②内面はやや磨滅し、平滑になっている。
6	甕	⑪ (16.0) ㊙ <7.1> ㊗上半部⅓	①粗砂、輝石、軽石②酸化③にぶい橙5YR⅝	口縁部は短く、先端で弱く外反する。胴部の張りは弱い。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向に下方から篦削り。内面は横方向に篦撫で。	①電燃焼部。②二次火熱を受け一部に炭素吸着。

82号住居（106図、ＰＬ36）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 10.6 ㊙ 3.4 ㊗ほぼ完形	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	器形はやや歪んでいる。口縁部は内折ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り後部分的に棒状工具による撫で。	①床直。周溝内。
2	杯	⑪ 10.5 ㊙ 3.3 ㊗ 完形	①粗砂、輝石②酸化③橙5YR⅞	器形は歪み、口径は楕円形を呈する。口縁部は内彎して立ち上がり先端は内側を向く。	口縁部は横撫で。底部外面は全て篦削り。内面はていねいな撫で。	①床直。②外面の一部に煤付着。
3	杯	⑪ 12.5 ㊙ 4.4 ㊗ほぼ完形	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は短く、内彎ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は全て篦削り。内面は横方向の撫で。	①＋３。周溝内。
4	杯	⑪ 13.6 ㊙ 3.6 ㊗ ⅔	①粗砂少量②酸化③橙5YR⅝	器高が低く、偏平である。口縁部は底部から彎曲、上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。内面は撫でにより平滑になっている。	①埋没土。
5	杯	⑪ 12.8 ㊙ 3.5 ㊗ ⅔	①粗砂②酸化③橙5YR⅞	口縁部はわずかに内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①埋没土。②器面はやや磨滅。一部に黒色の付着物。
6	杯	⑪ (10.7) ㊙ <3.5> ㊗ ¼	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅝	口縁部はわずかに内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位を除いて篦削り。	①埋没土。
7	杯	⑪ (12.4) ㊙ <3.2> ㊗ ¼	①粗砂少量②酸化③橙5YR⅝	口縁部はわずかに内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①埋没土。
8	杯	⑪ (12.0) ㊙ <3.5> ㊗ ⅓	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅝	口縁部はわずかに内彎して立ち上がる。底部は丸みがある。	口縁部は横撫で。底部外面は横方向に幅の狭い篦削り。	①埋没土。
9	杯	⑪ 13.2 ㊙ 4.0 ㊗ほぼ完形	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅞	口縁部は底部分から彎曲、直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り。内面はていねいな横方向の撫で。	①＋３。

10	杯	⑬ 14.8 ⑱ 4.8 ⑳ ¾	①粗砂、輝石②酸化③橙5YR⅝	口縁部は短く、内折ぎみに立ち上がる。底部は深みがある。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を不定方向に篦削り。	①床直。②内外面とも炭素吸着。
11	杯	⑬ (17.6) ⑱ (4.4) ⑳ ½	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は短くわずかに内彎する。	口縁部は横撫で。底部外面は下位は一方向から、上位は横方向に篦削り。	①埋没土。
12	杯	⑬ (19.7) ⑱ (4.2) ⑳ ½	①粗砂②酸化③橙7.5YR⅞	皿状を呈する。口縁部は底部から彎曲して斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①埋没土。②外面の一部に炭素吸着。
13	甕	⑬ (19.6) ⑱ (8.3) ⑳口縁部～胴部上位⅞	①粗砂、輝石②酸化③浅黄橙10YR⅝	口縁部は弧状に外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。その後胴部外面は縦方向、下から上に向けて篦削り。	①埋没土。②器面に煤付着。
14	鉢	⑬ 22.5 ⑱ (9.7) ⑳上半部⅞	①粗砂②酸化③浅黄橙10YR⅝	口縁部、胴部は斜め上方に向けて大きく開く。	口縁部は横撫で。胴部外面は横あるいは斜め方向に篦削り後、縦方向に篦撫で。胴部内面はていねいな篦撫で。	①電熱焼部。②外面に炭素吸着、煤か。
15	甕	⑬ (22.5) ⑱ (8.0) ⑳ 破片	①粗砂、輝石②酸化③橙5YR⅝	口縁部は緩やかに外反する。先端は丸みをもつ。胴部は丸みをもって張る。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向に篦削り。	①床直。②器面はやや磨滅。
16	蓋 須恵	⑱ (1.4) ⑳つまみ	①粗砂②還元③灰10Y⅝	つまみはボタン状を呈し、中央はへこんでいる。	回転ロクロ成形。	①埋没土。
17	盤 須恵	⑬ (25.7) ⑱ (2.9) ⑳口縁部⅞	①粗砂②還元③灰白2.5Y⅝	口縁部は底部との間に明瞭な稜をなして、弱く外傾する。	右回転ロクロ成形。底部外面は篦削り調整。	①＋3。斉溝内。

83号住居（108図、ＰＬ36）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑬ (10.8) ⑱ (3.2) ⑳ ¼	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅝	口縁部は外反して立ち上がる。中位やや上に弱い稜をもつ。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①床直。
2	杯	⑬ 12.8 ⑱ 3.9 ⑳ ½	①粗砂多量②酸化③にぶい黄橙10YR⅝	口縁部は外傾弱く立ち上がり、中位に明瞭な稜をもつ。底部は浅く偏平である。	口縁部は横撫で。底部外面はていねいな篦削り。	①＋4。②内外面とも炭素吸着。黒色処理状である。
3	杯	⑬ (12.8) ⑱ (3.6) ⑳ ½	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅝	器形の歪みは著しい。口縁部は外傾強く立ち上がり、中位の極く弱い稜を経て傾きを起こす。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①埋没土か。
4	杯	⑬ (12.8) ⑱ (4.0) ⑳ ½	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10YR⅝	口縁部は外傾して立ち上がる。中位に稜をもつ。底部との間の稜は丸みをもっている。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削りと思われる。	①埋没土。②内外面炭素吸着。黒色処理状。器面の剥離顕著。
5	杯	⑬ 11.8 ⑱ 5.1 ⑳ ½	①赤色粘土粒②酸化③橙7.5YR⅞	口縁部は外傾弱く立ち上がり、中位でやや波打つ。底部は深く丸みをもつ。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に篦削り。	①床直。②やや磨滅。
6	杯	⑬ 10.4 ⑱ 4.9 ⑳ほぼ完形	①粗砂、赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅝	器形は歪んでいる。口縁部は底部との間に稜をなした後、外反して立ち上がる。先端は外側につままれている。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①床直。②やや磨滅。

7	杯	⑪ (10.9) ㊙ 4.2 ㊗ ½	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙5YR⅔	口縁部は底部との間に稜をなした後外傾して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に篦削り。	①西壁焚口部。②外面に黒煤。
8	杯	⑪ 11.4 ㊙ 4.2 ㊗ ½	①粗砂、赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅔	口縁部は底部との間に稜をなした後、大きく外反する。先端は外側を向く。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①貯蔵穴。
9	杯	⑪ (11.6) ㊙ 4.1 ㊗ ½	①赤色粘土粒②酸化③橙7.5YR⅔	口縁部は外傾弱く立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に篦削り。	①床直。
10	杯	⑪ (13.0) ㊙ 3.7 ㊗ ½	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅔	口縁部は外傾して立ち上がり先端は弱く外側を向く。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①床直。
11	杯	⑪ (11.0) ㊙ (2.6) ㊗ 破片	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅔	口縁部は短く直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に篦削り。	①埋没土。
12	杯	⑪ (11.0) ㊙ (2.9) ㊗ 破片	①粗砂②酸化③橙5YR⅔	口縁部は底部から彎曲して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①埋没土。
13	甕	⑪ 20.0 ㊙ 28.3 ㊗ほぼ完形	①粗砂多量②酸化③にぶい黄橙10YR⅔	口縁部は弧状に外反、先端は外側を向く。胴部は長胴である。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向、下から上に数回分けて篦削り。内面は横方向の篦撫で。	①東竈右袖。②外面黒斑。内面も炭素吸着。
14	甕	⑪ 22.0 ㊙ (10.2) ㊗口縁部～胴部上位½	①粗砂、軽石②酸化③にぶい橙7.5YR⅔	口縁部は弧状に外反して立ち上がる。胴部は長胴であまり張らないと思われる。	口縁部を横撫で後、胴部外面を縦方向に下から篦削り。内面は篦撫で。	①西竈の左袖か。②二次火熱を受けている。一部に炭素吸着。
15	甕	⑪ (21.0) ㊙ (12.1) ㊗口縁部～胴部上位½	①粗砂、雲母多量②酸化③にぶい橙5YR⅔	口縁部は弧状に外反する。中位と胴部との境に弱い稜をもっている。	口縁部は横撫で。胴部は縦方向に下から篦削り。	①西竈の右袖か。
16	蓋 須恵	㊙ (2.1) ㊗上半部½	①白色鉱物粒②還元③灰5Y⅔	つまみは中央がへこみリング状を呈する。	右回転ロクロ成形と思われる。天井部の上半は回転を伴う篦削り。	①埋没土。②外面には自然釉が付着。
17	蓋 須恵	⑪ (20.0) ㊙ (2.0) ㊗下半部½	①白色鉱物粒②還元③灰5Y⅔	口縁部の内面、端部には小さなかえりがある。	右回転ロクロ成形と思われる。	①埋没土。
18	釘 鉄製品	残長68mm。頭部、先端ともに欠損している。先端寄りで幅5mm、厚さ3.5mmを測る。				①埋没土。

84号住居（109図、ＰＬ36）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ (19.8) ㊙ (4.6) ㊗ ½	①粗砂、雲母②酸化③橙5YR⅔	皿状を呈する。口縁部は底部から彎曲して外傾弱く立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位を除いて不定方向の篦削り。内面はていねいな横撫であるいは撫で。	①＋11。②内面はやや磨滅。
2	杯	⑪ (20.0) ㊙ 4.3 ㊗ ½	①粗砂、赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅔	皿状を呈する。口縁部は底部から彎曲、外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。内面は撫で。使用のためか非常に平滑になっている。	①＋7。

3	杯	③ 10.0 ㊗ 3.2 ㊙ 完形	①粗砂、輝石②酸化③橙5ＹＲ%%	小径。口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を不定方向に篦削り。	①＋５。②内外面とも剥離、磨滅。
4	杯	③ (11.0) ㊗ 3.5 ㊙ 与	①粗砂②酸化③にぶい橙5ＹＲ%%	小径。口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に篦削り。	①＋４。②内外面とも磨滅。
5	杯	③ (12.0) ㊗ (3.3) ㊙ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙5ＹＲ%%	口縁部は底部との間に須恵器の受け部に似た稜をつくり、直立して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削りと思われる。	①埋設土。②内外面とも磨滅が著しいが黒色に炭素吸着している。
6	杯 須恵	③ (13.0) ㊗ (3.2) ㊙ 与	①白色鉱物粒②還元③灰N6/	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。底部は不安定な平底である。	右回転ロクロ成形か。底部は切り離し後、手持ち篦削り。	①埋設土。②内外面の一部に自然釉付着。
7	蓋 須恵	③ (15.0) ㊗ (1.8) ㊙ 破片	①粗砂②還元③灰7.5ＹＲ%%	口縁部の端、内面には小きなかよりがつく。	右回転ロクロ成形と思われる。	①埋設土。②外面に自然釉付着。
8	甕	③ (23.0) ㊗ (9.2) ㊙口縁部～胴部上位与	①細砂、粗砂②酸化③にぶい褐7.5ＹＲ%%	口縁部は屈曲、弱く外傾する。	口縁部は横撫で。胴部外面は横あるいは斜め方向の篦削り。内面はていねいな篦撫で。	①床直。
9	甕	③ (22.0) ㊗ (8.3) ㊙口縁部～胴部上位与	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ%%	口縁部は外傾して立ち上がり、先端は丸い。胴部はやや張るか。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向に篦削り。内面は横方向に篦撫で。	①床直。②外面は磨滅が著しい。
10	鉢 須恵	③ (22.0) ㊗ (3.0) ㊙口縁部与	①白色・黒色鉱物粒②還元③灰7.5Ｙ%%	口縁部は底部から彎曲、中位に稜をもって斜め上方に向けて立ち上がる。	回転ロクロ成形。底部の一部は回転を伴う篦削り。	①床直。
11	高台付杯 須恵	③ (18.0) ㊗ (5.0) ㊙ 与	①粗砂②還元③灰白2.5Ｙ%%	口縁部は彎曲して斜め上方に立ち上がる。底部は深く丸みをもち高台部は機能していない。	右回転ロクロ成形。底部は切り離し後回転を伴う篦調整。高台取り付け後接合部分を撫で調整。	①床直。
12	高台付杯 須恵	㊗ (1.8) ㊙ 破片	①精選、長石少量②還元③灰白7.5Ｙ%%	高台部は断面台形を呈する。先端は内縁が接地する。	左回転ロクロ成形か。	①埋設土。
13	砥石	長さ70mm、最大幅40mm、厚さ34mmを測る。小口面は原形面で多少、使用されている。Ａの面は刃先の調整等に使用したか、断面がＶ字状を呈している。重量は112ｇ。石質は流紋岩である。				①床直。

85号住居（111図、ＰＬ37）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	③ 13.6 ㊗ 4.1 ㊙ 完形	①粗砂②酸化③橙5ＹＲ%%	口縁部は斜め上方に立ち上がり、中位に明瞭な稜をもつ。底部は非常に浅い。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削。底部はていねいな撫で。	①＋５。②内外面とも炭素吸着。
2	杯	③ 11.5 ㊗ 3.4 ㊙ 与	①粗砂②酸化③橙5ＹＲ%%	器形は著しく歪んでいる。口縁部は外傾弱く立ち上がる。底部は平底を意識している。	口縁部は撫で後、上半を横撫で。底部は不定方向に篦削り。	①＋３。②器面はやや磨滅。

3	杯	⑥ 12.3 ㊙ 2.8 ㊧ ½	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は底部から彎曲、斜め上方に向けて立ち上がる。底部は平底を意識している。	口縁部は撫で後、上半を横撫で。底部は不定方向に篦削りと思われる。	①＋3。②器面はやや磨滅。
4	杯	⑥ (12.4) ㊙ 3.4 ㊧ ½	①粗砂②酸化③にぶい赤褐5YR⅝	口縁部は外傾弱く立ち上がる。先端は外反する。底部は偏平な丸底である。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に弱い篦削り。内面には指頭圧痕が認められる。	①埋設土。②二次火熱のため炭素吸着。
5	杯	⑥ (14.7) ㊙ 4.4 ㊧ ½	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	口縁部は中位が若干波打つが外傾弱く立ち上がる。底部は中位に変換点をもち下半は平底ぎみである。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①電燃焼部。②内外面とも炭素吸着。内面には煤付着。
6	杯	⑥ (18.6) ㊙ ‹3.8› ㊧ ½	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅝	皿状を呈する。先端は外側につまれる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を篦削り。内面はていねいな横撫であるいは撫で。	①埋設土。②内面は炭素吸着。器面はやや磨滅。
7	杯 ?	⑥ (16.7) ㊙ ‹6.9› ㊧ ½	①粗砂、赤色粘土粒多量②酸化③明赤褐2.5YR⅝	口縁部は漏斗状を呈する底部から起き、斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に粗雑な篦削り。内面は横撫であるいは撫で。	①電焚口部。②外面に黒斑。二次火熱を受けている。
9	蓋 須恵	⑥ (10.0) ㊙ ‹1.9› ㊧ ½	①白色鉱物粒②還元③灰7.5Y⅝	小径。天井部はややふくらみをもつ。口縁部の先端、内面にはかえりがつく。つまみは欠損している。	左回転ロクロ成形か。天井部は中央の反程に回転を伴う篦削り調整。	①埋設土と1号掘立Pit 3埋設土。
9	蓋 須恵	⑥ ‹1.7› ㊧上半部⅝	①白色・黒色鉱物粒②還元、やや軟質③灰白7.5Y⅝	つまみはリング状を呈する。	右回転ロクロ成形。天井部は回転を伴う削り。つまみ取り付け後接合部分を撫で調整。	①埋設土と83住埋設土。
10	杯 須恵	⑥ (12.2) ㊙ 4.2 ㊧ ½	①黒色鉱物粒②還元③灰N⅝	口縁部は外傾弱く立ち上がる。先端は丸い。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①埋設土と82住埋設土。
11	甕	⑥ (15.5) ㊙ ‹11.7› ㊧ ½	①粗砂、軽石多量②酸化③橙7.5YR⅝	鉢状を呈する。口縁部は胴部から一度内彎、中位で変換し上半が弱く外反する。胴部は浅い。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り、笠撫でと思われる。器面には粘土紐の接合痕が認められる。	①電焚口部。②二次火熱を受け、器面は剥離、磨滅。
12	甕	⑥ (16.0) ㊙ ‹15.8› ㊧上半部½	①粗砂、礫礫多量、石英②酸化③にぶい橙5YR⅝	口縁部は大きく外反、先端は外側を向く。胴部は球形を呈する。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向、上から下に向けて篦削り。内面はていねいな撫撫で。	①床直。②二次火熱を受けている。部分的に炭素吸着。
13	台付甕	⑥ 14.2 ㊙ ‹17.2› ㊧脚台部下半は欠損	①粗砂、輝石、軽石多量②酸化③橙7.5YR⅝	口縁部は弱く外反する。胴部は弱く外反する。胴部は最長の球形であまり張らない。	口縁部は横撫で。胴部外面は篦削りと思われるが磨滅顕著。上半は縦方向、上から下に向けて篦削り、内面は横方向の撫撫で。	①床直。②二次火熱を受けている。部分的に炭素吸着。

86号住居（112図、ＰＬ37）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	⑥ (11.0) ㊙ ‹2.7› ㊧ 破片	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は短く、弱く外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に篦削り。	①埋設土。
2	甕	⑥ (15.8) ㊙ ‹6.3› ㊧口縁部¼	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10YR⅝	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め下方向から篦削り。	①床直。②内面炭素吸着。

3	甕	⑬〈19.7〉 ㊽ 14.3 ㊾ 〃	①粗砂、赤色粘土粒多量②酸化③明赤褐2.5YR⅝	鉢状を呈する。口縁部と胴部は弯曲しながら斜め上方に立ち上がる。口径に比して底部は広く、安定している。	口縁部は横撫で。胴部外面は上半が縦方向、下から上に向けて篦削り。下半は横方向の篦削り。内面はていねいな篦撫で。	①床直。②二次火熱を受けているるか部分的に炭素吸着。

87号住居（115図、ＰＬ37）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	㊸ 12.2 ㊽ 4.5 ㊾ほぼ完形	①粗砂②酸化③にぶい赤褐2.5YR⅝	器形はやや歪んでいる。口縁部は中位に弱い稜を3箇所もって弱く外傾する。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に篦削。	①床直。②内面に黒色の付着物。
2	杯	㊸〈10.8〉 ㊽〈3.0〉 ㊾ 破片	①粗砂少量②酸化③橙7.5YR⅝	口縁部は底部との間に稜をもって外反する。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削りと思われる。	①堆積土。②胴面は磨滅顕著。
3	杯	㊸ 12.9 ㊽ 4.3 ㊾ 〃	①粗砂②酸化③にぶい赤褐2.5YR⅝	口縁部は底部との間に弱い稜を成して緩やかに外反する。先端は内側がややそげる。	口縁部は横撫で。底部外面は中央を一定方向から、その後周縁部分を篦削り。	①+14。②内外面とも黒色処理。内面には黒色の付着物。

88号住居（115図、ＰＬ37）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	㊸ 12.6 ㊽ 3.5 ㊾ほぼ完形	①粗砂、赤色粘土粒②酸化③灰黄2.5Y⅝	口縁部は外傾著しく立ち上がり、先端は弱く外反する。	口縁部の外面は撫で。その後先端は横撫で。下半は斜め上方の篦削り。内面は棒状工具による磨きを光沢している。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。
2	高台付椀	㊸ 14.8 ㊽〈5.0〉 ㊾口縁部⅜	①粗砂、軽石多量②酸化③にぶい黄橙10YR⅝	口縁部は斜め上方に立ち上がる。	口縁部の外面は撫で。その後先端は横撫で。下半は斜め上方の篦削り。内面は棒状工具による磨きを光沢している。	①床直。②内面は黒色処理。二次火熱で黒色みが薄れる。③高台剥離後も使用か。
3	高台付椀	㊸〈3.1〉 ㊾口縁部下位～高台部	①粗砂多量②酸化③にぶい黄橙10YR⅝	高台部はハの字状に外反する。	口縁部は下位に篦削りを施す。底部は篦削り。高台取り付け後接合部分を撫で調整。内面は棒状工具による磨き。	①竈焚口部。②内面黒色処理。外面の一部にも炭素吸着。
4	甕	㊸〈19.6〉 ㊽〈10.6〉 ㊾口縁部～胴部上位⅛	①粗砂、軽石②酸化③にぶい黄橙10YR⅝	口縁部は直立して立ち上がり、上半が強く外反するものでいわゆるコの字状口縁を呈する。	口縁部は横撫で。胴部外面は横あるいは斜め下方向への篦削り。	①貯蔵穴。②二次火熱のためか炭素吸着。
5	甕	㊸〈17.8〉 ㊽〈17.1〉 ㊾口縁部～胴部上半⅛	①粗砂、軽石②酸化③にぶい黄橙10YR⅝	口縁部はやや内傾ぎみに立ち上がったものが中位で屈曲、外反する。胴部は上位に最大径を有し、それは口径の規模を上回る。	口縁部は横撫で。胴部外面は篦削り。上位は横方向、中から下位は縦方向、上から下に向かっている。内面は刷毛目状の撫で。	①竈焚口部、貯蔵穴。②二次火熱を受け煤付着。部分的に黒色の付着物。

90号住居（117図、ＰＬ37）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	高台付椀	㊸ 14.2 ㊽ 5.4 ㊾ほぼ完形	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR⅝	口縁部は外傾著しく立ち上がる。高台部もハの字状に外反、先端は肥厚し丸みをもつ。	口縁部は撫で後、先端を横撫で。下半は部分的に弱い篦削り。高台取り付け後接合部分を撫で調整。	①竈燃焼部。②内外面とも炭素吸着。

2	高台付椀	㊟ 〈3.7〉 ㊥口縁部下半～高台ヲ	①粗砂多量②酸化③に ぶい橙7.5YR ヲ	口縁部は斜め上方に立ち上がる。高台部はハの字状に外傾する。器肉は全体に厚い。	口縁部は横撫で。胴部外面の上位は横方向の荒削り、下位の荒削りは斜め方向である。	①電熱痕部。②二次火熱を受けている。炭素吸着。
3	台付壺	㊟ 〈11.4〉 ㊤〈13.5〉 ㊥上半部ヲ ～台部	①粗砂②酸化③に ぶい橙7.5YR ヲ	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。胴部は弱く張り、低い台部が接続すると思われる。台部の先端は欠損しているが旧事欠損の可能性もある。	口縁部は横撫で。胴部外面の上位は横方向の荒削り、下位の荒削りは斜め方向である。	①電熱痕部。②二次火熱を受け脆弱になっている。③破片2点で図上復元。

91号住居（120図、ＰＬ37）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊟ 10.6 ㊤ 3.3 ㊥ほぼ完形	①粗砂②酸化③に ぶい橙7.5YR ヲ	口縁部は短く、内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。内面はていねいな横撫であるいは撫で。	①＋8。②炭素吸着。
2	杯	㊟ 11.0 ㊤ 3.9 ㊥ ヲ	①粗砂②酸化③橙5YR ヲ	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削りと思われるが磨滅が著しい。	①＋11。②内外面とも磨滅顕著。
3	杯	㊟ 12.7 ㊤ 4.1 ㊥ ヲ	①粗砂②酸化③に ぶい橙5YR ヲ	口縁部は短く、屈曲して立ち上がる。先端は尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。	①床直。②器面はやや磨滅。
4	杯	㊟〈13.4〉 ㊤ 4.5 ㊥ ヲ	①粗砂②酸化③に ぶい橙5YR ヲ	口縁部は屈曲、短く内傾して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削りと思われるが磨滅が著しく判然としない。	①＋15。②内外面とも剥離、磨滅顕著。
5	杯	㊟ 13.9 ㊤ 5.3 ㊥ほぼ完形	①赤色粘土粒②酸化③橙5YR ヲ	口縁部は短く、外面が弱く内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は横方向に荒削り。	①床直。②器面はやや磨滅。内面に鉄分付着。
6	杯	㊟〈18.8〉 ㊤〈6.4〉 ㊥ ヲ	①粗砂少量②酸化③に ぶい橙7.5YR ヲ	口径は大きく、鉢状を呈する。口縁部は短く、内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は横方向に荒削り。内面はていねいな撫で、横撫で。	①床直。②外面の一部に炭素吸着。
7	壺	㊟〈17.3〉 ㊤〈10.8〉 ㊥口縁部～胴部上位ヲ	①粗砂②酸化③に ぶい橙5YR ヲ	口縁部は弧状にわずかに外反する程度である。	外面は口縁部を横撫で後、胴部外面を斜め方向に下から荒削り。	①電熱口部。②二次火熱を受け煤、粘土が付着。
8	壺	㊟ 23.0 ㊤〈9.8〉 ㊥口縁部～胴部上位ヲ	①粗砂、軽石多量②酸化③明黄褐10YR ヲ	口縁部は弧状に外反する。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向に下から上に向けて荒削り。内面は横方向に荒撫で。	①床直。②二次火熱を受け脆弱になっている。
9	壺	㊟ 20.5 ㊤〈13.3〉 ㊥上半部ヲ	①粗砂②酸化③に ぶい橙7.5YR ヲ	口縁部は弧状に大きく外反する。胴部は長胴を呈すると思われる。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向、上から下に向けて荒削り。	①電熱口部。②二次火熱のためか器面磨滅。炭素吸着。
10	壺	㊟ 20.2 ㊤ 36.0 ㊥ ヲ	①粗砂多量②酸化③に ぶい褐7.5YR ヲ	口縁部は屈曲、外傾著しく立ち上がる。胴部は長胴で上位がやや張り出す。	口縁部は横撫で。胴部外面の上位は斜め下方からの荒削り。中位から下位は斜め上方向から数回に分けて荒削り。	①床直。②二次火熱を受け炭素吸着。外面に粘土多く付着。
11	砥石	残存長は127mm、幅49mm、厚さ39mmを測る。2点に割れて出土した。二次火熱等の影響か器面は剥落が顕著である。糸巻状を呈する。小口面は観察が困難であるが多少使用されていたようである。平滑な使用面には長軸方向に細かい削痕が無数に残っていた。重量は453g。石質は流紋岩である。				①床直。

92号住居（118図、ＰＬ38）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②溶面③その他
1	甕	⑪ 22.0 ㊐ (27.1) ㊙口縁部～胴部下位	①粗砂、礫石②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	口縁部は緩やかに立ち上がり、先端で外反する。胴部は長胴で上位にやや張り出す。	口縁部は横撫で。胴部外面は箆削り。上位は横方向。中位は下から斜め方向に、上位は上から斜め方向に施している。	①難焚口部。②二次火熱を受け、外面には炭素吸着。
2	杯	⑪ 12.5 ㊐ 3.3 ㊙ 完形	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	口縁部は偏平な底部から丸みをもって起き上がる。	口縁部は撫で後先端を横撫で。底部外面は不定方向に箆削り。	①床下土坑か。②内外面炭素吸着。③底部外面墨書「大郷長」。
3	杯	⑪ (11.8) ㊐ (2.5) ㊙ ⅓	①粗砂②酸化③橙7.5YR⅞	口縁部は底部から彎曲、斜め上方に向けて立ち上がる。底部は平底を意識している。	口縁部は横撫で。底部は撫で後下位を箆削り。	①埋設土。②外面に炭素吸着。
4	杯	⑪ (15.7) ㊐ (3.8) ㊙口縁部⅔	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	口縁部は底部から内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後、下位を中心に不定方向に箆削り。	①＋６。②外面に茶褐色の鉄分を含む付着物。
5	杯	⑪ (14.7) ㊐ (4.1) ㊙ ⅓	①粗砂②酸化③橙7.5YR⅞	口縁部は斜め上方に立ち上がる。底部には箆削りによる稜がみられる。	口縁部は横撫で。底部外面は箆削り。内面は横撫であるいは撫で。	①埋設土。②炭素吸着。
6	杯 須恵	⑪ (13.8) ㊐ (3.0) ㊙ ⅓	①白色鉱物粒②還元③灰7.5Y⅝	口径に比較して底径は大きい。また器高は低く偏平である。口縁部は斜め上方に立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は切り離し後回転を伴う箆削り調整。	①埋設土。

93号住居（116図、ＰＬ38）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②溶面③その他
1	杯	⑪ (13.2) ㊐ 3.8 ㊙ ⅓	①粗砂②酸化③橙7.5YR⅞	口縁部は彎曲して、上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を箆削り。	①床直。②二次火熱を受けているか。
2	杯	⑪ (12.2) ㊐ (3.2) ㊙ ⅓	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は斜め上方に向けて立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に箆削り。	①床直。②外面に煤付着。
3	杯	⑪ 15.0 ㊐ 3.2 ㊙ 完形	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	皿状を呈する。口縁部は弱く外反して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。内面は横撫であるいは撫で。	①＋４。
4	甕	⑪ (14.3) ㊐ (7.4) ㊙口縁部～胴部上位	①粗砂②酸化③にぶい橙2.5YR⅝	口縁部は屈曲、外傾弱く立ち上がる。胴部は丸く張り出す。	口縁部は横撫で。胴部外面は横あるいは斜め下方向からの箆削り。	①埋役土。②内外面とも炭素吸着。
5	砥石	長さ77mm、最大幅42mm、厚さ23mmを測る。使用面は４面であるが小口の両端面も多少使用されている。表面に２箇所、側面に１箇所円錐形状の凹みがある。重量は124g。石質は流紋岩である。				①＋５。

1号掘立柱建物（121図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	口 (10.0) 底 〈2.6〉 残 破片	①粗砂②酸化③橙5YR%%	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を篦削りと思われる。	① Pit 4 の埋役土。 ②外面、炭素吸着。
2	杯	口 (9.8) 底 〈2.0〉 残 破片	①粗砂、輝石②酸化③橙5YR%%	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を篦削りと思われる。	① Pit 1 の埋役土。

3号掘立柱建物（123図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	口 (12.0) 底 〈3.0〉 残 破片	①粗砂②酸化③に ぶい橙5YR%%	口縁部は外傾して立ち上がる。中位2箇所に弱い稜をもつ。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り。	① Pit 4 の埋役土。 ②内外面ともに炭素吸着。
2	杯	口 (12.0) 底 〈2.9〉 残 破片	①細砂②酸化③橙7.5YR%%	口縁部は底部との間に弱い稜をもち外傾して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削りと思われる。	① Pit 3 の埋役土。 ②磨滅。
3	杯	口 (13.0) 底 〈2.9〉 残 破片	①粗砂②酸化③橙5YR%%	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り。	① Pit 2 の埋役土。 ②内外面の一部に煤付着。
4	杯	口 (11.0) 底 〈2.6〉 残 破片	①粗砂②酸化③明赤褐5YR%%	口縁部は短く,外反して立ち上がる。破片のため、器高は増す可能性がある。	口縁部外面は横撫で。底部は篦削り。内面は撫で後、棒状工具により暗文状の磨き。	① Pit 4 の埋役土。 ②内面は炭素吸着。
5	甕	口 (16.0) 底 〈4.4〉 残 破片	①粗砂②酸化③明赤褐5YR%%	口縁部は弧状に外反して立ち上がる。	横撫で。	① Pit 5 の埋役土。

4号掘立柱建物（124図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	口 (11.7) 底 〈3.5〉 残口縁部¼	①粗砂②酸化③明赤褐5YR%%	口縁部は斜め上方に立ち上がる。平底である。	口縁部は撫で後先端を横撫で。底部外面は篦削りである。	① Pit 4 の埋役土。 ②外面に粘土付着。

1号井戸（134図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	口 (11.0) 底 〈2.4〉 残 破片	①粗砂②酸化③橙5YR%%	口縁部は屈曲して短く立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り。	①埋役土。

2号井戸（134図、ＰＬ38）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	椀 陶器	㊐〈2.1〉 ㊗ 破片	①精選②還元③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部の破片である。	ロクロ成形。	①埋没土。②釉が施される。
2	擂鉢	㊐ 26.4 ㊗ 10.8 ㊙ 7/3	①粗砂、細砂②酸化③明褐7.5YR5/4	口縁部は斜め上方に大きく開く。先端は外側がそげ、尖る。	紐づくり成形。回転を伴う撫で調整。	①埋没土。②口縁部の中から下位は使用による磨耗が顕著。外面は剥離。内面には煤付着。

3号井戸（134図、ＰＬ38）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	㊐ 11.8 ㊗ 3.6 ㊙ほぼ完形	①粗砂②酸化③橙5YR6/8	口縁部は底部から彎曲、斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を篦削り。	①埋没土。
2	杯	㊐〈14.0〉 ㊗〈3.0〉 ㊙ 7/4	①粗砂②酸化③褐10YR4/4	口縁部は底部から彎曲して斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り。	①埋没土。②内外面とも炭素と鉄分を含む粘土付着。
3	杯	㊐ 15.4 ㊗〈4.1〉 ㊙ 7/4	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR6/4	器形は歪んでおり、口縁部の短径は14.6cmである。口縁部は上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位を除いて不定方向の篦削り。	①埋没土。③底部外面に刻書か。
4	杯	㊐〈11.7〉 ㊗〈3.1〉 ㊙ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部は彎曲して斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は篦削り。	①埋没土。③内面に刻書。
5	短頸壺 須恵	㊐〈8.0〉 ㊗〈3.7〉 ㊙上半部3/4	①白色・黒色鉱物粒②還元③灰白7.5Y7/1	口縁部は短く、直立する。胴部は横に強く張る。	右回転ロクロ成形。	①埋没土。
6	甕	㊐〈22.9〉 ㊗〈23.4〉 ㊙口縁部～胴部下位3/4	①粗砂、細砂②酸化③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部は胴部から屈曲、受け口ぎみに外傾する。胴部は長胴で、中位のやや上に最大径をもつと思われる。	口縁部は横撫で。胴部外面は篦削り。上位は横あるいは斜め下方向に、中位は斜め下方向に施している。内面は横方向の篦削り。	①埋没土。②外面の一部に煤付着。

3号土坑（141図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	高台付杯 須恵	㊗〈1.5〉 ㊙下半部破片	①黒色鉱物粒②還元③灰7.5Y5/1	高台部は断面台形で低い。	回転ロクロ成形。高台取り付け後接合部分を撫で調整。	①埋没土。
2	壺 須恵	㊗〈3.9〉 ㊙胴部破片	①黒色・白色鉱物粒②還元③灰N6/1	胴部上位の破片である。下方に向けて張り出す。	紐づくり成形と思われる。回転ロクロ調整。3段にわたり刺突文が施される。	①埋没土。

8号土坑（141図、ＰＬ38）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑤ 11.9 ⑥ 4.3 ⑦ 完形	①赤色粘土粒②酸化③橙５ＹＲ⅚	器形は著しく歪む。口径の最長は、12.6cm。口縁部は底部との間に稜をもち、外反弱く立ち上がる。先端は細くなる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①＋11。②内外面とも磨滅が著しい。
2	杯	⑤ 11.2 ⑥ 3.7 ⑦ ⅓	①赤色粘土粒②酸化③橙５ＹＲ⅚	器形は歪んでいる。口縁部は底部との間に弱い稜をもち、外傾弱く立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①＋11。②底部外面はやや磨滅。

14号土坑（141図、ＰＬ38）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	高台付椀 灰釉	⑥ 〈3.3〉 ⑦口縁部下半～高台⅓	①粗砂多量②還元ぎみ③灰白2.5Ｙ⅞	口縁部は斜め外方に立ち上がる。高台部は低く、断面形は台形。	右回転ロクロ成形と思われる。底部切り離し後高台取り付け。	①床直。②侵蝕吸着。
2	高台付椀 灰釉	⑤ (12.8) ⑥ 2.8 ⑦ ⅓	①精選、黒色鉱物粒②還元③灰白2.5Ｙ⅞	口縁部は弯曲して立ち上がる。先端は外側に開くひかれる。高台部は外面の中位に稜をもって細くなる。	右回転ロクロ成形。底部切り離し後高台取り付け。	①＋22。②内外面に施釉。
3	高台付椀 灰釉	⑤ (17.8) ⑥ 7.9 ⑦ ⅓	①白色鉱物粒②還元③灰黄2.5Ｙ⅞	口縁部は斜め上方に立ち上がり、緩みがある。先端に輪花が認められる。	右回転ロクロ成形か。口縁部の中位から下位は回転をともなう篦削り。	①＋５。②施釉は漬け掛け。内面に重ね焼き痕。
4	鉢？ 須恵	⑥ 〈5.2〉 ⑦胴部下位～底部破片	①粗砂多量②還元、軟質③灰白2.5Ｙ⅞	斜め上方に立ち上がる。	胴部はロクロ回転を伴う撫で。下位に篦削りが施された部分もある。底部外面は篦削り。	①床直。

1号溝（142図、ＰＬ39）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	猪口 磁器	⑤ (6.6) ⑥ 8.6 ⑦ ⅓	①精選②還元③灰白10Ｙ⅞	深長。口縁部は弯曲して立ち上がる。	植物文の染付と口縁部先端、底部に各１本、高台部に２本の圏線が描かれている。その上に白磁釉が施されるが気泡が粗い。	①埋没土。
2	皿 磁器	⑤ 〈2.7〉 ⑥口縁部下半～高台¼	①精選②還元③灰白7.5Ｙ⅞	蛇の目高台である。	内外面に植物文が表現され、高台外面には２本の圏線が描かれる。底部は蛇の目状に釉ハギがなされている。釉の発色は悪い。	①埋没土。
3	甕 陶器	⑤ (9.8) ⑥ 〈3.6〉 ⑦口縁部～胴部上位¼	①細砂②還元③断面、灰黄2.5Ｙ⅞	口縁部は外側に肥厚する。	赤茶色の釉を地に黒色みをおびる釉が重ねられている。	①埋没土。
4	蓋 磁器	⑤ (6.5) ⑥ 〈2.2〉 ⑦ 破片	①精選②還元③灰白10Ｙ⅞	口縁部の破片である。内弯して立ち上がる。	鹿の絵柄か。	①埋没土。

5	徳利	㊐ 3.0 ㊥ 〈5.6〉 ㊧上半部	①精選②還元③灰白N8/	口縁部から脚部上位の破片である。	いわゆる頸部に櫛版刷の文様がある。内面の施釉は口縁部のみに止まっている。	①埋没土。
6	杯	㊐ 〈13.9〉 ㊥ 〈3.5〉 ㊧ 破片	①粗砂少量②酸化③橙7.5YR⅝	口縁部は斜め上方に立ち上がる。	口縁部はていねいな撫で後先端を横撫で。底部は型肌状にひび割れている。	①埋没土。
7	甕	㊐ 〈20.8〉 ㊥ 〈5.6〉 ㊧ 破片	①細砂②酸化③橙7.5YR⅝	口縁部は外傾ぎみに立ち上がり、中位で屈曲、先端は外反するものでいわゆるコの字状を呈する。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向に箆削り。	①埋没土。②内外面に煤付着。

5号溝（142図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊐ 〈18.0〉 ㊥ 〈5.1〉 ㊧ 破片	①粗砂②酸化③橙7.5YR⅝	口縁部は内弯して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部は撫で後、下半を箆削り。	①埋没土。

遺構外の出土遺物（145図、ＰＬ39）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	壺	㊐ 27.1 ㊥ 〈7.9〉 ㊧口縁部⅓	①粗砂、輝石②酸化③にぶい黄橙10YR⅔	大型品と思われる。外傾して立ち上がり、先端は外側に折り返される。	内外面とも横撫で。	①包含層。
2	壺	㊐ 〈22.0〉 ㊥ 〈16.0〉 ㊧上半部⅔	①粗砂多量②酸化③にぶい黄橙10YR⅔	口縁部は胴部から屈曲、外反して立ち上がる。先端は平坦面を外側に向ける。胴部は球胴を呈すると思われる。	口縁部は横方向に撫で。胴部外面は斜め下方向、あるいは横方向から箆削り。	①包含層。
3	甕	㊐ 〈13.6〉 ㊥ 〈24.3〉 ㊧口縁部～胴部中位⅔	①粗砂②酸化③明赤褐5YR⅝	器形は歪み、器肉は厚く、鈍重な感じがする。口縁部は外傾弱く立ち上がる。胴部は中ふくらみの形状である。	口縁部は粗雑な横撫で。胴部外面は縦方向に粗雑な撫で。内面は横方向に撫で、粘土紐の接合痕を残している。	①包含層。②胴部外面に小さな黒斑。
4	甕	㊐ 〈19.7〉 ㊥ 〈21.1〉 ㊧上半部⅓	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	口縁部は屈曲して外傾する。先端は細くなる。胴部は長球形を呈する。	口縁部は横撫で。胴部外面は撫で状の箆削り。内面は横方向に箆撫であるいは刷毛状の撫で。	①包含層。②外面の一部に黒斑。二次火熱を受けているか。
5	甕	㊐ 18.8 ㊥ 〈18.7〉 ㊧上半部⅓	①粗砂、雲母②酸化③橙5YR⅝	口縁部は屈曲、外傾して立ち上がる。先端は平坦な面をもつ。胴部は長胴か。最大径は口径をわずかに上回る。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦あるいは横方向のていねいな撫で。部分的に箆削りが残る。内面は横方向に撫で。	①包含層。②外面は炭素吸着。黒斑か。内面はやや磨滅。
6	高杯	㊐ 〈3.9〉 ㊥杯底部～脚部上位	①粗砂②酸化③にぶい褐7.5YR⅝	脚部は杯部のほぞをつつむように接合されている。	外面はていねいな撫で。脚部内面は縦方向の撫で。	①包含層。②外面の一部に炭素吸着。

荒砥宮西遺跡

1号住居（150図、ＰＬ48）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	甕	㊃ (20.2) ㊇ (19.8) ㊈口縁部～胴部下位⅓	①粗砂、細砂②酸化③橙5ＹＲ⅞	口縁部は弧状に弱く外反する。胴部は上位に最大径を有し張る。内面の下位には接合による段がつく。	口縁部は横撫で。胴部外面は上位を横方向、中位を上から下に縦方向の篦削り。下位は斜め方向に施す。内面は横方向にていねいな撫でを施す。	①＋10。

2号住居（151・152図、ＰＬ48）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊇ 〈1.7〉 ㊈口縁部下位～底部	①粗砂②酸化③灰褐7.5ＹＲ⅓	口縁部は下位にやや膨らみをもって立ち上がるか。	左回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①電燃焼部。②炭素吸着。
2	杯	㊃ 〈13.0〉 ㊇ 〈3.5〉 ㊈口縁部⅓	①粗砂②酸化③橙2.5ＹＲ⅝	口縁部は外傾弱く立ち上がる。底部は不安定な平底か。	外面の口縁部、先端と内面は横撫で。外面、口縁部下半は撫で。型肌か。底部は篦削り。	①貯蔵穴と４号溝の破片が接合。
3	高台付椀 須恵	㊇ 〈1.5〉 ㊈口縁部下位	①粗砂②還元③灰白10Ｙ⅞	口縁部は下位にやや膨らみをもって立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部分を横撫でするが底部に糸切り痕を残す。	①埋没土。③高台部欠損後も割れ口を再調整して使用。
4	高台付椀	㊃ 14.0 ㊇ 5.3 ㊈ ⅞	①粗砂、雲母、黒色粒多量②酸化③灰黄2.5Ｙ⅞	器形はやや歪んでいる。高台部は低く、内縁が接地する。	右回転ロクロ成形。底部を回転糸切り離し後高台部を取り付け。接合部分を横撫でするが底部に糸切り痕を残す。	①埋没土。②内外面とも磨滅著しい。
5	高台付椀	㊇ 〈2.3〉 ㊈口縁部	①粗砂、細礫、雲母②酸化③褐灰10ＹＲ⅝	高台部は断面三角形の形状を呈する。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部分を横撫でするが底部に糸切り痕を残す。	①埋没土。②炭素吸着。磨滅著しい。
6	高台付椀 灰釉	㊃ 〈17.8〉 ㊇ 2.7 ㊈ ⅞	①黒色・白色鉱物粒②還元③灰白2.5Ｙ⅞	口縁部は外傾著しい。先端はつまれ外側に面を向ける。高台部は低いがいわゆる三日月型を呈する。	右回転ロクロ成形。高台部取り付け後底部は撫で調整。	①埋没土。②拖釉は刷毛掛けか。
7	甕	㊃ 16.0 ㊇ 〈4.5〉 ㊈口縁部破片	①粗砂、細礫②酸化③赤褐5ＹＲ⅝	口縁部は直立後先端が強く外傾する。いわゆるコの字状口縁である。	口縁部は横撫で。口縁部の下位には指頭による撫でが残る。	①埋没土。②粘土付着。
8	杯	㊃ 〈14.0〉 ㊇ 4.0 ㊈ ⅞	①粗砂、輝石②酸化③にぶい黄橙10ＹＲ⅞	口縁部は小きな底部から外傾著しく立ち上がり、先端は外側につまれている。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①埋没土。②底部の内面全体と外面の周縁部分が磨滅している。③墨書「長」、その左にもう一文字か。内面にも「長」。
9	瓶？ 須恵	㊇ 〈1.7〉 ㊈ 底部	①白色鉱物粒②還元③灰褐7.5Ｙ⅝	丸底である。	外面は不定方向に細い篦削り。内面は回転を伴う撫で。	①埋没土。③内面の一部は人為的に磨滅している。二次的利用をしたか。

3号住居（153図、ＰＬ48）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 10.8 ⑱ 4.3 ⑲ほぼ完形	①粗砂、雲母②酸化③橙5ＹＲ⅞	器形は歪んでいる。口縁部は弱く外傾して立ち上がる。先端は尖る。底部との間の稜は弱い。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。内面には撫で調整時の粘土の垂りが認められる。	①床直。②内外面ともやや磨滅。
2	杯	⑪ 12.1 ⑱ 4.5 ⑲ ⅞	①粗砂、赤色粘土粒②酸化③橙5ＹＲ⅞	器形は歪んでいる。口縁部は底部との間に稜を有することはなく直立ぎみに立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部は不定方向の荒削り。	①竈燃焼部。②内外面ともやや磨滅している。
3	杯	⑪ 11.1 ⑱ 3.6 ⑲ 完形	①粗砂、輝石②酸化③橙5ＹＲ⅞	器形は口縁部、底部ともに残い。口縁部は底部との間にわずかな稜をもつ。また、立ち上がりの中位にも沈線状の段差がみられる。	口縁部は横撫で。底部は不定方向の荒削り。	①床直。②内外面ともやや磨滅している。
4	杯	⑪ 11.0 ⑱ 3.8 ⑲ほぼ完形	①粗砂、雲母②酸化③橙5ＹＲ⅞	器形は著しく歪んでいる。口縁部は短く、先端は外側につまれる。底部は丸く深い。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。	①床直。②内外面とも磨滅。
5	杯	⑪ 11.3 ⑱ 3.4 ⑲ 完形	①粗砂②酸化③橙5ＹＲ⅞	器形は著しく歪んでいる。口縁部は外傾して立ち上がる。先端は尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削りであるが器面の磨滅が著しく調整の単位、方向が不明瞭である。	①床直。②内外面とも磨滅。③底部には径８㎜の焼成後の穿孔があり、他に途中まで穿孔を試みた痕跡がある。
6	杯	⑪ 12.5 ⑱ 7.3 ⑲ほぼ完形	①粗砂、細砂②酸化③明赤褐2.5ＹＲ⅝	口縁部は内傾して立ち上がる。中位に沈線がめぐる。底部は丸底で深長である。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。内面は荒削り。	①埋没土。②内外面とも黒色みをおびる。
7	杯	⑪ 10.3 ⑱ 3.4 ⑲ほぼ完形	①粗砂②酸化③橙5ＹＲ⅞	口縁部は丸く内弯して立ち上がる。底部は丸底である。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削りであるが、器面の磨滅が著しく調整痕の識別は困難である。	①埋没土。③内面にの刷毒。
8	杯	⑪ 11.1 ⑱ 3.5 ⑲ほぼ完形	①粗砂②酸化③橙2.5ＹＲ⅝	口縁部は短く内弯して立ち上がる。先端は内側を向く。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で調整後下半部を不定方向に荒削りする。	①埋没土。②内外面やや磨滅。煤付着。
9	甕	⑪ (18.9) ⑱ (18.2) ⑲口縁部～胴部下位	①細砂②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ⅝	口縁部は直立ぎみに立ち上がり上半が弱く外傾する。胴部は上位で強く張り徐々に細くなる。	口縁部は横撫で。胴部外面は上位を横方向、下位を縦方向に荒削り。内面は横方向の荒撫で。	①埋没土。②外面、部分的に炭素吸着。
10	甕	⑪ (21.8) ⑱ (5.2) ⑲口縁部破片	①粗砂、細砂②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ⅞	口縁部は内傾ぎみに立ち上がり、中位で屈曲、外反する。先端は丸い。	口縁部は上半が横撫で。下半は指頭による撫で。胴部外面は横方向の荒削り。内面は横方向の撫で。	①埋没土。
11	甕	⑪ (23.5) ⑱ (6.3) ⑲口縁部破片	①粗砂、輝石②酸化③橙5ＹＲ⅝	口縁部は内傾ぎみに立ち上がり、中位から外反する。先端は丸い。	口縁部は横方向の撫で。胴部外面は横方向の荒削り。内面は斜め方向の強い撫で。	①竈燃焼部。②内面、炭素吸着。
12	甕	⑪ (27.4) ⑱ (5.7) ⑲口縁部破片	①粗砂多量②酸化③橙7.5ＹＲ⅞	口縁部は屈曲して外反する。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め方向の荒削り。	①埋没土。②器面、やや磨滅。

13	甕	⑪〈23.4〉 ⑬〈5.1〉 ⑭口縁部¾	①粗砂多量②酸化③にぶい褐7.5YR⅝	口縁部は弧状に外反、最大径を有する。先端は丸い。器肉は全体に厚い。	口縁部を横撫で後、胴部外面を縦方向に荒削りする。内面、荒撫で。	①埋没土。②器面に粘土付着。
14	甕	⑧〈6.1〉 ⑭胴下部～底部破片	①粗砂、細砂②酸化③橙5YR⅝	小型の斜状を呈すると思われる。底部には径7～9mmの小孔が複数穿ってあり、6箇所が確認できた。	内面はていねいな撫で調整。	①埋没土。②外面剥離。
15	手捏ね小型相製土器	⑪〈4.6〉 ⑬〈2.9〉 ⑭破片	①細砂②酸化③にぶい橙10YR⅞	小型で鉢型を呈すると思われるが底部の形状は不明。口縁部の先端はやや波うつ。	外面、口縁部上位は横撫で。以下は指頭による撫で。内面は荒による細かい削り。	①埋没土。②内外面とも炭素吸着。
16	高台付杯須恵	⑧〈1.8〉 ⑭杯部下位～高台破片	①白色・黒色鉱物粒②還元③灰7.5Y⅝	高台部は長方形。先端はやや丸みを有し、内縁が接地する。	右回転ロクロ成形と思われる。底部の切り離し後篦切りと思われるがその後撫で調整がされている。	①埋没土。②高台部接地面は磨耗している。
17	石鏃	残存長25mm、厚さ3mmを測る。残存重量は1gである。無茎で基底部にはくりこみがあり逆刺がある。先端と逆刺の一方は欠損している。石質はチャートである。				①埋没土。
18	甕弥生	⑧〈2.5〉 ⑭破片	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	胴部の破片か。	外面は一単位5本の波状文が3段施されている。内面はていねいな磨き。	①埋没土。

5号住居（154・155図、ＰＬ49）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	⑪〈13.2〉 ⑬〈2.2〉 ⑭口縁部¼	①細砂、赤色粘土粒②酸化③橙5YR⅝	口縁部は直線的に弱く外傾する。底部は口縁部との接合部分で器肉が非常に薄くなる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削りか。	①埋没土。②内外面とも磨滅顕著。
2	杯	⑪〈12.8〉 ⑬〈4.3〉 ⑭ ¼	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は直立ぎみに立ち上がるが底部との間には稜をもたない。先端は弱く外反する。底部は深長。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。	①＋15。②内外面とも磨滅。外面の一部に黒斑かも。
3	杯	⑪ 15.1 ⑬ 4.1 ⑭ ¾	①粗砂、輝石②酸化③橙5YR⅝	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は横方向の荒削り。内面はていねいな撫で。	①床直。②内外面とも磨滅。外面の一部に煤か。
4	蓋須恵	⑬〈3.4〉 ⑭天井部¾	①長石・チャートなど粗砂多量②還元③灰黄2.5Y⅝	口縁部は底部から屈曲強く立ち上がる。先端には狭小な平坦面がつくられている。	右回転ロクロ成形。天井部は回転を伴う荒削り調整。	①埋没土。
5	蓋須恵	⑪ 11.1 ⑬ 4.3 ⑭ ¾	①長石など粗砂多量②還元、やや軟質③灰7.5Y⅞	器形はやや歪んでいる。天井部は丸みをおびている。口縁部の先端は外側に弱くかえる。	右回転ロクロ成形。天井部の大部分は回転を伴う荒削りが加えられている。	①埋没土。②天井部口縁部先端は磨滅顕著。③杯として利用か。
6	盤須恵	⑪〈20.0〉 ⑬ 2.4 ⑭破片	①黒色鉱物粒をはじめとした細砂②還元③灰7.5Y⅝	口縁部は底部から屈曲強く立ち上がる。先端には狭小な平坦面がつくられている。	右回転ロクロ成形と思われる。底部外面は回転を伴う荒削り調整。	①埋没土。②外面に自然釉付着。
7	甕	⑪ 17.3 ⑬ 21.2 ⑭ほぼ完形	①粗砂②酸化③橙5YR⅞	口縁部はくの字状に屈曲、外反して立ち上がる。胴部は長球形を呈した底の底部に続く。	口縁部は横撫で。胴部外面は中位から上位は斜め下あるいは横方向の荒削り。下位は斜め上からの荒削り。	①＋10。②磨滅、剥離顕著。炭素吸着。
8	甕	⑧〈6.4〉 ⑭下半部	①粗砂、輝石②酸化③灰黄2.5Y⅝	球形の胴部の下半部である。	外面は斜め下方向の荒削り。内面は荒削り、撫撫で。	①＋10。②器面磨滅。内外面炭素吸着。外面は煤か。

9	壺	㊤ 16.6 ㊥ 〈7.7〉 ㊦上半部¾	①粗砂、軽石②酸化③にぶい橙7.5YR¾	口縁部は弱く屈曲して外反する。器内は中位が肥厚する。	口縁部を横撫で後、胴部外面を下から上方向に篦削りするが、成形が粗雑で器面は大きく波打っている。	①電燃焼部。②二次火熱のためか内外面に炭素吸着。
10	壺	㊤〈22.7〉 ㊥〈8.0〉 ㊦口縁部～胴部上位¾	①粗砂多量、輝石②酸化③にぶい橙7.5YR¾	口縁部は屈曲して強く外反する。先端の内面には沈線状の凹部がめぐる。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め下方向からの篦削り。内面は横方向の撫で。	①電燃焼部。
11	壺	㊤〈20.9〉 ㊥〈17.1〉 ㊦上半部¾	①粗砂、軽石多量②酸化③明赤褐7.5YR¾	口縁部は弧状に弱く外反する。先端は弱く外側を向く。器内は形状に比して全体に薄い。	口縁部を横撫で後胴部外面を下から上方向に篦削りする。内面は横方向の撫で。	①床直。②外面に黏土が付着。
12	高台付椀	㊤ 11.7 ㊥ 4.5 ㊦ ¾	①粗砂、輝石②酸化③浅黄2.5Y¾	口縁部はあまり張らず外傾する。先端は弱く外側につままれる。高台は低く、先端は丸みをおびる。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台部を取り付け。接合部分を撫でるが、底部の一部に糸切り痕を残す。	①埋没土。②内外面とも磨滅。外面の一部に煤付着。
13	高台付椀	㊥〈2.8〉 ㊦口縁部中位～高台部	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR¾	口縁部は深く、大きく外反か。	左回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台部を取り付け。接合部分を撫でるが底部の中央に糸切り痕を残す。	①埋没土。②内外面剥れ口も含め炭素吸着。
14	砥石	残存長63mm、最大幅37mm、厚さ12mmを測る。重さ45gである。使用面は4面である。小口面の一端は欠損部分であるが磨耗を受けている。石質は流紋岩である。				①埋没土。
15	礫	長さ11.3cm、幅68mm、厚さ45mmを測る。重さ437gｇ。石質は粗粒安山岩である。側面に敲打等の使用によると思われる痕跡が確認できる。敲編み石の可能性が考えられようか。同様の形状の礫が合計8個出土している。				①＋6。
16	スタンプ形石器	長さ117mm、幅63mm、厚さ52mmである。重さ557gｇ。石質は粗粒安山岩である。自然円礫の一端を打ちかき、平坦面を形成している。この面は使用により、磨滅が顕著である。また、これに接する側面端部には敲打による欠損面が生じている。				①床直。

7号住居（158図、ＰＬ49）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊤ 13.0 ㊥ 3.2 ㊦ ¾	①粗砂②酸化③明赤褐2.5YR¾	口縁部は外傾して立ち上がる。先端は器内が薄く丸い。底部は弱い凹状を呈する。	口縁部は横撫で後、斜め下方向から篦削り。その後上位を横撫で。底部外面には篦肌が残り、部分的に篦削りを施す。	①床直。②器面はやや磨滅。
2	高台付椀	㊥〈2.4〉 ㊦口縁部下位～高台部	①粗砂、細砂②酸化③灰黄2.5Y¾	高台部は低く、断面三角形を呈する。	左回転ロクロ成形か。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部分を撫でるが底部に糸切り痕を残す。	①埋没土。②内外面とも炭素吸着。③内面に墨書「真」。
3	高台付椀	㊥〈2.3〉 ㊦口縁部下半	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR¾	口縁部は外傾して立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部分を撫でるが底部に糸切り痕を残す。	①埋没土。②内面炭素吸着。③高台欠損後も使用か。
4	高台付椀	㊥〈4.0〉 ㊦口縁部下半～高台部¾	①粗砂、細砂②酸化③灰黄2.5Y¾	口縁部はやや腰が張るか。高台部は低く台形状を呈していたか。	右回転ロクロ成形。底部切り離し後高台取り付け。	①埋没土。②内外面の一部炭素吸着。内外面、高台端部は磨耗。
5	杯須恵	㊥〈3.0〉 ㊦下半部	①粗砂、白色粘土粒②還元③灰10Y¾	器形はやや歪んでいる。口縁部は外傾して立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後無調整。	①床直。②底部外面はやや磨滅する。

6	甕	⑪（22.0） ⑩〈5.4〉 ⑧口縁部破片	①粗砂②酸化③橙5YR⁄6	口縁部は直立して立ち上がり、先端が受け口状に外反するものである。	口縁部は横撫で。中位に指頭による撫で調整の部分がある。胴部外面は斜め方向の篦削り。内面は撫で調整。	①埋設土。

8号住居（163・164図、P L 49）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	⑪ 12.0 ⑩ 4.0 ⑧ 完形	①粗砂、赤色粘土粒②酸化③橙5YR⁄6	口縁部は内彎して立ち上がる。先端は弱く尖り内側を向く。	口縁部は横撫で。底部は撫で後下半を不定方向の篦削り。	①床直。②内外面とも磨滅。外面の一部に煤付着。
2	杯	⑪ 11.6 ⑩ 3.5 ⑧ 完形	①粗砂②酸化③橙5YR⁄6	口縁部は弱く内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①床直。②器面に黒色の付着物。
3	杯	⑪ 16.3 ⑩ 6.2 ⑧ ⅓	①粗砂、輝石②酸化③橙7.5YR⁄6	口縁部は短く、弱く内彎して立ち上がる。底部は丸底で深長である。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。内面は横方向の撫で。	①床直。②内外面とも磨滅。
4	蓋 須恵	⑪ 17.6 ⑩ 3.6 ⑧ 完形	①黒色鉱物粒、器面に発泡している②還元③黄灰2.5Y⁄5	天井部はやや膨らみをもっている。端部は小さく折れ、断面は三角形状である。内面には弱いかえりがつく。	右回転ロクロ成形。天井部は中位より内側は回転を伴う篦削り。つまみ接合後周辺を撫で調整。	①＋30。②内外面の一部に自然釉付着。重ね焼きのためか。
5	高台付椀 須恵	⑩〈3.4〉 ⑧口縁部中位～高台部⅓	①黒色鉱物粒②還元③灰白7.5Y⁄7	口縁部は下位に変換点を有し外傾して立ち上がる。高台部は断面長方形、端部でひろがる。	右回転ロクロ成形。底部は糸による切り離し後撫で調整。底部外面は不定方向に撫でている。	①埋設土。②高台部底面はやや磨耗している。
6	甕	⑪（12.6） ⑩〈7.0〉 ⑧上半部⅓	①粗砂多量、赤色粘土粒②酸化③灰黄2.5Y⁄6	口縁部は直立ぎみ、わずかに外傾して立ち上がる。胴部はあまり張らない。	口縁部は横撫で後胴部外面を斜め下方向から篦削り。内面は横方向の撫で。	①＋6。②外面の一部に黒斑。
7	甕	⑪（20.0） ⑩〈9.3〉 ⑧口縁部～胴部上位⅓	①粗砂多量、輝石②酸化③にぶい黄橙10YR⁄6	口縁部は屈曲して外反、先端は丸みをもって外側を向く。胴部は弱く張る。	口縁部は横撫で後胴部外面を下方向から篦削り。内面は横方向の撫で。	①＋6。②二次火熱を受け炭素吸着。
8	甕	⑪ 21.7 ⑩〈28.0〉 ⑧口縁部～胴部下位	①粗砂②酸化③橙7.5YR⁄6	口縁部は強く屈曲し水平ぎみに延びる。胴部は上位に最大径を持つがあまり張り出さない。	口縁部は横撫で。胴部外面は上位は横、中位から下位は縦方向の篦削りを施す。内面は横方向の撫で。	①＋4。②二次火熱を受け剥離、磨滅。粘土付着。内面に炭素吸着。
9	礫	長さ125mm、幅50mm、厚さ31mmを測る。重さは243gである。部分的に欠損している。表面は磨耗を受けているようである。敲編み石の可能性が考えられる。石質は粗粒安山岩である。				①床直。
10	礫	長さ162mm、幅61mm、厚さ38mmを測る。重さは298gである。石質は粗粒安山岩である。表裏の中央部分および小口の両端には敲打痕と思われる痕跡がある。本住居からは同種の礫が16個集中して出土している。敲編み石として使用したか。				①床直。

9号住居（160・161図、ＰＬ50）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面調査その他
1	杯	㊃ (11.5) ㊁ 3.4 ㊄ ½弱	①粗砂少量②酸化 ③橙５ＹＲ⅝	口縁部は短く、外反ぎみに直立する。先端は内側がややそがれ丸る。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。口縁部近くに撫での部分が残る。	①＋３。②器面磨滅。外面の一部に黒斑がある。
2	杯	㊃ 10.7 ㊁ 3.2 ㊄ ½	①粗砂少量②酸化 ③橙５ＹＲ⅝	口縁部は短く直立して立ち上がる。底部との間には弱い稜ができる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。	①床直。②器面磨滅。外面の一部に黒斑がある。
3	杯	㊃ (11.6) ㊁ 3.4 ㊄ ½	①粗砂少量②酸化 ③橙５ＹＲ⅝	口縁部は短く直立する。先端は内側がそげてやや尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削りであるが磨滅が著しく調整の状態は観察できない。	①床直。②内外面の一部に黒色の付着物。
4	杯	㊃ 11.2 ㊁ 2.5 ㊄ ½	①粗砂、赤色粘土粒②酸化③橙５ＹＲ⅝	口縁部は外傾弱く立ち上がり先端はやや細くなる。底部も浅い。	口縁部は横撫で。底部は撫で後下半を不定方向に荒削り。底部の撫では粗雑で器面が抜打つ。	①床直。②器面はやや磨滅する。
5	杯	㊃ (10.5) ㊁ 3.1 ㊄ ½	①粗砂、輝石②酸化③によい橙５ＹＲ⅝	口縁部は底部との間に弱い稜をもち、外反して立ち上がる。先端は丸く、外側にやや肥厚する。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。	①埋設土。
6	杯	㊃ (12.2) ㊁ (3.5) ㊄ 破片	①細砂②酸化③によい橙7.5ＹＲ⅞	口縁部は底部との間に稜をもち外傾著しく立ち上がる。底部は浅い。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。上位に撫での部分を残す。底部内面は平滑な仕上げの撫で。	①埋設土。②外面の一部に炭素吸着。
7	杯	㊃ 11.2 ㊁ (3.0) ㊄ほぼ完形	①粗砂少量、輝石②酸化③黄橙7.5ＹＲ⅞	器形は偏平。口縁部は底部との間にわずかな稜をもって外反する。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。	①電燃焼部。②器面は磨滅。外面に黒色の付着物。
8	円土	形板	長さ4.6cm、幅4.9cm、厚さ0.7～0.9cmを測る。隅丸の土器片で色調はにぶい褐7.5ＹＲ⅝をおびる。各辺とも敲打、磨耗が加えられている。上下、左辺の中央はややくりこみがある。			①電燃焼部。②炭素吸着。
9	甕	㊃ 22.2 ㊁ 39.2 ㊄ ½	①粗砂、細砂状の輝石、赤色粘土粒②酸化③にぶい黄橙10ＹＲ⅞	口縁部は弧状に外反する。器肉は肥厚する。胴部は長胴、あまり張らず底部に移行する。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向に３～４回に分けて荒削りを施す。内面は横方向の撫で。	①床直。②二次火熱を受け変色変質。粘土の付着顕著。
10	甕	㊃ 23.6 ㊁ (49.8) ㊄口縁部～胴部下位	①粗砂、輝石、赤色粘土粒②酸化③明黄褐10ＹＲ⅞	口縁部は弧状に外反して立ち上がる。胴部は長胴である。先端は丸みをもちやや肥厚する。	口縁部は横撫で。胴部外面は下から上方向に３回に分けて荒削り。内面は横方向に撫で。	①床直。②二次火熱。炭素吸着。黒色の付着物がある。
11	甕	㊁ (39.2) ㊄胴部上位～底部	①粗砂②酸化③によい橙５ＹＲ⅝	口縁部は弧状に大きく外反するか。先端は欠損している。胴部上位に最大径をもつがあまり張らない。	口縁部は横撫で。胴部外面は上から下に３～４回に分けて縦方向の荒削り。内面は横あるいは斜め方向の撫で。	①床直。②二次火熱。内外面とも黒色の付着物。
12	甕	㊃ 25.1 ㊁ 44.4 ㊄ほぼ完形	①粗砂多量、雲母②酸化③によい黄橙10ＹＲ⅞	口縁部は弧状に外反、肥厚する。胴部は長胴で底部に向けて徐々に細くなる。	口縁部は横撫で後、胴部外面を荒削り。上、中位は上から下方向。下位は部分的に下から上方向。内面は撫で。	①床直。②外面、部分的に黒褐。内外面に黒色の付着物。
13	甕	㊃ 22.8 ㊁ (26.3) ㊄口縁部～胴部下位	①粗砂多量、輕石、輝石②酸化③によい黄橙10ＹＲ⅞	口縁部は弧状に外反する。胴部は長胴、径にあまり変化なく下半に至る。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向に荒削り。内面は斜めあるいは横方向の撫で。	①床直。②二次火熱を受ける。黒色の付着物あり。粘土付着。

14	甕	㊐ 23.1 ㊒ 〈21.6〉 ㊓上半部	①粗砂、細礫、赤色粘土粒、輕石②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は弧状に短く外反する。先端は丸い。胴部は長胴で張らない。	口縁部の横撫で後胴部外面を縦方向に荒い箆削り。内面は横方向に撫で。	口縁部の横撫で。胴部外面は縦方向の箆削り。内面は横方向の撫で。	①＋6。②二次火熱を受け脆弱になる。磨滅。
15	甕	㊐ 〈32.4〉 ㊒胴部上位～中位	①粗砂多量、輕石②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は弧状に外反するか。胴部の径はあまり大きな変化はなく底部にむけて徐々に細くなる。	胴部外面は上半部が下から上、下半部が上から下方向に箆削り。内面は横方向の箆撫で。	①不明。②二次火熱を受けている。外面に粘土付着。	
16	甕	㊐ 21.7 ㊒ 〈26.5〉 ㊓上半部¾	①粗砂②酸化③明赤褐5YR5/6	口縁部は屈曲して外傾する。先端の内面には弱い稜ができる。屈曲点は調整工具が強く当たり器面に段ができている。胴部は長胴である。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向に下から上に幅広い箆削り。内面は横方向の撫で。	①＋6。②内外面とも磨滅している。	

10号住居（162図、ＰＬ50）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	㊐ 12.8 ㊒ 3.2 ㊓ 完形	①粗砂少量②酸化③にぶい橙5YR7/3	器高は低く偏平である。口縁部は内彎して立ち上がり、先端は内側を向き尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後平平を一定方向から撫で状の箆削り。	①床直。②内外面の一部に黒色の付着物。
2	杯	㊐ 〈13.0〉 ㊒ 〈4.6〉 ㊓ 片	①粗砂、赤色粘土粒②酸化③橙5YR6/6	口縁部は丸底の底部から直線的に外傾して立ち上がる。先端は丸い。	口縁部は横撫で。底部外面は上半が左から右、下半が右から左方向の箆削り。内面は横撫であるいは撫で。	①埋設土。
3	杯 須恵	㊐ 〈2.8〉 ㊒口縁部下位～底部破片	①白色鉱物粒、黒色粒子は発泡する②還元③灰7.5Y5/1	口縁部は外傾して立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は切り離し後撫で調整。口縁部最下位と底部周縁は手持ち箆削り。	①埋設土。②外面に自然釉付着。
4	甕	㊐ 22.6 ㊒ 〈7.0〉 ㊓口縁部～胴部上位	①粗砂、細砂②酸化③にぶい橙5YR7/4	口縁部は屈曲して外反、先端は内面がそれぞれ受け口状にみえる。胴部は上位に最大径を有すると思われる。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の箆削り。内面は斜め方向の撫で。	①＋10。②内外面ともやや磨滅。黒色の付着物。

11号住居（165図、ＰＬ51）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	㊐ 〈12.3〉 ㊒ 4.5 ㊓ 片	①粗砂、細砂②酸化③にぶい赤褐5YR5/4	須恵器杯身模倣形態をとっているか。内傾する口縁部の先端は内側がそげ弱い沈線がめぐる。底部の器肉は厚い。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①埋設土。②器面は炭素吸着。
2	杯	㊐ 〈10.1〉 ㊒ 〈2.4〉 ㊓ 破片	①細砂、赤色粘土粒②酸化③橙5YR6/6	口縁部は底部との間に稜をもって外傾する。先端は尖る。	口縁部は横撫で。	①埋設土。②器面磨滅。
3	杯	㊐ 〈14.0〉 ㊒ 〈2.5〉 ㊓ 破片	①粗砂、細砂②酸化③にぶい橙5YR6/4	口縁部は底部から内彎、先端は斜め上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後不定方向の箆削り。	①埋設土。③口径は小さくなる可能性もある。

12号住居（170図、ＰＬ51）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪（10.8） ⑬（2.8） ⑭口縁部％	①粗砂②酸化③橙5ＹＲ％	器形は歪んでいる。口縁部は短く、弱く内彎する。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後、下半を不定方向に箆削り。	①埋没土。②外面煤付着。
2	杯	⑪（12.8） ⑬（3.1） ⑭ 破片	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙5ＹＲ％	丸底の底部に続く口縁部は上方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後、下位を箆削り。	①埋没土。②外面の一部に黒斑。
3	杯	⑪（17.7） ⑬（3.2） ⑭ 破片	①粗砂②酸化③橙5ＹＲ％	口縁部は外方に立ち上がるが、底部との区分が不明瞭である。先端は丸く外側を向く。	口縁部は横撫で。底部外面は斜め方向の箆削り。内面はていねいな撫で。	①埋没土。②二次火熱を受けているか。
4	杯	⑬（2.0） ⑭底部％	①粗砂少量、輝石②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ％	丸底を呈する。	底部外面は箆削り。内面は横撫で。	①埋没土。③内面に篤による刻書。
5	甕	⑪（22.9） ⑬（8.4） ⑭口縁部～胴部上位％	①粗砂、細砂②酸化③橙7.5ＹＲ％	口縁部は直線的に弱く外傾する。先端は丸みをもつ。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の箆削り。内面は横方向の箆撫で。	①埋没土。

13号住居（171図、ＰＬ51）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑪ 12.9 ⑬ 4.7 ⑭ほぼ完形	①粗砂②酸化③浅黄橙7.5ＹＲ％	口縁部は中位に強い稜をもって外傾する。先端は尖る。底部は浅い。	口縁部は２度に分けて横撫で。底部外面は箆削り。中央は一定方向に撫されている。	①床直。②内面は剥離が顕著。内外面炭素吸着。
2	杯	⑪（11.8） ⑬（3.3） ⑭ 破片	①粗砂②酸化③橙5ＹＲ％	口縁部は中位に強い稜をもって外傾する。先端は尖る。	口縁部は２度に分けて横撫で。底部外面は箆削り。	①埋没土。②器面は一部剥離。炭素吸着。
3	杯	⑪（12.7） ⑬（3.3） ⑭ 破片	①細砂、赤色粘土粒②酸化③橙5ＹＲ％	口縁部は底部との間に稜をもち弱く外傾する。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①埋没土。②外面に炭素吸着。
4	杯	⑪（11.6） ⑬（3.5） ⑭ 破片	①細砂②酸化③橙5ＹＲ％	口縁部は底部との間に稜をもち弱く外傾する。	口縁部は横撫で。底部外面は箆削り。	①埋没土。
5	高台付杯 須恵	⑬（3.5） ⑭底部％	①白色・黒色鉱物粒②還元③灰白10Ｙ％	底部は緩やかな丸底で中央が接地している。高台部は底部の端に付き形骸化し、機能していない。	左回転ロクロ成形。底部は切り離し後回転を伴う箆削り調整。高台取り付け後周辺を横撫で。	①埋没土。
6	甕	⑪ 20.3 ⑬（28.0） ⑭口縁部～胴部下位％	①粗砂、細礫少量②酸化③にぶい黄橙10ＹＲ％	口縁部は緩やかに弱く外反する。先端の内面には弱い沈線がめぐる。胴部は丸く張る。	口縁部は横撫で。胴部外面には上位が横方向、中・下位が斜め方向の箆削りが施される。内面は横方向の撫で。	①床直。②外面には部分的に黒斑がある。

14号住居（166図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②部面③その他
1	杯	口 (9.9) 器 〈2.7〉 残 破片	①粗砂、輝石②酸化③橙5YR%%	口縁部は弱く外反して立ち上がる。先端はやや尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向に篦削り。	①埋没土。②器面はやや磨滅。
2	杯	口 (12.0) 器 〈3.3〉 残 破片	①細砂②酸化③橙5YR%%	口縁部は底部との間に稜をもち斜め外方に立ち上がる。底部は浅いか。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の篦削り。	①埋没土。②器面はやや磨滅。
3	杯	口 (13.8) 器 〈2.1〉 残 破片	①細砂②酸化③橙7.5YR%%	口縁部は底部との間にわずかな稜を有し、外方に立ち上がる。	口縁部は横撫で。	①埋没土。②器面はやや磨滅。

15号住居（168・169図、ＰＬ51）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②部面③その他
1	杯	口 (12.0) 器 3.9 残 %%	①粗砂②酸化③に赤い橙5YR%%	口縁部は外傾して立ち上がり先端が強く外反する。底部はやや不安定な平底である。	型づくりか。口縁部の先端は横撫で。以下は横方向の指撫で。内面はていねいな横撫で。底部は砂底。	①床直。②外面に炭素吸着。
2	杯 須恵	口 (14.2) 器 3.9 残 ほぼ完形	①白色・黒色鉱物②還元③灰白7.5Y%%	口縁部は内彎ぎみに斜め上方に向かって立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部と口縁部の下半は回転を伴う篦削り。	①電燃焼部。②内外面大部分が剥離。
3	杯	口 (17.3) 器 〈3.8〉 残 口縁部%%	①粗砂②酸化③明赤褐5YR%%	口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部は撫で後下半部を横方向に篦削り。内面は撫で。	①電燃焼部。②内外面磨滅。外面に炭素吸着。
4	甕	口 21.0 器 28.9 残 ほぼ完形%%	①粗砂、細砂②酸化③明赤褐5YR%%	口縁部は弧状に弱く立ち上がり外反する。胴部は上部に最大径を有し、底部に向って徐々に細くなる。	口縁部は横撫で。胴部内面は上位が斜め下あるいは横方向の中位から下位は斜め上方向から篦削りする。	①電燃焼部。②全体に炭素吸着。部分的に黒色付着物。
5	甕	口 21.4 器 29.6 残 %%	①粗砂、細砂②酸化③明赤褐2.5Y R%%	口縁部は屈曲してくの字状に立ち上がる。胴部は上位に最大径を有するがやや丸みをもつ。	口縁部は横撫で。胴部外面は中位から下位にかけては縦あるいは斜め方向の篦削り。上位は横方向の篦削り。	①電燃焼部。②下半を中心に磨滅剥離。炭素吸着。
6	甕	口 21.2 器 31.0 残 %%	①粗砂、細砂②酸化③橙5YR%%	口縁部は外反弱く立ち上がるが上半に至り外反度合を増す。胴部は上位に最大径を有し、底部にかけて細い。	口縁部は横撫で。胴部外面は上位を横方向、中位から下位を上から下方向に篦削りを施す。	①電燃焼部。②内外面とも磨滅。二次火熱を受けたか。
7	甕	口 (22.0) 器 30.5 残 %%	①粗砂、細砂②酸化③橙5YR%%	口縁部は屈曲して外反する。胴部最大径は中位のやや上にあり、弱く張り出す。底部は狭少な平底。	口縁部は横撫で。胴部外面は最上位を横方向に撫でた後下位までを3～4回篦削り。内面は横方向のていねいな撫で。上半部は縦方向の指頭圧痕。	①電燃焼部。②外面煤付着。破片状態で再度火熱を受け炭素が剥離した。
8	甕	口 25.0 器 32.6 残 %%	①粗砂、細砂②酸化③橙2.5Y R%%	口縁部は外反弱く立ち上がる。胴部は上位に最大径をもつ球胴である。形状に比して器内は薄い。	口縁部は横撫で。胴部外面は上半を横、斜め下方向の篦削り。下半を斜め上から篦削り。内面は横方向の撫で。	①床直。②下半部を中心に黒斑と煤付着。
9	甕	口 (23.0) 器 〈20.3〉 残 上半部%%	①粗砂、軽石多量②酸化③明赤褐2.5Y R%%	器形は口縁部をはじめ著しく歪む。器内も一定していない。口縁部は弧状に外反する。胴部は長胴である。	口縁部を横撫で後縦方向の篦削りを施したと思われる。	①床直。②内外面磨滅顕著。

10	甕	㊀ 25.5 ㊁〈15.7〉 ㊂上半部	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5YR⅝	長胴。口縁部は歪み楕円状を呈し、弧状に大きく外反する。器肉は厚く先端はつまれたように尖る。	口縁部の横撫で後胴部外面を縦方向に下から上方向に箆削り。内面横方向の撫で。	①環燃焼部。②二次火熱を受け炭素が吸着する。

16号住居（167図、ＰＬ51）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	㊀ 12.4 ㊁〈3.3〉 ㊂口縁部⅓	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は弱く内彎して立ち上がる。底部は丸みをもって口縁部に移行する。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後、下半を不定方向に箆削り。その上に箆撫でを施している。	①埋没土。
2	杯	㊀ (15.5) ㊁〈3.5〉 ㊂ 破片	①粗砂②酸化③橙5YR⅞	器形は偏平か。口縁部は弱く内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を横方向に箆削り。	①埋没土。②器面に炭素吸着。
3	杯 須恵	㊀ (13.3) ㊁ 3.1 ㊂ ⅓	①黒色鉱物粒多量②還元、軟質③灰5Y⅝	口縁部は丸みをもって斜め上方に立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は切り離し後箆削り。口縁部の下位も回転を伴う箆削り。	①埋没土。
4	杯 須恵	㊀ (13.7) ㊁〈3.9〉 ㊂口縁部破片	①長石多量②還元、軟質③灰N⁶/₁	外面はやや丸みをおびて立ち上がる。先端は器肉が薄く外側につまれている。	右回転ロクロ成形。	①埋没土。

17号住居（172図、ＰＬ51）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面 ③その他
1	杯	㊀ (12.8) ㊁〈3.5〉 ㊂ ⅓	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は弱く内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後不定方向の箆削り。	①埋没土。②内外面、特に外面の磨滅顕著。黒色の付着物。
2	杯	㊀ (12.0) ㊁〈3.2〉 ㊂ ⅓	①粗砂②酸化③にぶい橙5YR⅝	口縁部は短く、弱く内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位を除いて不定方向の箆削り。内面はていねいな撫で。	①＋６。②器面剥離。黒色の付着物。
3	杯	㊀ 15.0 ㊁ 4.0 ㊂ ⅔	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	器形は著しく歪み、口縁部は長円形を呈する。口縁部は浅い底部から起き外反して立ち上がる。先端は丸い。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。内面は横撫であるいは撫で。	①埋没土。②器面磨滅。鉄分を含む黒色の付着物。
4	杯	㊀ 14.8 ㊁ 3.9 ㊂ ⅔	①粗砂②酸化③明赤褐5YR⅝	口縁部は歪み長円形を呈する。口縁部の先端は強く外反する。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を不定方向に箆削り。内面には指頭による押えの痕跡がある。	①埋没土。②器面磨滅。
5	杯	㊀ (18.4) ㊁ 6.7 ㊂ ⅓	①粗砂②酸化③にぶい橙2.5YR⅝	口縁部は短く直立ぎみに立ち上がる。底部は丸底で深長である。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後上位の一部を除いて箆削り。内面は中位まで横撫で。以下はていねいな撫で。	①＋10。②内外面の一部に炭素吸着。
6	蓋 須恵	㊀ (11.4) ㊁〈1.3〉 ㊂口縁部⅓	①黒色鉱物粒②還元③灰白5Y⅞	小径。天井部は強く偏平。つまみは欠落している。内面には弱いかえりがつく。	右回転ロクロ成形。口縁部は横撫で。天井部は回転を伴う箆削り調整。	①埋没土。②外面に自然釉付着する。
7	甕	㊀ (23.4) ㊁〈30.5〉 ㊂ ⅓	①粗砂②酸化③橙5YR⅝	口縁部は弧状に外反、先端は丸いが内側が受け口状にそげる。胴部は上位に最大径を有し球状に張る。	口縁部は横撫で。胴部外面は箆削り。上位は横方向、中位から下位は斜め上と斜め下方向が入り乱れている。部分的には撫で状を呈している。	①埋没土。②二次火熱を受けている。炭素吸着。③破片３点を図上復元。

8	甕 須　恵	甕の胴部破片と思われる。長さ6.5cm、幅4.7cm、厚さ0.7cmを測る。割れ口には細かな調整が加えられ、部分的には面取りが施されている。内面には全面に磨耗痕が認められる。用途については不明である。	①埋没土。

18号住居（173図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	⑥〈13.5〉 ⑧〈3.0〉 ⑩口縁部破片	①粗砂、赤色粘土粒②微化③橙5YR5/6	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を不定方向に箆削り。	①埋没土。
2	杯	⑥〈14.4〉 ⑧〈3.2〉 ⑩　破片	①粗砂②微化③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部の内彎は弱く外方に向けて立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を不定方向に箆削り。撫での部分には型肌状を呈している。	①埋没土。
3	高台付杯 須　恵	⑥〈2.9〉 ⑩高台部破片	①白色鉱物粒②還元③灰白7.5Y7/2	口縁部は斜め上方に立ち上がる。高台部は先端が丸みをおびる断面三角形。	右回転ロクロ成形。底部は削り出し後回転を伴う箆削り。高台は口縁部、底部二方向から削り出し高台である。	①埋没土。
4	甕	⑥〈22.0〉 ⑧〈4.9〉 ⑩口縁部破片	①粗砂、細砂②酸化③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は屈曲、外傾して立ち上がる。先端は内側の器肉がやや薄くなり、受け口状に見える。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の箆削り。	①埋没土。

19号住居（174図、ＰＬ52）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	甕	⑥〈31.8〉 ⑧胴部上位～底部	①粗砂、軽石多量②酸化③にぶい黄橙10YR7/2	胴部は長胴である。上位に最大径を有するが大きな変化はなく徐々に細くなる。底部は不安定な平底である。	胴部外面は縦方向に2～3回に分けて箆削り。上半は下から上方、下半は上から下方向である。部分的に撫でている。最下位は横方向の箆削り。	①19住周辺。②二次火熱を受けて赤変している。部分的に炭素吸着。外面に粘土の付着も顕著である。
2	甕	⑥　19.0 ⑧〈15.6〉 ⑩上半部	①粒砂多量②酸化③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は弧状に強くそり返えり丸みのある先端は外側を向く。胴部はわずかに張る。	口縁部を横撫で後、胴部外面を縦方向に箆削り。その後、幅狭い撫で。内面は横方向についていねいな箆撫で。	①＋６。②二次火熱を受け赤変。一部に黒斑か。
3	杯	⑥　12.0 ⑧　3.9 ⑩　完形	①粗砂、輝石②酸化③黒褐2.5Y3/2	須恵器杯身の模倣形態をとる。口縁部は彎曲して内傾する。先端は内側がそげて尖る。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①床直。②器面には炭素吸着。
4	杯	⑥〈13.6〉 ⑧　3.9 ⑩　3/4	①粗砂、輝石②酸化③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部は中位よりやや低い部分に稜をもって立ち上がる。先端は内側が沈線状にそげて尖る。底部は非常に浅い。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。内面は横撫で、撫で。	①19住周辺。②外面には炭素吸着。内面は磨耗、一部に炭素吸着。
5	杯	⑥　11.6 ⑧　4.1 ⑩　完形	①細砂、赤色粘土粒②酸化③橙7.5YR6/6	口縁部は底部との間に稜をもって外傾、中位の稜をへてやや起きる。底部は浅い。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削りと思われる。	①床直。②器面の磨滅顕著。

20号住居（175図、ＰＬ52）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	甕	㊀ 19.4 ㊁ 13.4 ㊂ ⅓	①粗砂②酸化③橙5ＹＲ⅘	口縁部は短く、弱く外傾する。外面の先端には沈線がめぐる。胴部は鉢状を呈し、上位に最大径を有する。	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め上方向からの箆削り。内面は横方向のていねいな撫で。底部外面は箆削り。	①埋没土。②二次火熱を受けている。
2	甕	㊀ (18.8) ㊁ (8.3) ㊂口縁部⅓	①粗砂、細礫、輝石②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ⅘	口縁部は直立ぎみに立ち上がり、中位に至り外反する。先端は外側に沈線がめぐる。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の箆削り。内面は横方向の強い撫で。	①埋没土。②二次火熱を受けている。
3	高台付椀	㊀ 14.3 ㊁ (4.4) ㊂底部欠損	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ⅘	口縁部はやや丸みをもち斜めに立ち上がる。先端は横撫でにより弱い稜がつく。	先端は横撫で。外面は撫で後横あるいは斜め下方向からの箆削り。上半には指頭圧痕が残る。	①竈燃焼部。②器面の一部に炭素吸着。
4	高台付椀	㊁ (3.5) ㊂口縁部下半～高台部	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10ＹＲ⅘	口縁部はやや僅が張り斜め上方に向けて立ち上がる。高台部は断面台形で低い。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台を取り付け。接合部分を横撫でするが底部外面には糸切り痕を残す。	①埋没土。②器面磨滅、一部に炭素吸着。
5	高台付椀	㊀ 14.3 ㊁ 4.8 ㊂ ⅓	①粗砂②酸化③にぶい黄橙10ＹＲ⅘	器形は著しく歪んでいる。口縁部はやや僅が張る。先端は外側につままれる。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台を取り付け。成形は全体にわたり粗雑である。	①竈燃焼部。②内外面とも剥離、磨滅。

21号住居（176図、ＰＬ52）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊀ 12.5 ㊁ 3.3 ㊂ほぼ完形	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ⅘	口縁部の外傾は強く、中位に弱い稜をもつ。先端は丸い。底部は浅い。	口縁部は２回に分けて横撫で。底部外面は不定方向に箆削り。	①竈燃焼部。②内外面剥離、磨滅。炭素吸着。
2	杯	㊀ (12.0) ㊁ (2.8) ㊂ 破片	①粗砂、輝石②酸化③橙5ＹＲ⅘	口縁部は底部との間にわずかな稜をもって外反する。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①埋没土。
3	甕	㊀ (22.1) ㊁ (20.4) ㊂上半部⅓	①粗砂、輝石、軽石多量②酸化③にぶい黄橙10ＹＲ⅘	口縁部は弧状に外反する。先端は丸く外側を向く。胴部は長胴である。	口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向に下から上方向の箆削り。内面は横方向の撫で。	①竈燃焼部。②二次火熱を受ける。炭素吸着。

22号住居（177図、ＰＬ52）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊀ (11.7) ㊁ (3.6) ㊂ ⅓	①粗砂、輝石②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ⅘	口縁部は内弯の度合弱く立ち上がる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を不定方向に箆削り。	①竈燃焼部。②器面磨滅。③内面に刻書。
2	甕	㊀ (22.0) ㊁ (6.8) ㊂ 破片	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ⅘	口縁部は屈曲して外反する。先端は丸く外側にそり返える。胴部は張る。	口縁部は横撫で。胴部外面は横方向の箆削り。内面は横方向の撫で。	①竈燃焼部。

23号住居（162図、ＰＬ52）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊐〈13.9〉 ㊒ 4.0 ㊓ ¾	①相砂少量②酸化③にぶい褐7.5ＹＲ⅝	口縁部は短く弱く外傾、先端はつまれる。	口縁部は横撫で。底部外面は撫で後下半を不定方向に箆削り。	①＋６。②器面に炭素吸着。

１号土坑（181図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊐〈13.8〉 ㊒〈2.0〉 ㊓ 破片	①粗砂、輝石②酸化③橙５ＹＲ⅝	小破片で形状は断定しかねるが口縁部は屈曲して弱く外傾する。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①埋没土。②器面磨滅。

２号土坑（181図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	甕 須恵	㊒〈12.5〉 ㊓口縁部～胴部の破片	①白色鉱物粒②還元③灰N6/	口縁部は緩やかに屈曲して外反するか。胴部は丸く張る。	紐づくり。ロクロ調整。胴部外面は平行の叩き目後撫で。内面には同心円の当て目が認められる。	①埋没土。

１号溝（186図）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	甕	㊐〈19.6〉 ㊒〈3.5〉 ㊓ 破片	①相砂少量、輝石②酸化③橙５ＹＲ⅝	口縁部はコの字状を呈すると思われ、先端は受け口状に直立する。	口縁部は中位に指頭による撫でを残し、他は横撫でが施される。	①埋没土。

２号溝（186図、ＰＬ52）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊐〈11.7〉 ㊒ 4.6 ㊓ ¾	①細砂、赤色粘土粒②酸化③橙５ＹＲ⅝	口縁部は底部との間に稜をもって外傾する。底部は深く、丸みをおびる。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①埋没土。②器面磨滅。外面に煤付着か。
2	杯	㊐〈12.6〉 ㊒ 4.1 ㊓ ¾	①粗砂、赤色粘土粒②酸化③橙５ＹＲ⅝	口縁部は底部との間に稜をもって外反する。底部は浅い。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の箆削り。	①＋10。②器面磨滅。

4号溝（186図、ＰＬ52）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	瓶類 底	㊃ 7.8 ㊇ 〈7.1〉 ㊊口縁部欠	①白色鉱物粒をはじめとした粗砂②還元③灰N4/	フラスコ型の瓶と思われる。口縁部は緩やかに外反する。先端は2段の稜をなし尖る。中位に2条の沈線がめぐる。	右回転ロクロ成形か。	①＋10。②内外面に自然釉付着。

遺構外の出土遺物（187図、ＰＬ52）

番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調	器形の特徴	成・整形、技法の特徴	備考 ①出土状態 ②器面③その他
1	杯	㊃ 11.7 ㊇ 5.1 ㊊ 〃	①赤色粘土粒②酸化③橙5ＹＲ⅞	口縁部は底部との間に稜をもち強く外反する。中位よりやや上に極く弱い稜をなす。底部は深見である。	口縁部は横撫で。底部外面は不定方向の荒削り。	①中央穿孔。②器面はやや磨滅。
2	高台付椀	㊇ 〈3.1〉 ㊊口縁部下半欠	①粗砂②酸化③断面は灰白7.5Ｙ⅞	口縁部は斜め外方に立ち上がる。	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台取り付け。接合部を横撫でするが底部外面に糸切り痕を残す。	①表採。②器面風化処理。③高台剣器後も利用か。
3	鉢 陶器	㊃ 〈15.0〉 ㊇ 〈3.7〉 ㊊破片	①精選されている②還元	口縁部は緩やかに外方に向けて立ち上がる。	ロクロ回転成形。	①表採。②灰釉の色、によい黄橙10ＹＲ⅞。
4	蓋類 底	㊃ 〈24.8〉 ㊇ 〈2.8〉 ㊊口縁部欠	①長石②還元③灰N6/	天井部は平坦。口縁部は緩やかにカーブして外傾する。先端は内側にそげ、かえりがつく。	右回転ロクロ成形。天井部は周縁部を回転を伴う荒削り。	①表採。
5	甕	㊃ 〈19.0〉 ㊇ 〈16.7〉 ㊊上半部欠	①粗砂②酸化③にぶい橙5ＹＲ⅞	口縁部は直立ぎみに立ち上がり、先端で屈曲、外傾する。胴部は緩やかに丸みをもつ。	口縁部は横撫で。胴部外面は中位から上位を斜め下から、下位を斜め上から荒削り。内面は撫で。部分的に櫛状の荒が使用されたか。	①北搬乱。②胴部外面に煤付着。
6	甕	㊃ 〈19.0〉 ㊇ 〈14.9〉 ㊊上半部欠	①粗砂、細砂②酸化③明赤褐2.5ＹＲ⅝	口縁部は外傾弱く立ち上がり、中位で屈曲、外反する。先端は外側がそげる。	口縁部は撫で後部分的に横撫で。胴部外面は上位を横方向、下位を縦方向に荒削り。内面はていねいな横撫で。	①表採。②内面は炭素吸着。
7	羽釜	㊃ 〈11.8〉 ㊇ 〈3.3〉 ㊊ 破片	①粗砂、赤色粘土粒②酸化③にぶい黄橙10ＹＲ⅞	口縁部はわずかに内弯して立ち上がる。先端は平坦な面をなす。鍔は断面三角形。先端は丸い。	口縁部は横撫で。鍔を接合後、周辺を撫でている。内面も撫で。	①表採。②内外面の一部に炭素吸着。
8	甑？	㊇ 〈16.5〉 ㊊胴部破片	①粗砂多量②酸化③橙7.5ＹＲ⅝	胴部は緩やかに張る。	外面は下から上に縦方向の荒削り。部分的に撫で。内面は粗い撫で。	①表採。②内外面とも二次火熱を受け、炭素吸着。③下位に径8mmの穿孔。焼成前か。
9	甕	㊇ 〈3.9〉 ㊊胴部破片	①粗砂②酸化③にぶい橙7.5ＹＲ⅞	胴部の最上位であり、屈曲して口縁部に続くと思われる。	胴部には8条の横縄文が認められる。その下には懸垂文が施されるか。	①表採。
10	瓦	平瓦（女瓦）の一部で側面の一部が残存している。長さ6.1cm、幅6.4cm、厚さ2.1cmを測った。胎土には夾雑物が多く、焼成も軟質である。色調はにぶい褐7.5ＹＲ⅝である。裏面・側面は撫でられている。表面には擬れ砂の痕跡が認められる。				①中央穿孔。②炭素吸着。

荒砥洗橋遺跡
荒砥宮西遺跡
昭和55年度県営圃場整備事業荒砥南部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

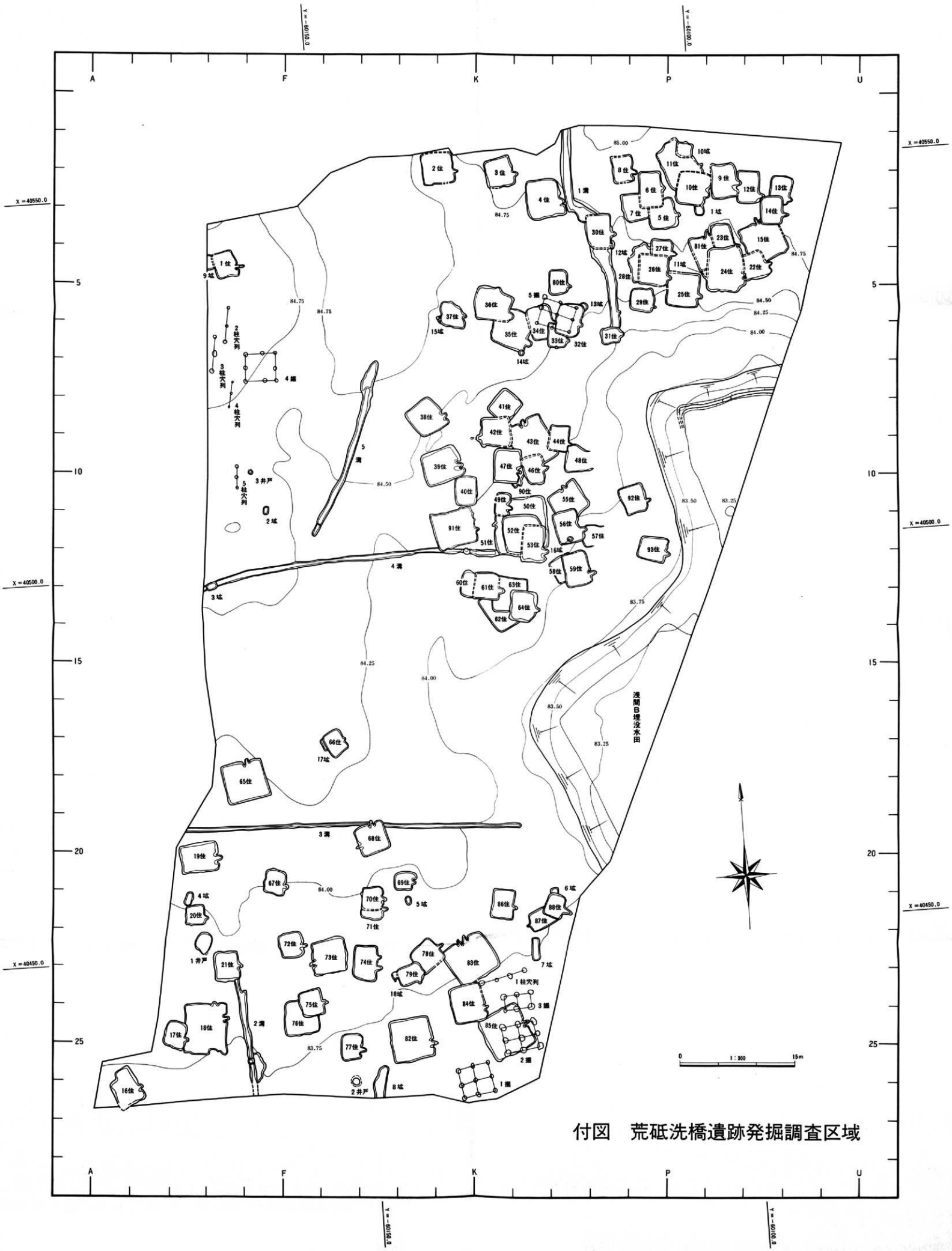
平成元年3月26日　印刷
平成元年3月31日　発行

編集・発行／群馬県教育委員会
〒371　前橋市大手町1丁目1番1号
電話（0272）23－1111(代表)

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377　勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2
電話（0279）52－2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社

©1989



付図　荒砥洗橋遺跡発掘調査区域